北原遺跡・上久保遺跡

—東上秋間原市線道路改築工事　下仁田安中倉淵線単独地方特定道路整備工事
下仁田安中倉淵補助道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1 9 9 6

群馬県安中市教育委員会

北原遺跡・上久保遺跡

—東上秋間原市線道路改築工事　下仁田安中倉淵線単独地方特定道路整備工事
下仁田安中倉淵補助道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

北原遺跡・上久保遺跡遠景(1)

北原遺跡・上久保遺跡遠景(2)

序

安中市は群馬県西毛地域のほぼ中心、浅間山、妙義山の裾野に位置する田園都市です。北原遺跡・上久保遺跡は市の北西部東上秋間地区に位置します。東上秋間地区は東西にのびる秋間丘陵のほぼ中央にあり、秋間川、久保川、苅稲川などにより浸食された舌状台地上に北原遺跡・上久保遺跡は位置します。

今回の発掘調査は、北陸新幹線（仮称）新安中駅へアクセスする県道建設事業に先立ち行ったものです。発掘調査により、縄文時代から江戸時代までこの地域には人々が生活していた跡が確認されました。

発掘調査は、このような遺跡の様子を後世の人々に伝えてゆくために記録保存の措置を講ずるものです。

こうした、埋蔵文化財はかけがえのない郷土の遺産であります。市民の皆様にも郷土の歴史を学習していただけるよう、社会教育、学校教育の場で広く活用を図り、文化財愛護の精神を広く普及するよう努めてゆく所存であります。

終わりに、発掘調査に御協力していただいた地元の皆様や、調査に従事していただいた大勢の方々にはこの場を借り厚く御礼を申し上げたいと存じます。

平成８年３月

安中市教育委員会

教育長　山　中　誠　次

例　言

1　本書は安中土木事務所が実施した東上秋間原市線道路改築工事、下仁田安中倉淵線単独地方特定道路整備工事、下仁田安中倉淵線補助道路改築工事に伴う北原遺跡（略称Ｂ－３）及び上久保遺跡（略称Ｂ－４）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は平成５年度、平成６年度に実施し、遺物整理は平成７年度に実施した。

3　発掘調査は安中市教育委員会社会教育課文化財係主事千田茂雄が担当した。

4　遺物整理及び本書の編集、執筆は千田が行った。石材・地質分析、遺跡の地理的環境は磯貝基一（元県立高校教諭）に委託して行った。

5　遺構の写真撮影は主に千田が行った。航空写真・遺構実測図は㈱アイシーに委託して行った。また遺物の写真撮影は、石井靖、千田が行った。

6　遺構の版組は、千田、石井、氏家房子、古立真理子、稲葉恵美子、須藤明子、原田加代が行った。
　遺物の実測・トレース版組、写真図版の作成は、千田、石井、氏家房子、古立真理子、須藤明子、原田加代が行った。

7　調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は㈱アイシーに委託して実施した。

8　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

9　発掘調査及び遺物整理の期間中多くの方々に有益な指導、助言、協力を行っていただいた。また発掘調査及び遺物整理に従事していただいた方に厚くお礼申し上げます。

凡　　例

1　北原遺跡全体図の縮尺は１/200である。
　上久保遺跡全体図の縮尺は１/200である。
2　遺構実測図の縮尺は１/80。
3　遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
　土器：１/４
　小形石器：２/３、中形石器：１/３、大形石器：１/６
4　石器実測図中の記号は石材を示し、主な略号は以下のとおりである。
　Ob：黒曜石　Ch：チャート　Sh：頁岩　HSh：硬質頁岩
　Sch：輝緑凝灰岩　BAn：黒色安山岩　An：安山岩　SS：砂岩
　Sc：結晶片岩　GrR：緑色岩類　Tf：凝灰岩
5　石器実測図中の細密平行線は使用痕・研磨痕の範囲を示す。
　磨石・凹石・石皿では基本的に使用部分を白抜きとし、現礫面は点描とした。ただし、一部使用部分を含め点描で表現したものもある。そして、凹石の場合、凹と磨面の切り合い関係を示すため、凹―磨では凹の範囲を波線で表現し、磨―凹では実線で表現した。
　石棒等は点描により表現した。
6　土層説明中での記号、略称は次のとおりである。
　色調＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）
　しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし
　混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし
　As-A：浅間Ａ軽石、As-B：浅間Ｂ軽石、YP：板鼻黄色軽石
　RB：ロームブロック、RP：ローム粒子、WP：白色粒子
　ReP：赤色粒子
7　石器の分類は、大下原遺跡・吉田原遺跡1993の分類基準に基づく。

本文目次

序
例　　言
凡　　例
本文目次
挿図目次
図版目次
Ⅰ　調査に至る経過……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境……1
Ⅳ　層　　序……6
Ⅴ　北原遺跡……7
Ⅵ　上久保遺跡……8
Ⅶ　東上秋間遺跡群周辺の地質と石器石材……65

Ⅰ　調査に至る経過

平成４年安中土木事務所より、東上秋間原市線道路改築工事、下仁田安中倉淵線単独地方特定道路整備工事、下仁田安中倉淵線補助道路改築工事に係る埋蔵文化財の取扱に関する協議を行いたいとの申し出が市教育委員会にあった。該当地域は、遺跡詳細分布調査による周知の遺跡地内のため、計画変更をも含め安中土木事務所と協議を行った。しかし、この道路は北陸新幹線（仮称）新安中駅へのアクセスの道路であること、また群馬県及び地元での要望も強く地域活性化のためぜひ実施したい事、計画変更にしても遺跡地内を回避することが難しいことなどから、埋蔵文化財に影響を受ける部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

Ⅱ　調査の方法と経過

まず最初にグリッドの設定を行った。調査区全体の範囲に100m×100mの大グリッドと、４m×４mの小グリッドを併用して設定した。グリッドの呼称は北西隅を基点として北から南へアルファベットでA、B、C…Y、西から東へ算用数字で１、２、３…と４進法（m）で呼ぶことにした。そして、南北方向はアルファベットの先頭に１、２、３…と算用数字を付けて、100mでアルファベットが一巡するようにし、Aのラインを大グリッドのラインとした。また、東西方向は25^n+1（n＝０、１、２、３）のラインを大グリッドのラインとした。そして、座標値は国家座標に取り付けた。北原遺跡のⅠ－７はX＝39680、Y＝－88100、Ⅰ－37はX＝39680、Y＝－87980である。上久保遺跡のP－10はX＝39780、Y＝－88360、２F－25はX＝39720、Y＝－88300である。

発掘調査は、平成５年６月１日から平成６年３月25日、平成６年４月１日から平成７年３月25日までの間行われた。調査はまずバックホーによりⅣ層上面までを掘削し、その後人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。また確認された遺構は順次精査を行った。確認された遺構は航空写真測量により実測を行った。また必要に応じて写真測量及び透明なビニールへの直接の転写方による土層断面図を作成した。遺物の取り上げは基本的に各遺構ごとに行った。住居址については、確認された住居を16に分割し、各層ごとに分層して取り上げる16分割分層方式にて行った。

この他遺構以外の部分については、グリッドごとに取り上げた。また、必要に応じて遺構、遺物の写真撮影を行った。

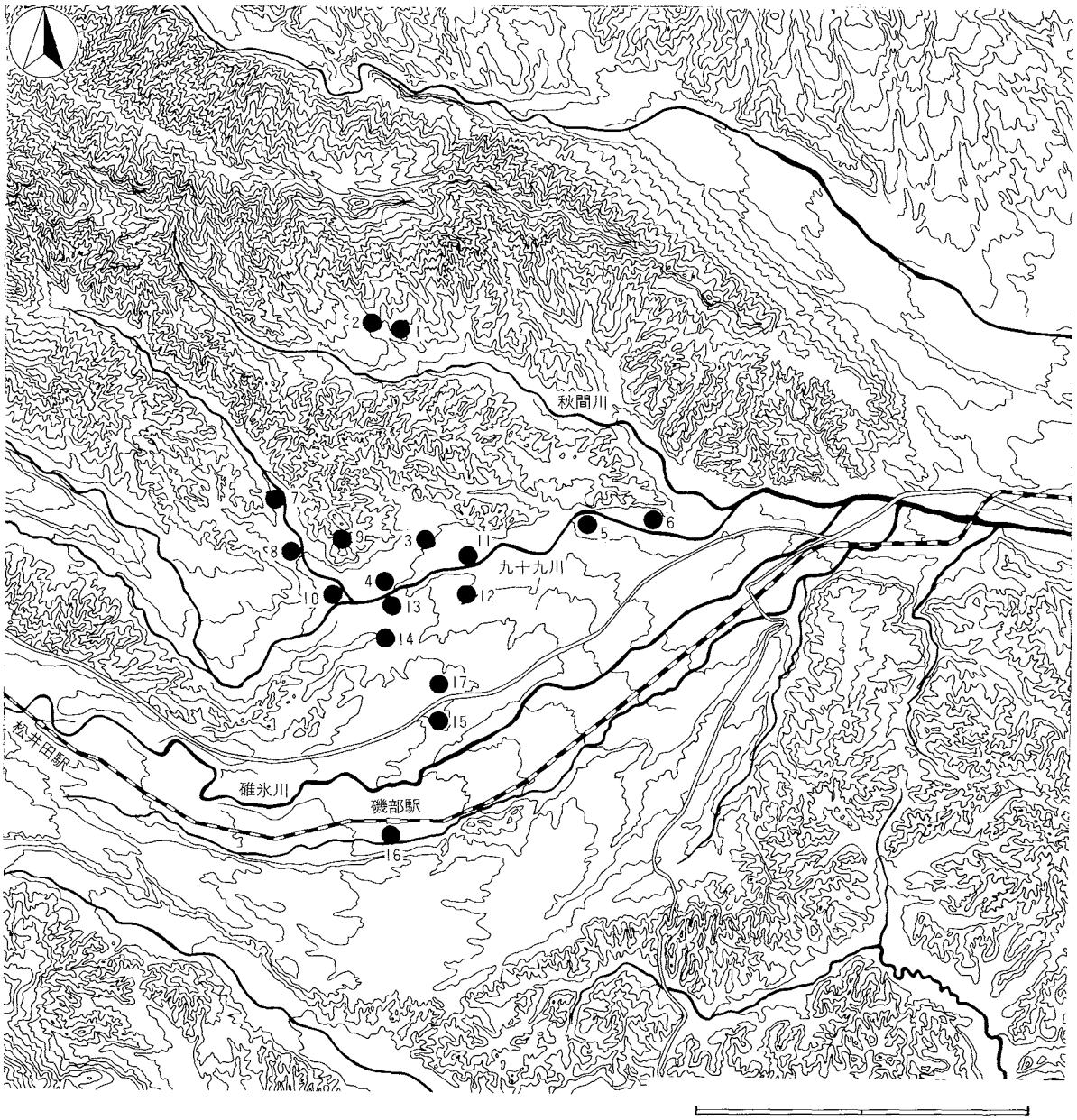
遺物整理は、平成７年５月１日から平成８年３月25日まで実施した。作業は、遺物の水洗・注記→実測・拓本→トレース・写真撮影の順で行い、並行して遺構図面の整理、写真整理を行った。

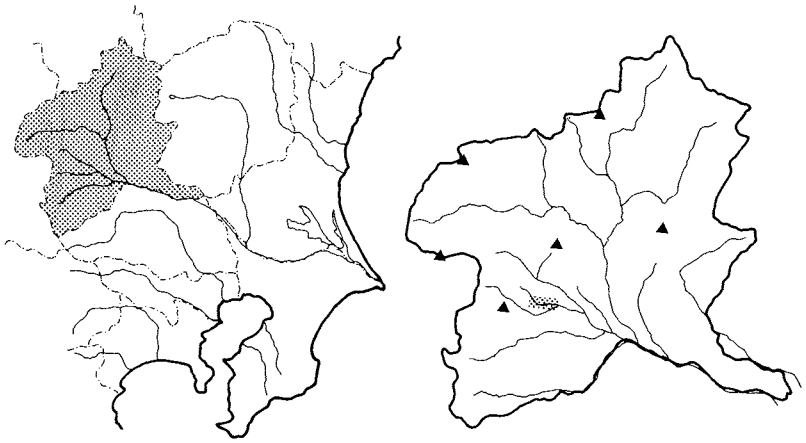
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡のある秋間地区は、安中市の北部榛名火山の南に位置し、東流する烏川と秋間川に挟まれた秋間丘陵の南面にある。秋間丘陵の中をほぼ東西に稜線が連なり、南を秋間川が支流の般若沢川、久保川、神水川、苅稲川、日向川などを集めて東流している。支流の多くは秋間川の左岸にあって、秋間丘陵を浸食していくつもの舌状地形を形成している。秋間川流域には、小規模な砂礫堆積物からなる沖積低地

が河川にへばりつくように分布し、主な水田として耕作されている。集落の多くは標高150m～300mのところにあって、秋間川流域近くに分布している。本遺跡は秋間川の左岸にあり、秋間地域のほぼ中央に位置している。

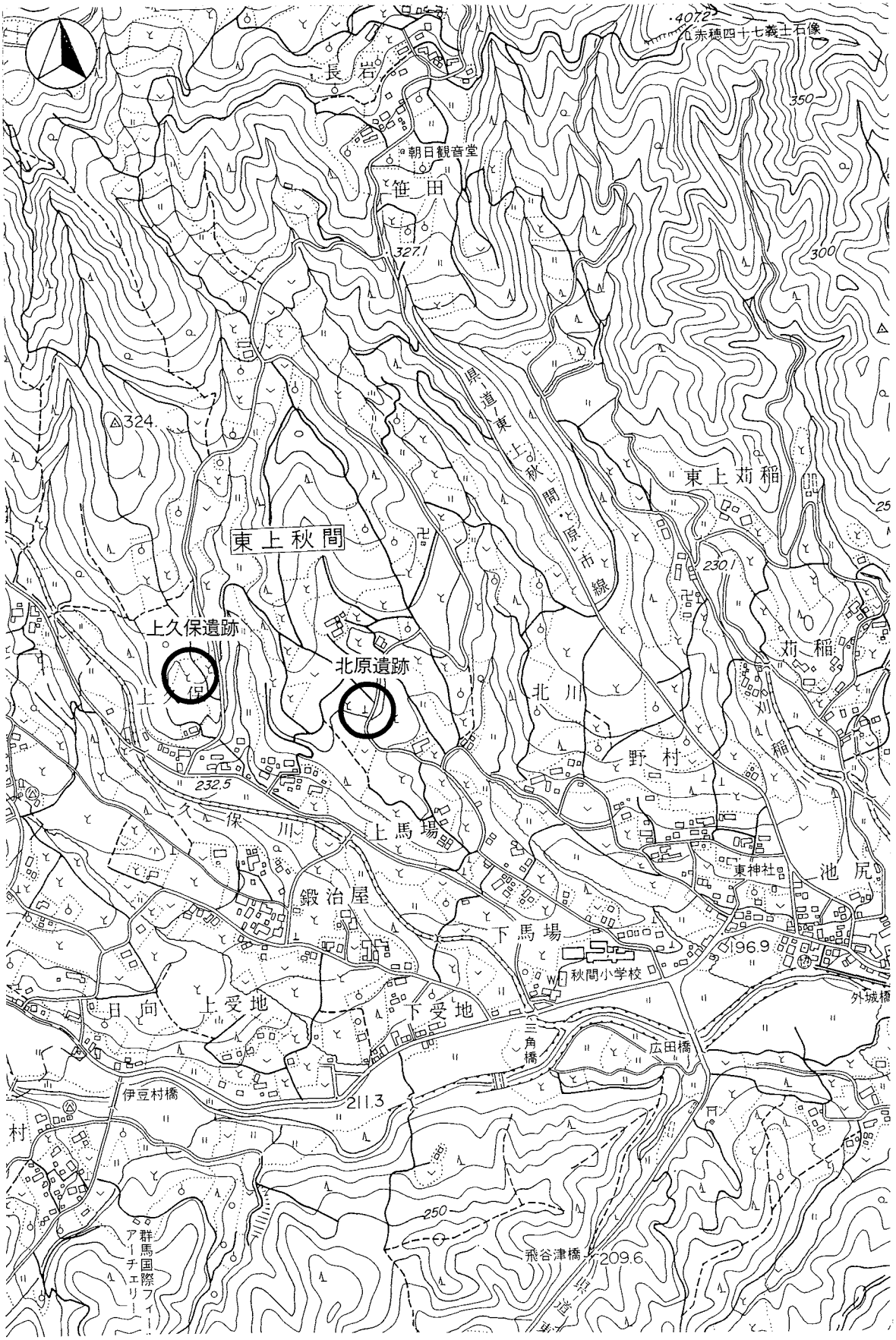
次に、本遺跡の周辺の遺跡を概観してみたい。本遺跡の周辺には北陸新幹線建設に伴い群馬県埋蔵文化財調査事業団が神水遺跡、笹田遺跡、稲貝戸遺跡、中島遺跡、中秋間甲木ノ巣谷津Ⅰ遺跡の５遺跡を発掘調査している。これらの遺跡からは、近世前半から後半の水田と思われる遺構や炭窯が検出されている。秋間地区の市教委での発掘調査例は本遺跡以前には１例のみで、下受地十二遺跡がある。この遺跡からは縄文時代前期、中期、後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構と遺物が確認されている。このほか周辺には二軒茶屋古墳、磯貝塚古墳、旧秋間村７号墳、万福原古墳など、７世紀から８世紀にかけての古墳が多く存在している。また秋間地区は古くから秋間古窯址群として知られ苅稲遺跡や瓦窯址の八重巻窯址、平成元年に発掘調査した二反田遺跡など数多くの窯址が存在している。さらにこの地域には中世城館址が数多く存在している。



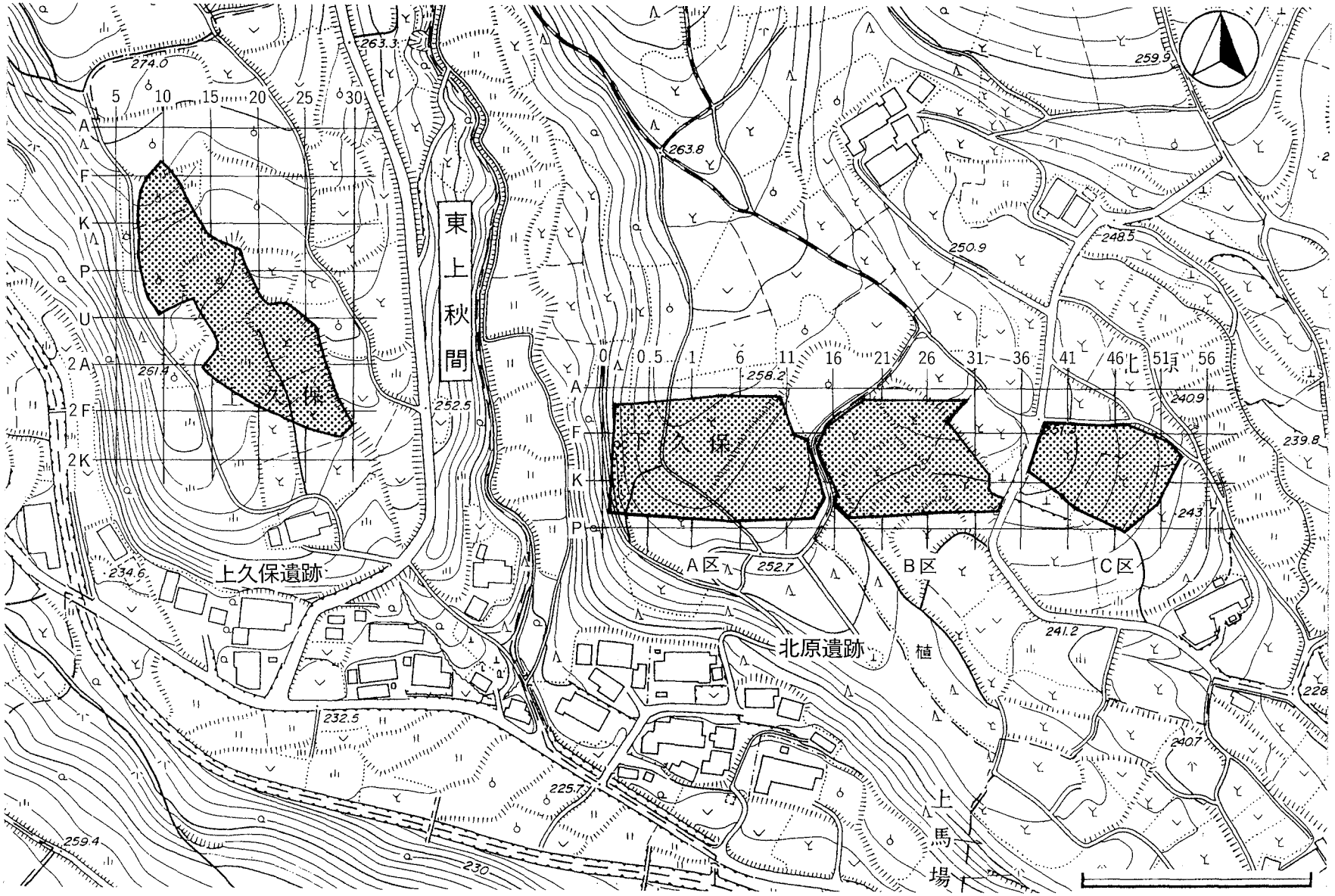


1．北原遺跡
2．上久保遺跡
3．平成４年度九十九川沿岸遺跡
　　井ノ尻・広田
4．平成３年度九十九川沿岸遺跡
　　田浦・宿路・山王前・前原・鍛冶屋
　　後閑３号墳
5．荒浜遺跡
6．大島田遺跡
7．三反田遺跡
8．如来堂遺跡
9．後閑城
10．深町遺跡
11．広川遺跡
12．杉名薬師遺跡
13．嶺・下原遺跡
14．榎木畑遺跡
15．簗瀬二子塚古墳
16．田中田・久保田遺跡
17．清水遺跡

第１図　東上秋間遺跡群周辺の地形図



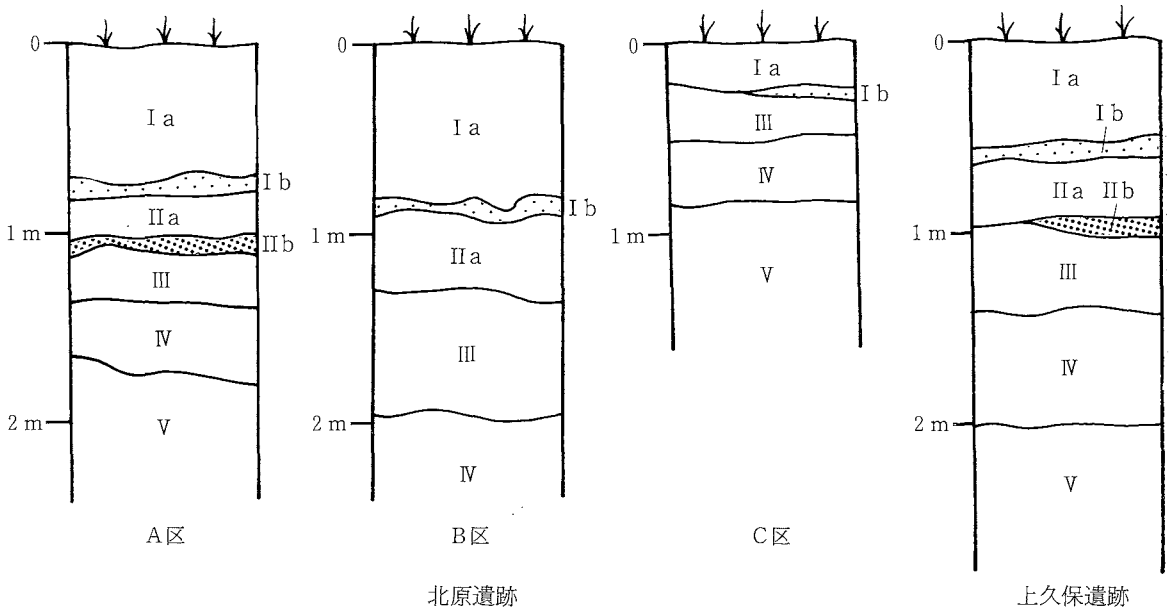
第2図　遺跡位置図（1：10,000）


東上秋間
上久保
下久保
上久保遺跡
北原遺跡
A区
B区
C区
上馬場
5
10
15
20
25
30
0
0.5
1
6
11
16
21
26
31
36
41
46
51
56
A
F
K
P
U
2A
2F
2K
274.0
263.3
263.8
259.5
250.9
248.5
261.4
252.5
258.2
240.9
239.8
243
252.7
234.6
241.2
232.5
225.7
240.7
259.4
230

第3図　調査区設定図

Ⅳ 層　　序

北原遺跡・上久保遺跡の基本層序は第４図のとおりであり、土層説明は第２表のとおりである。



第４図　基本層序柱状図

第２表　基本土層説明

	層　　名	色　調	混　　入　　物							備　　考
			しまり	粘性	ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	As-A	As-B	
Ⅰa層	黒褐色土層		△	△				◎		
Ⅰb層	灰白色軽石層	Ⅰa＜Ⅰb	×	×				◎		As-A純層
Ⅱa層	黒　色　土　層	Ⅰb＞Ⅱa	△	△					◎	
Ⅱb層	灰褐色土層	Ⅱa＜Ⅱb	×	×					◎	As-B純層
Ⅲ層	暗褐色土層	Ⅱa＜Ⅲ	△	○						
Ⅳ層	暗褐色土層	Ⅲ＜Ⅳ	○	○	※		※			
Ⅴ層	黄褐色粘質土層		◎	◎	◎	○	※			

Ⅴ　北原遺跡

1　遺跡の概要

北原遺跡は計画道路部分に沿って東西方向に長く、現道により調査区が途切れ３つの部分に分かれるため、西からＡ区、Ｂ区、Ｃ区として調査を行った。

Ａ区からは縄文時代の住居址２軒、平安時代の住居址４軒を、Ｂ区からは古墳時代の住居址１軒、平安時代の住居址３軒、土坑、ピット多数を、Ｃ区からは平安時代の住居址４軒、掘立柱建物址１軒、土坑、ピット多数を確認した。このほかＡ区には、時期及び性格等不明の礫の集中箇所が確認された。平面プランは、拳大から大きなもので直径40cm程の礫を不規則に列べた状態で、長方形を呈するように見える。この礫に伴う状態で遺物の出土はなかった。

調査区全体をとおし縄文時代はＡ区より住居址が２軒、古墳時代はＢ区より住居址が１軒と遺構の数は少ない。調査区北側に遺構の広がりも考えられるが、遺構の密度はかなり薄いと思われる。いわゆる集落とは考えづらく、どの様な性格を持っているものか、今後の周辺調査の課題としたい。

平安時代の遺構については、住居址11軒、掘立柱建物址１軒、土坑、ピット多数を確認している。遺構は調査区北側に広がるものと思われ、谷を囲む形で集落は北に広がるものと考えられる。遺物は各住居址ともに出土量は少なかった。

Ⅵ　上久保遺跡

1　遺構の概要

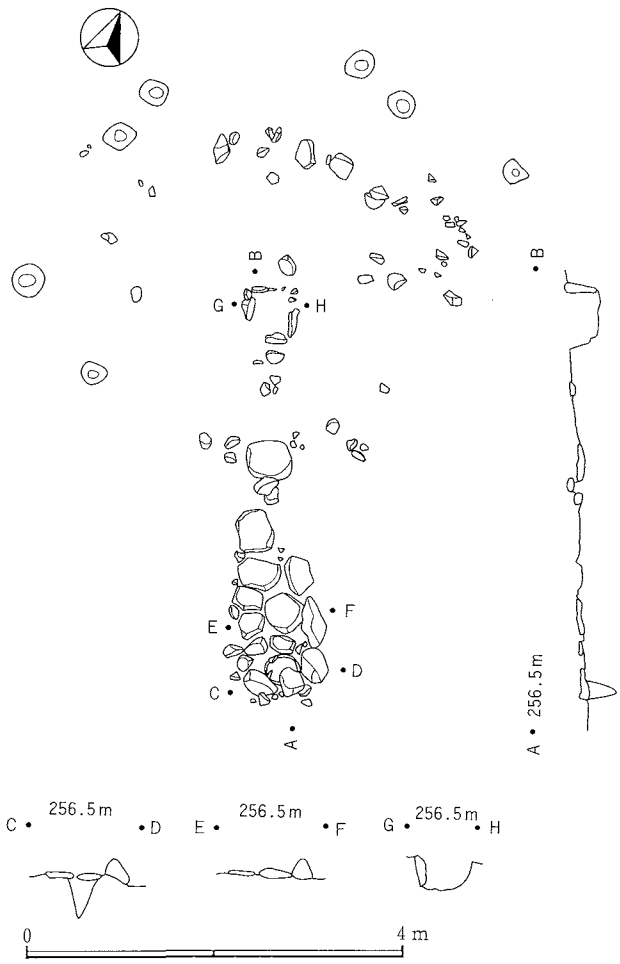
上久保遺跡からは、平安時代の住居址、中世の井戸・水路・竪穴状遺構及びこれらの遺構の時期と思われる谷と沢筋を検出した。

平安時代の住居址は、谷が沢筋に落ち込んでいく傾斜地に1軒検出した。柱穴、竈は確認できず、遺物の出土も少量であった。

谷は土石流などにより埋没していった状態が確認され、土石流と共に板碑を数点確認した。この谷の沢筋に沿って井戸、水路を検出した。井戸は周りを石と丸太材によって組まれていたようで、その一部を確認した。また井戸からはかなりの勢いで水が湧き出していて、土層断面をとることができなかった。水路は2本確認された。M－1号水路は井戸からのびており、この水を誘導するためのものと考えられる。途中流されたと思われる板碑を3点検出した。M－2号水路は谷側の一部に2段の石垣を設けている。また底面の一部には柵列を確認した。水路はいずれも谷筋に沿いながら進んでいて、一部分切れてはいるが本来1つの水路として機能していたことが推測される。

沢筋にはかなり多くの礫が流れ込んでいて、土石流が多かったと考えられる。これらの礫に混ざって板碑も流されてきており、しっかりとした板碑を4点確認した。

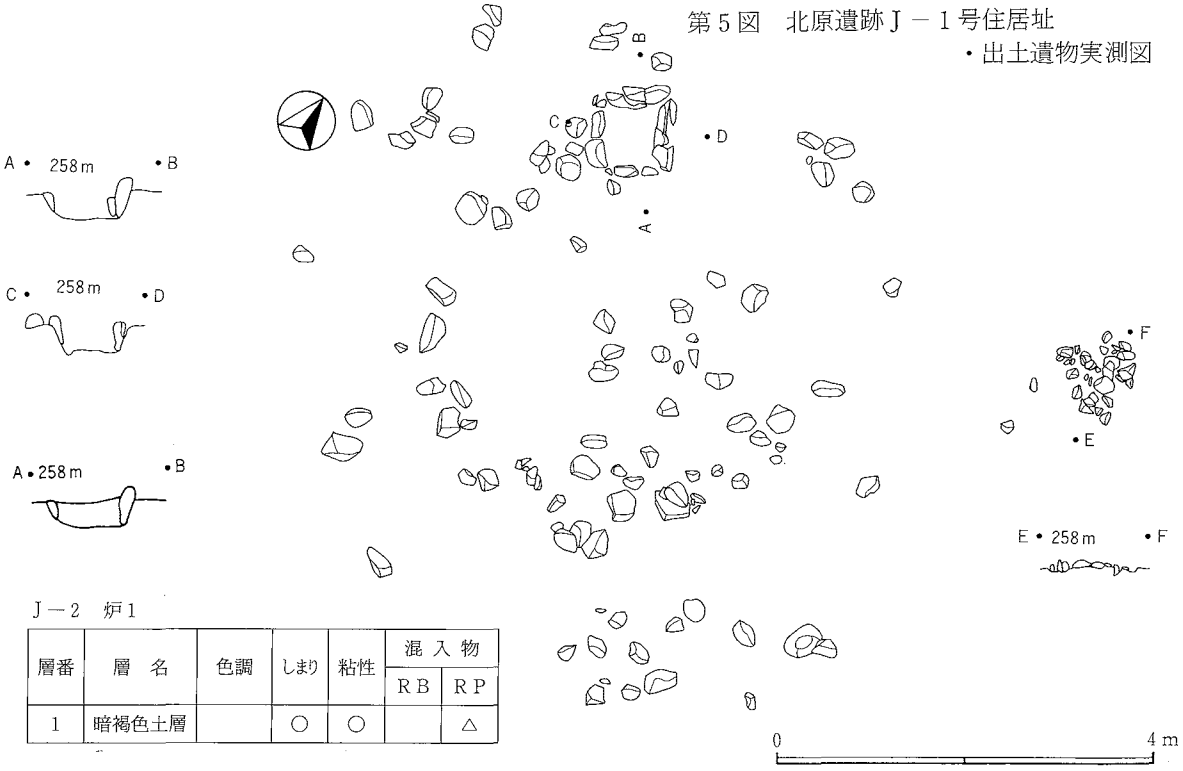
遺物の検出は極端に少数であった。ほとんどがグリッド遺物としての検出で、遺構に伴ってはいないが、他の遺物に比べて砥石の出土数の多さが注目される。



J－1　炉1

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	暗褐色土層		○	○		△
2	茶褐色土層	1＜2	○	○	○	

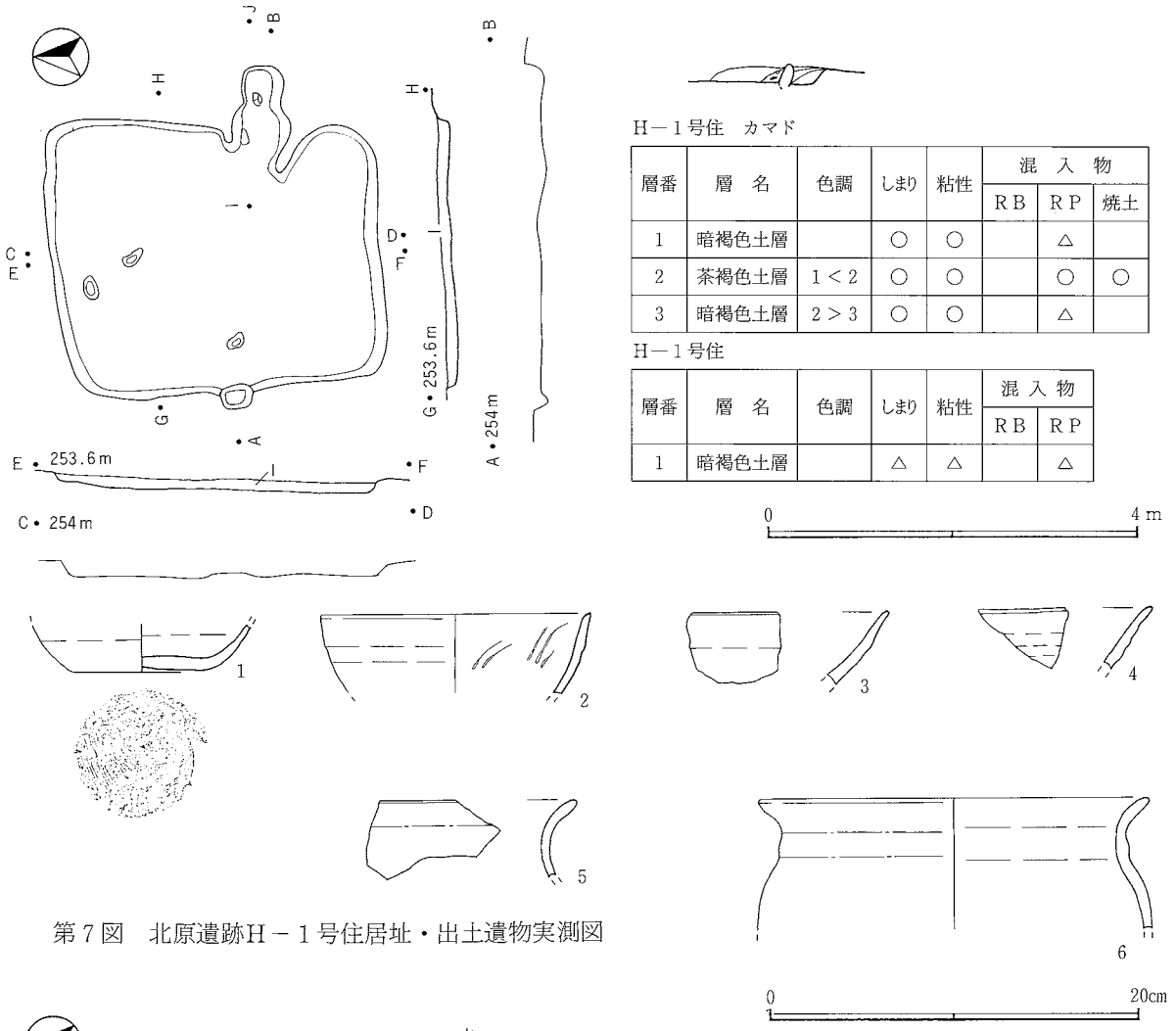
第5図　北原遺跡J－1号住居址
・出土遺物実測図



J－2　炉1

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	暗褐色土層		○	○		△

第6図　北原遺跡J－2号住居址実測図



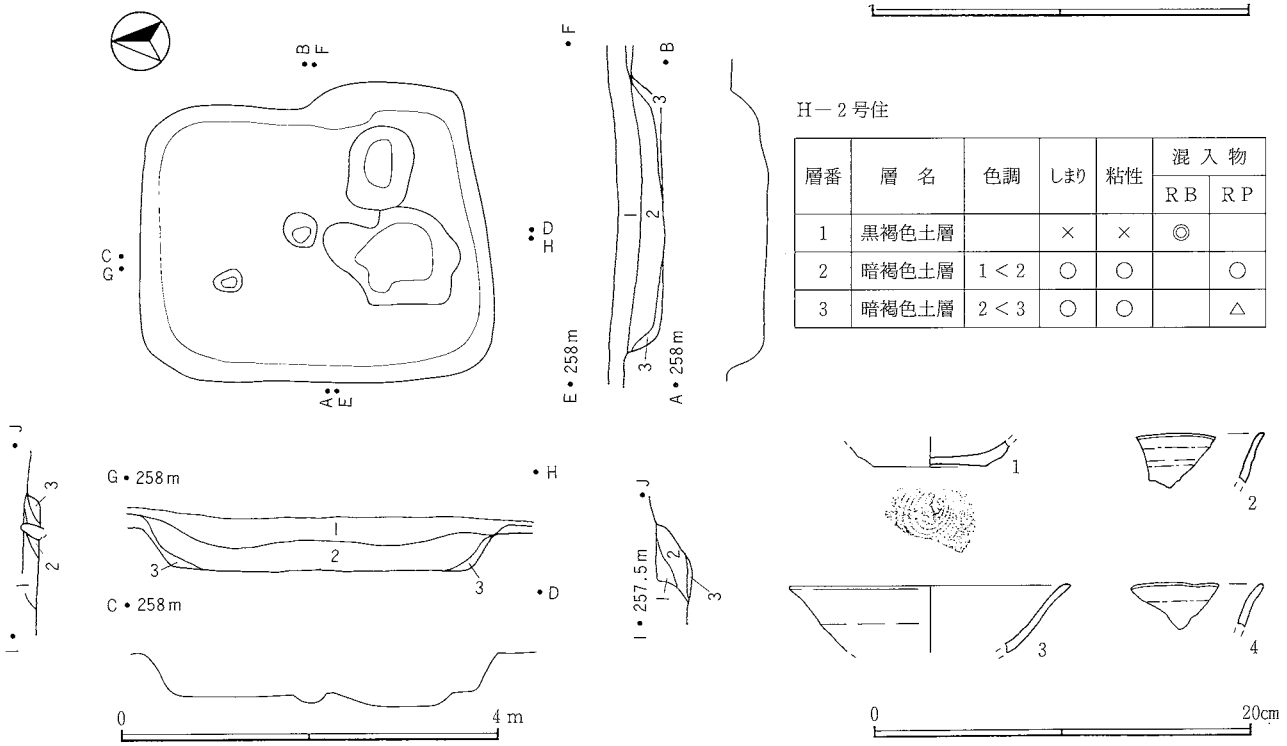
H－1号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物		
					RB	RP	焼土
1	暗褐色土層		○	○		△	
2	茶褐色土層	1＜2	○	○		○	○
3	暗褐色土層	2＞3	○	○		△	

H－1号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	暗褐色土層		△	△		△

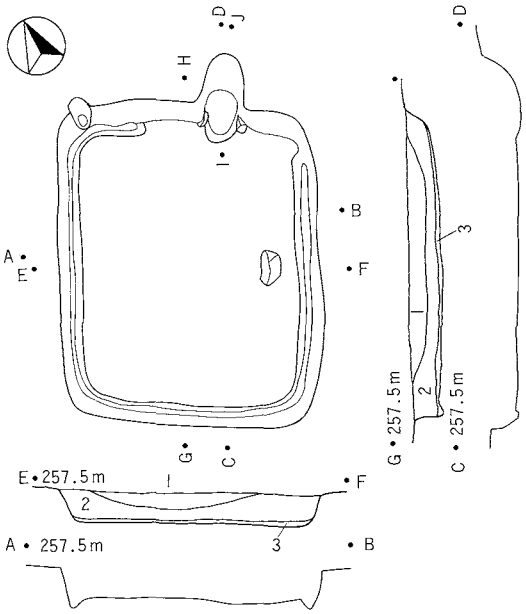
第7図　北原遺跡H－1号住居址・出土遺物実測図



H－2号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		×	×	◎	
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○
3	暗褐色土層	2＜3	○	○		△

第8図　北原遺跡H－2号住居址・出土遺物実測図



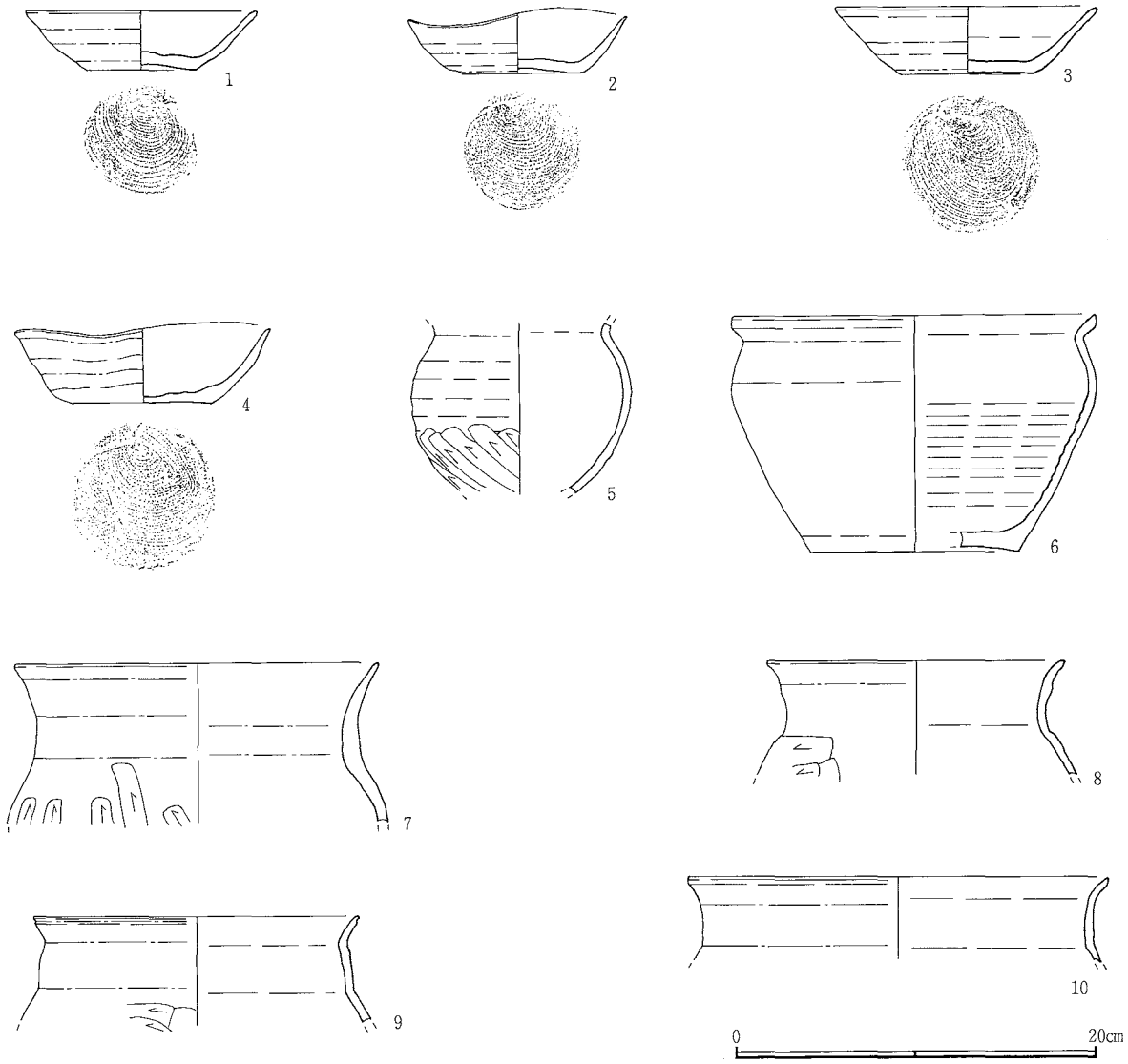
H－3号住　カマド

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物		
					RB	RP	焼土
1	暗褐色土層		○	○			
2	茶褐色土層	1＜2	○	○			△
3	赤褐色土層	2＞3	×	×			△

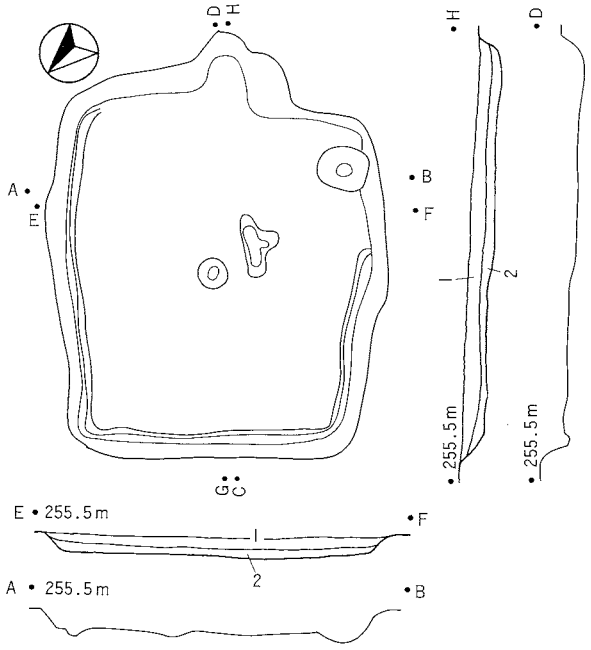
H－3号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混 入 物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		○	○		◎
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○
3	茶褐色土層	2＜3	○	○		△

0　4m

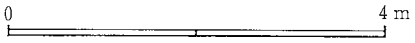


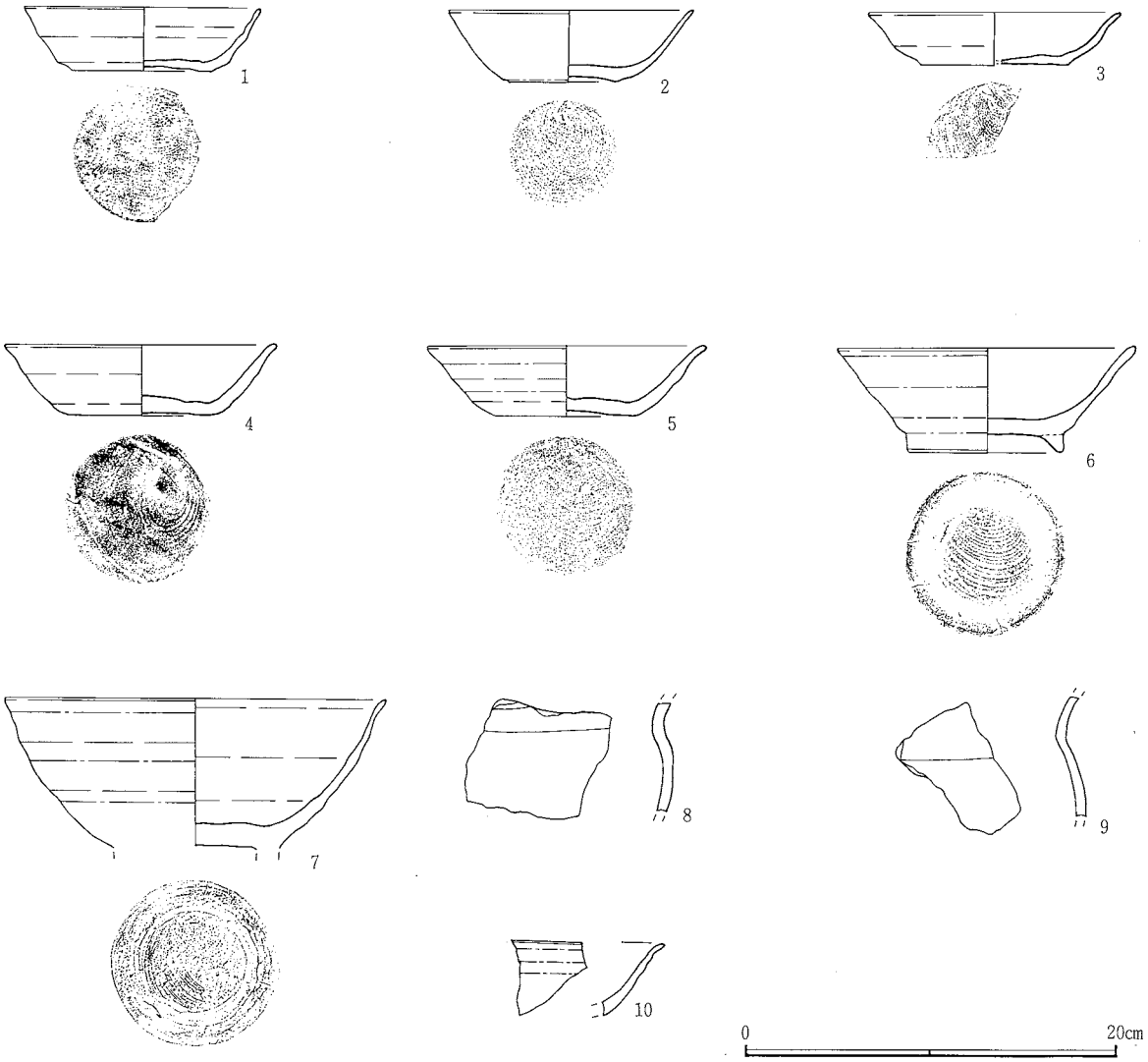
第9図　北原遺跡H－3号住居址・出土遺物実測図



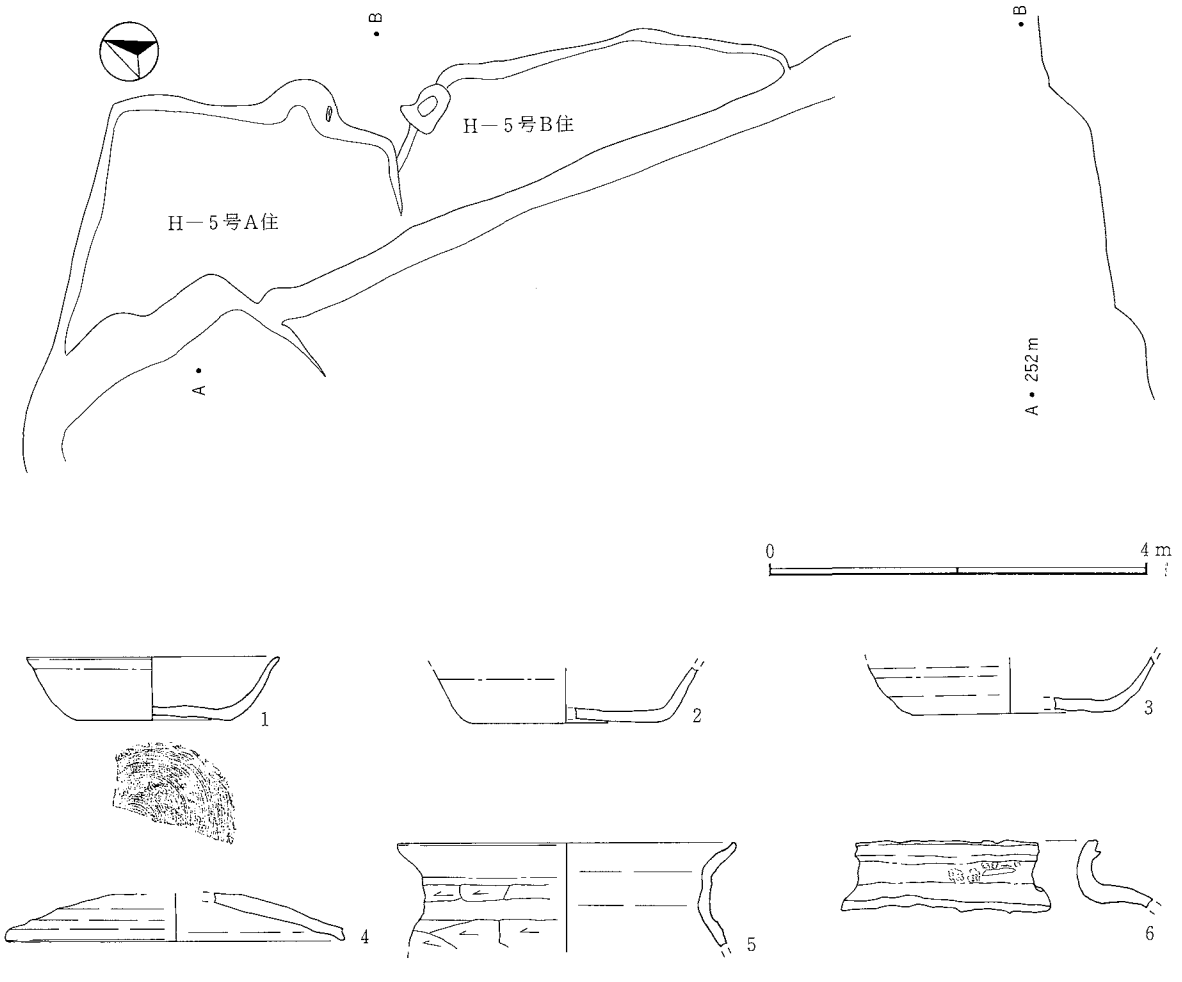
H－4号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	暗褐色土層		○	○		△
2	茶褐色土層	1＜2	○	○	○	

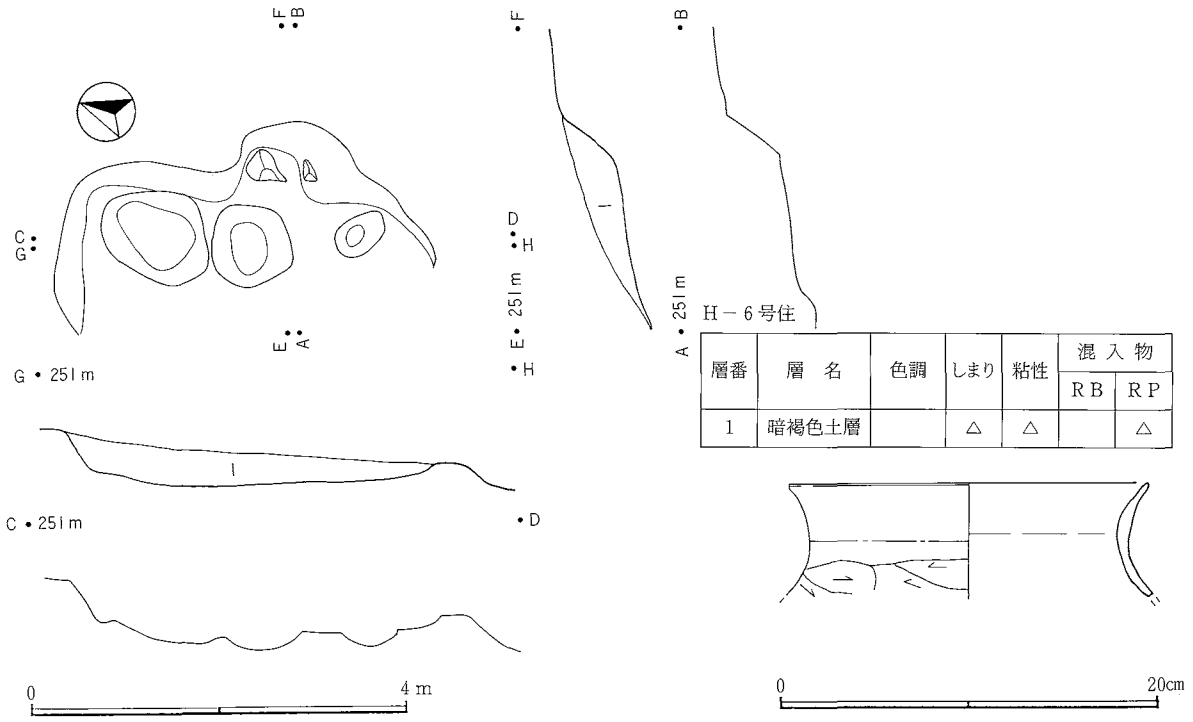




第10図　北原遺跡H－4号住居址・出土遺物実測図

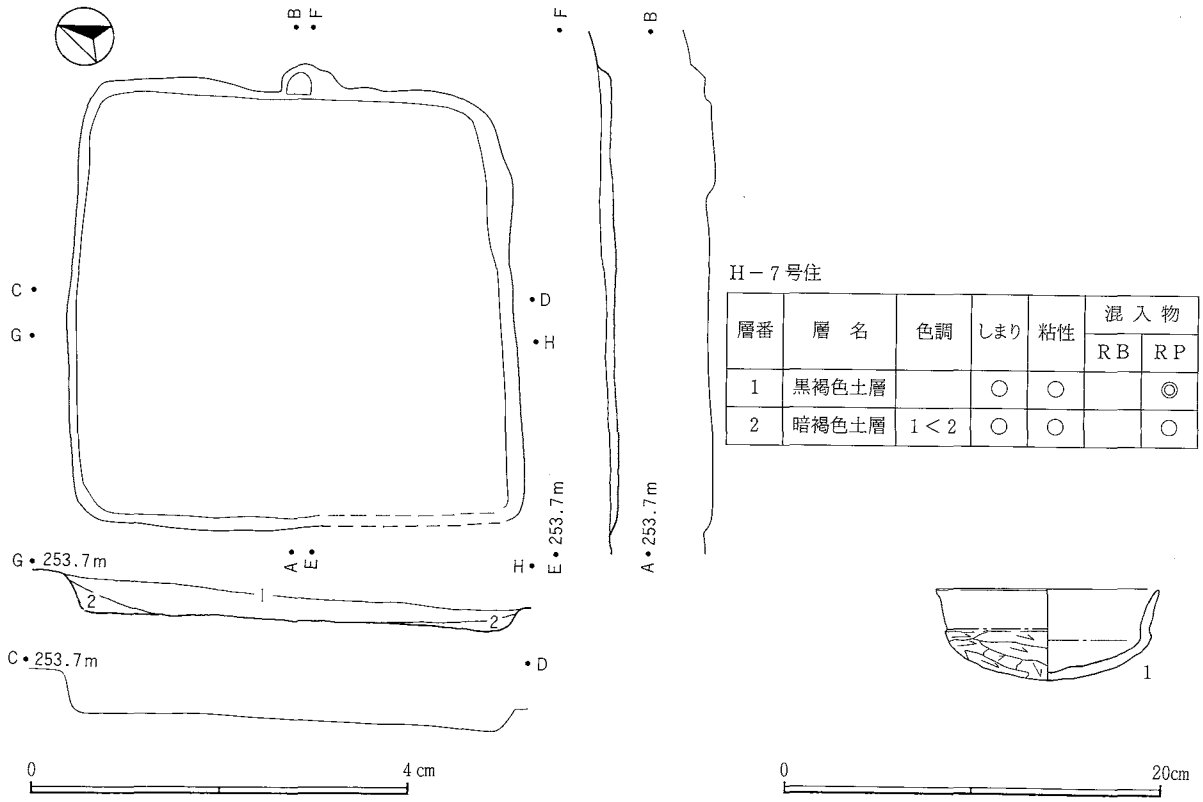


第11図　北原遺跡H－5ａ・5ｂ住居址・出土遺物実測図



層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	暗褐色土層		△	△		△

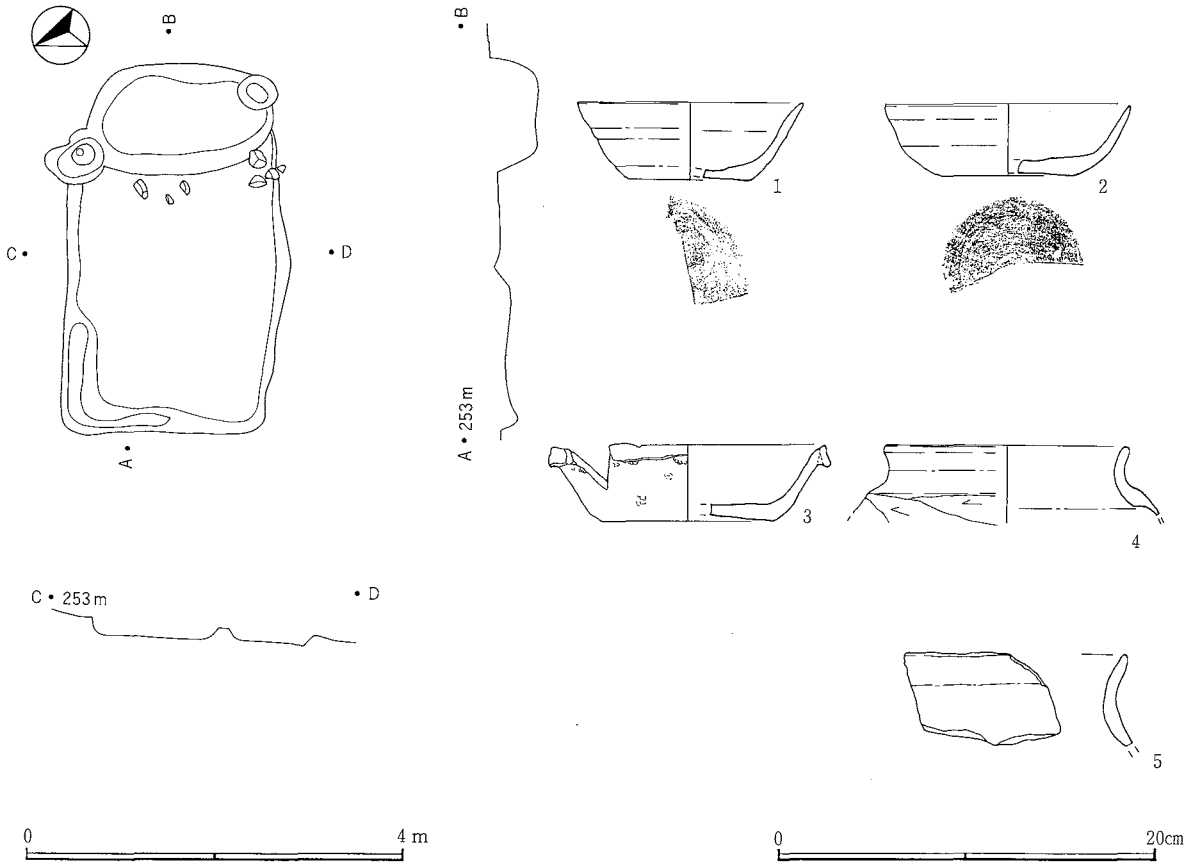
第12図　北原遺跡H－6号住居址・出土遺物実測図



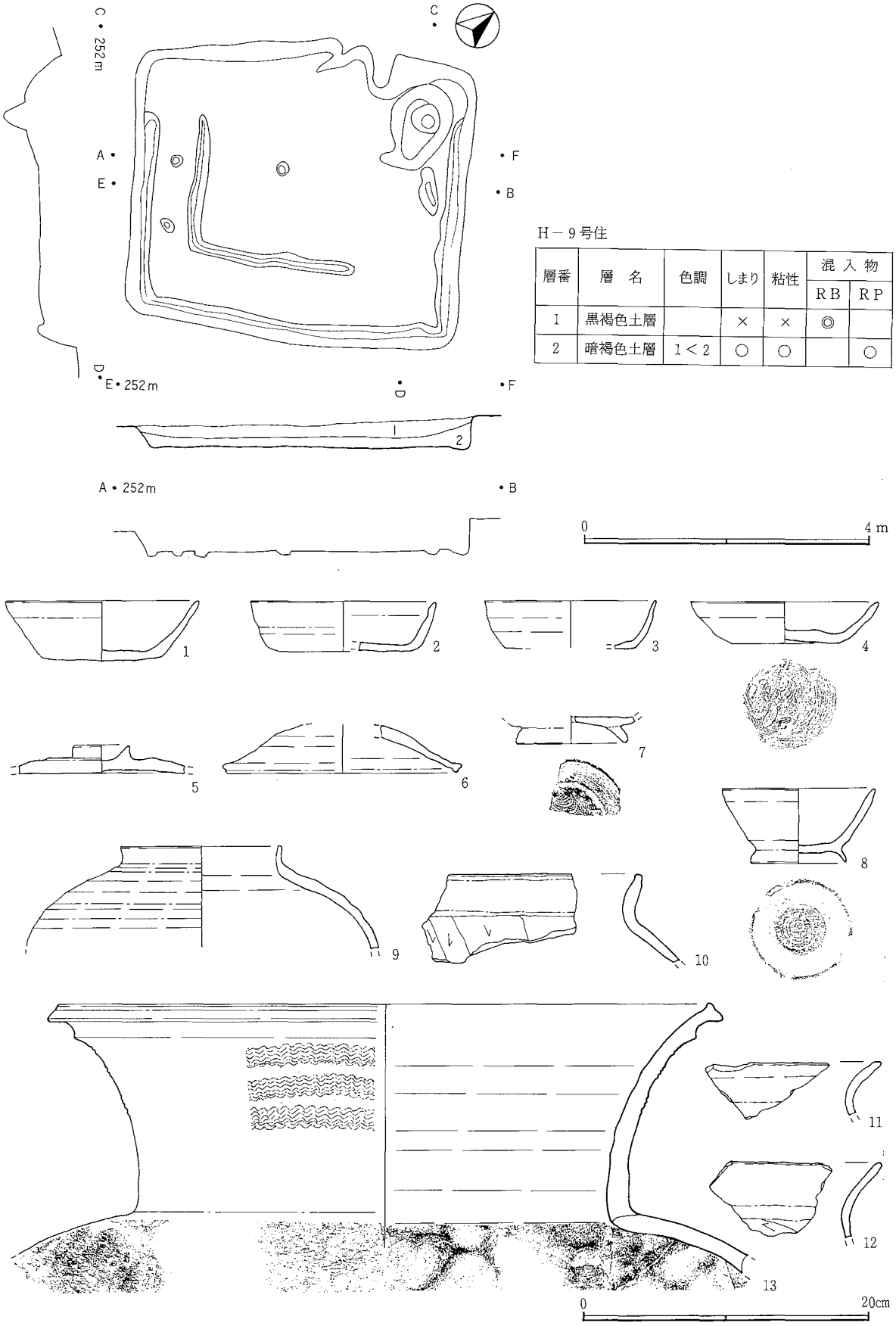
H－7号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		○	○		◎
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○

第13図　北原遺跡H－7号住居址・出土遺物実測図



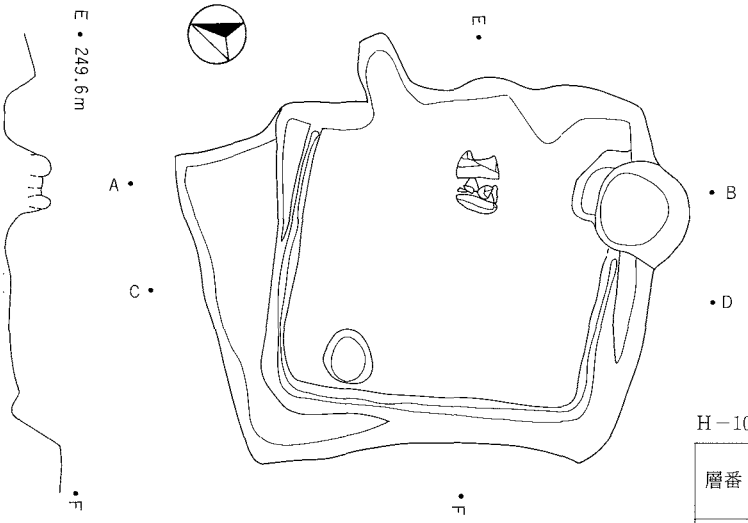
第14図　北原遺跡H－8号住居址・出土遺物実測図



H－9号住

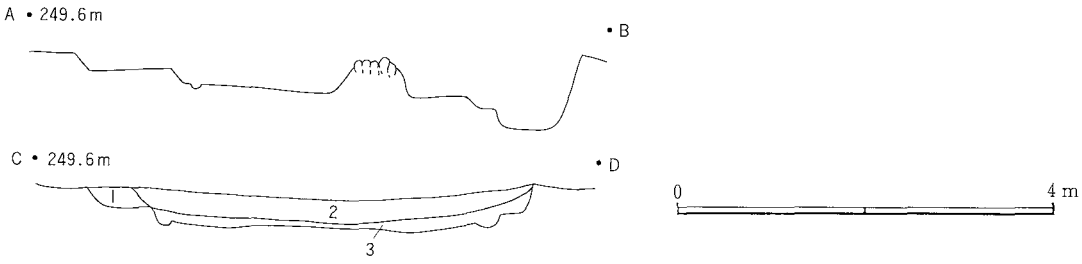
層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		×	×	◎	
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○

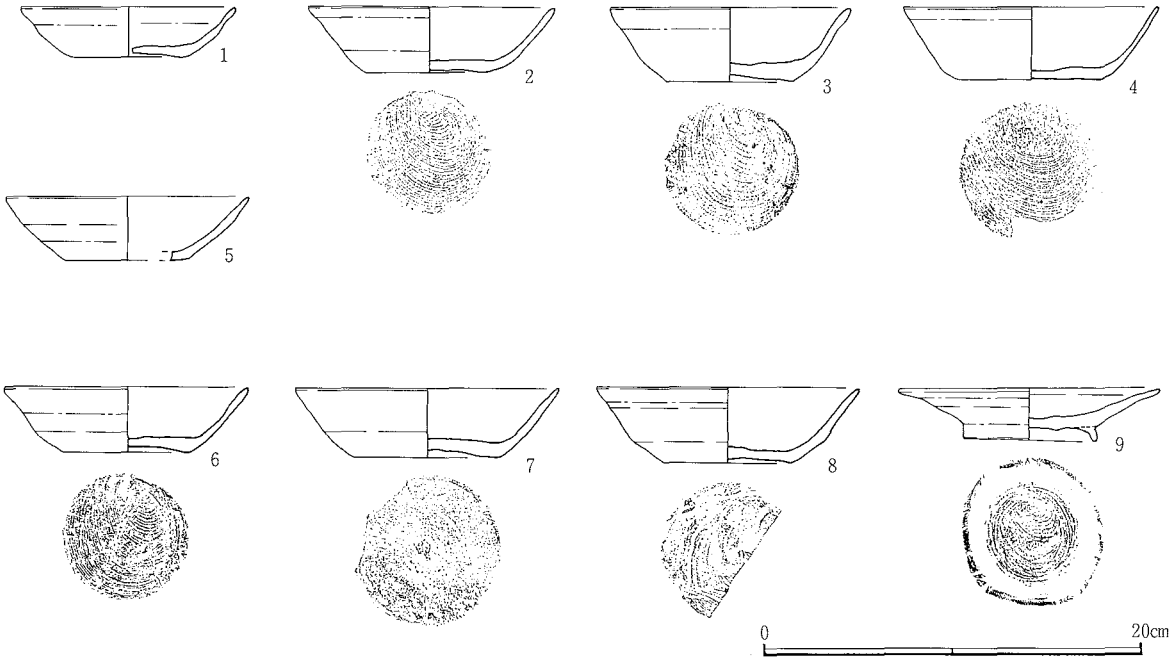
第15図　北原遺跡H－9号住居址・出土遺物実測図



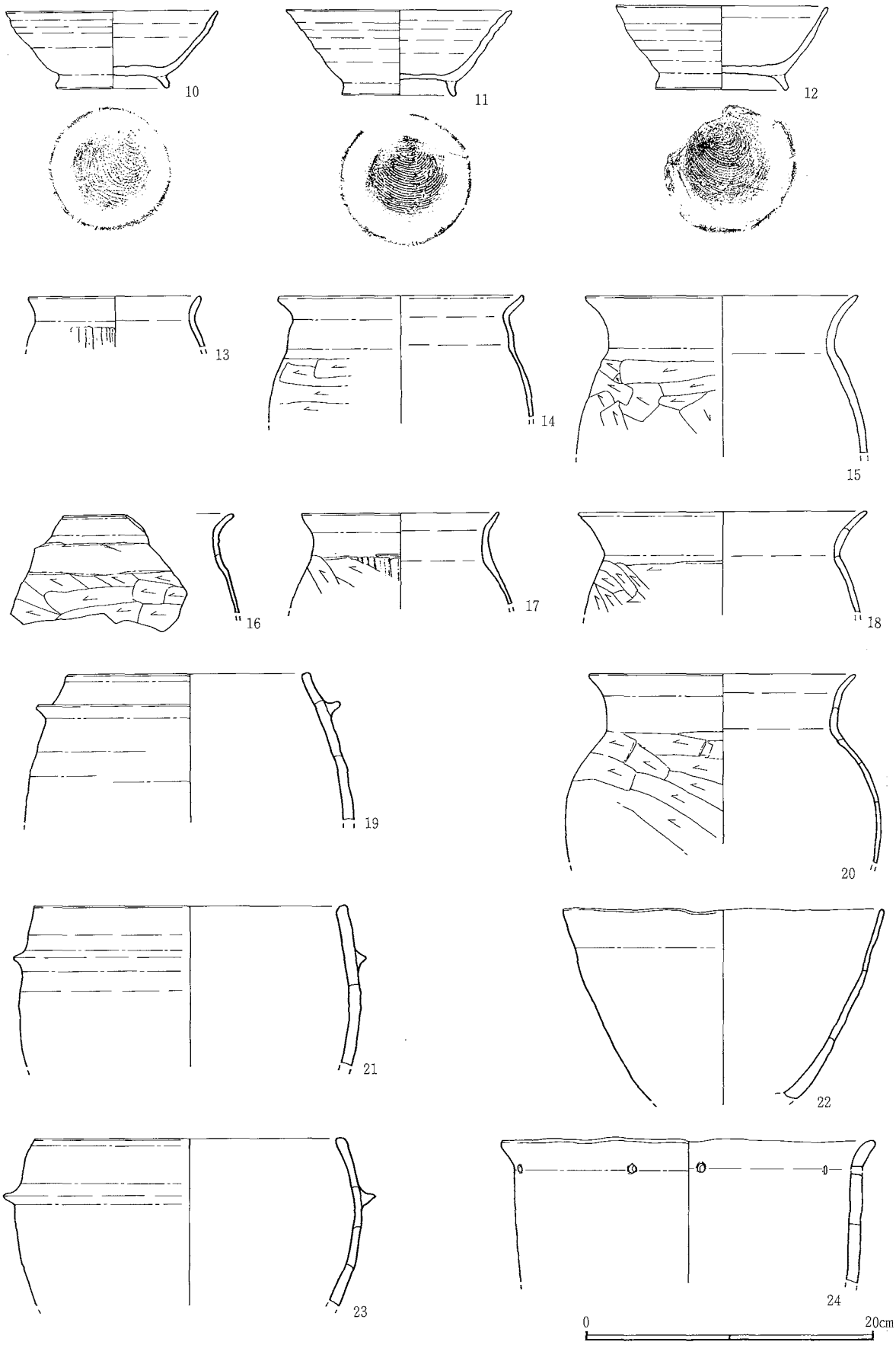
H－10号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		×	×	◎	
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○
3	暗褐色土層	2＜3	○	○		△

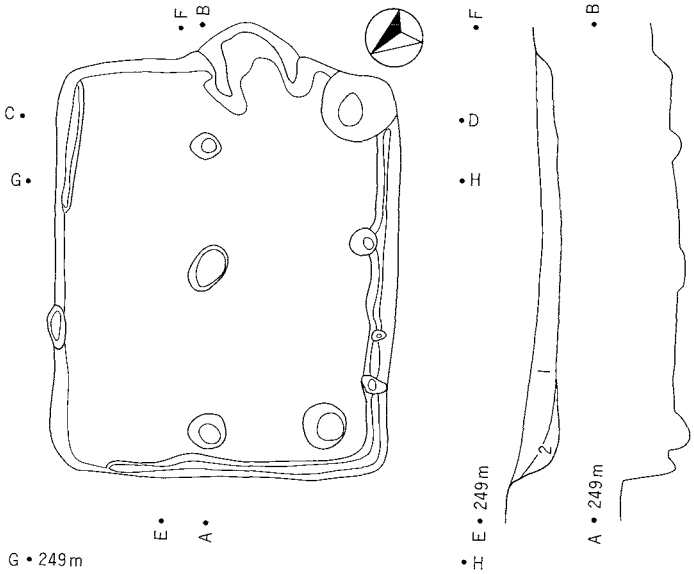




第16図　北原遺跡H－10号住居址・出土遺物実測図

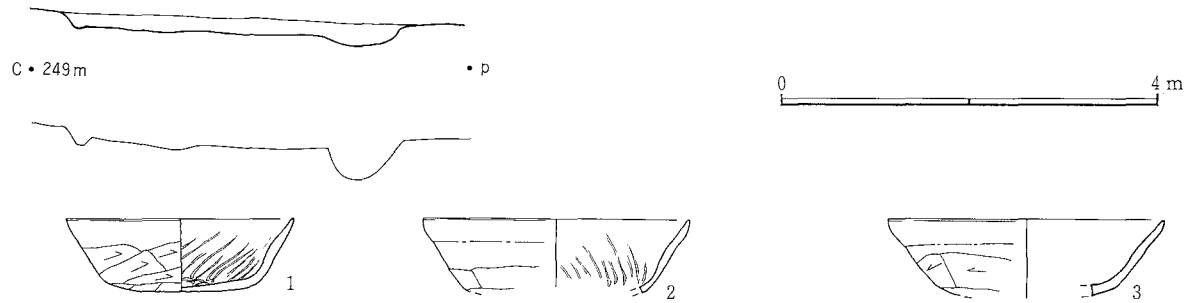


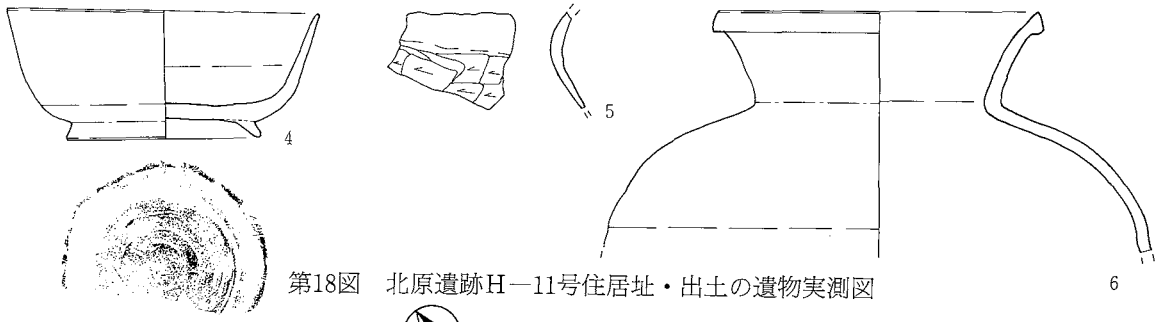
第17図　北原遺跡H－10号住居址出土の遺物



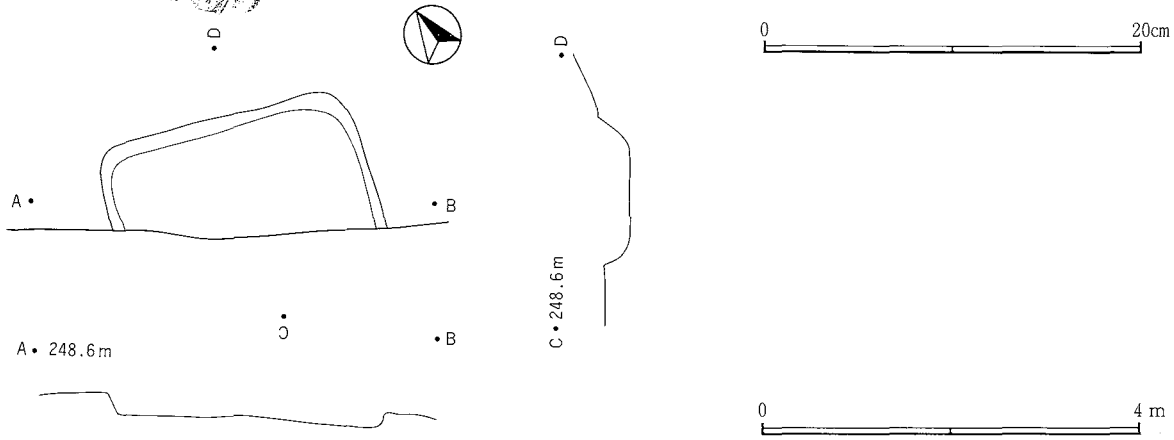
H－11号住

層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物	
					RB	RP
1	黒褐色土層		○	○		◎
2	暗褐色土層	1＜2	○	○		○

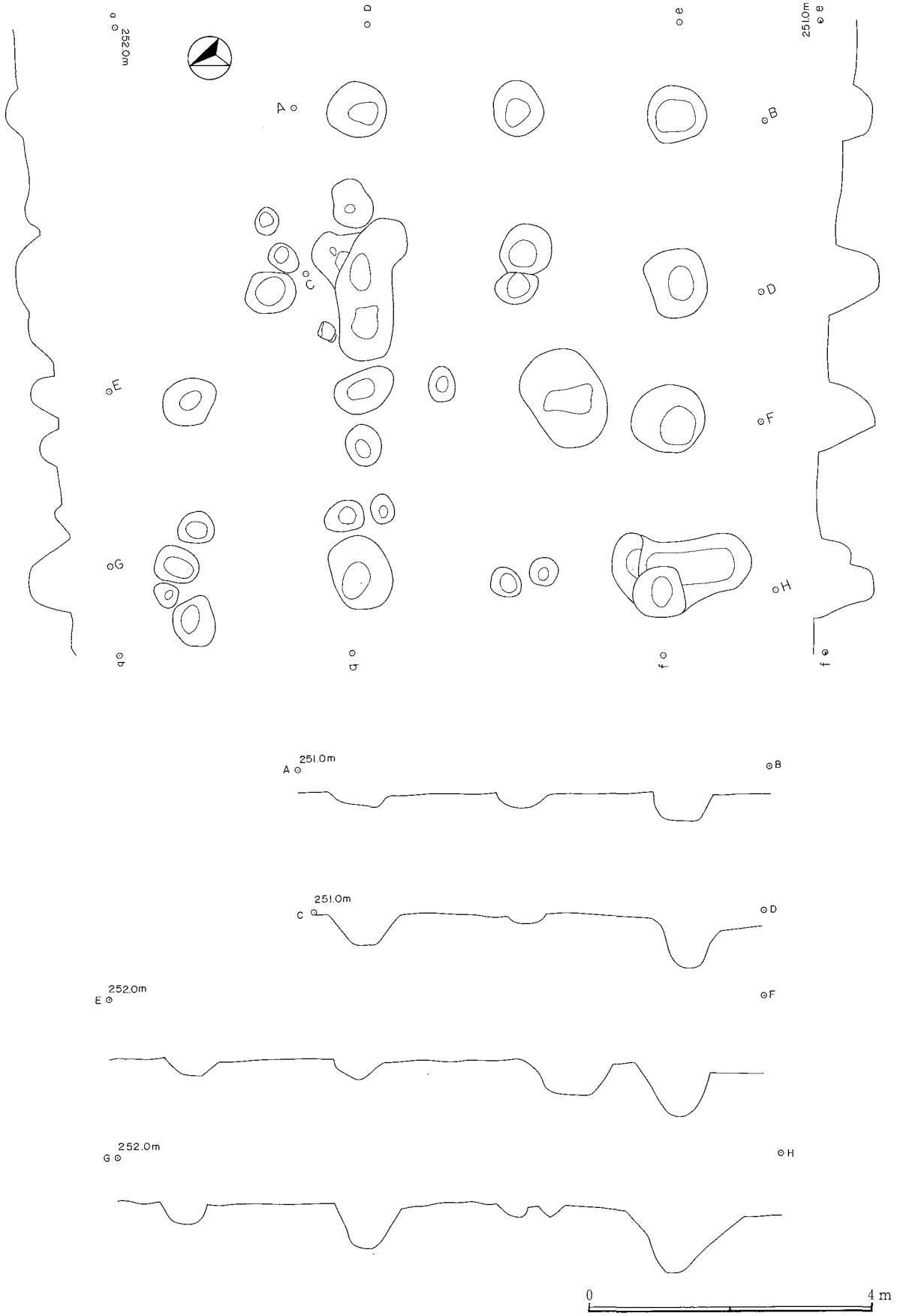




第18図　北原遺跡H－11号住居址・出土の遺物実測図



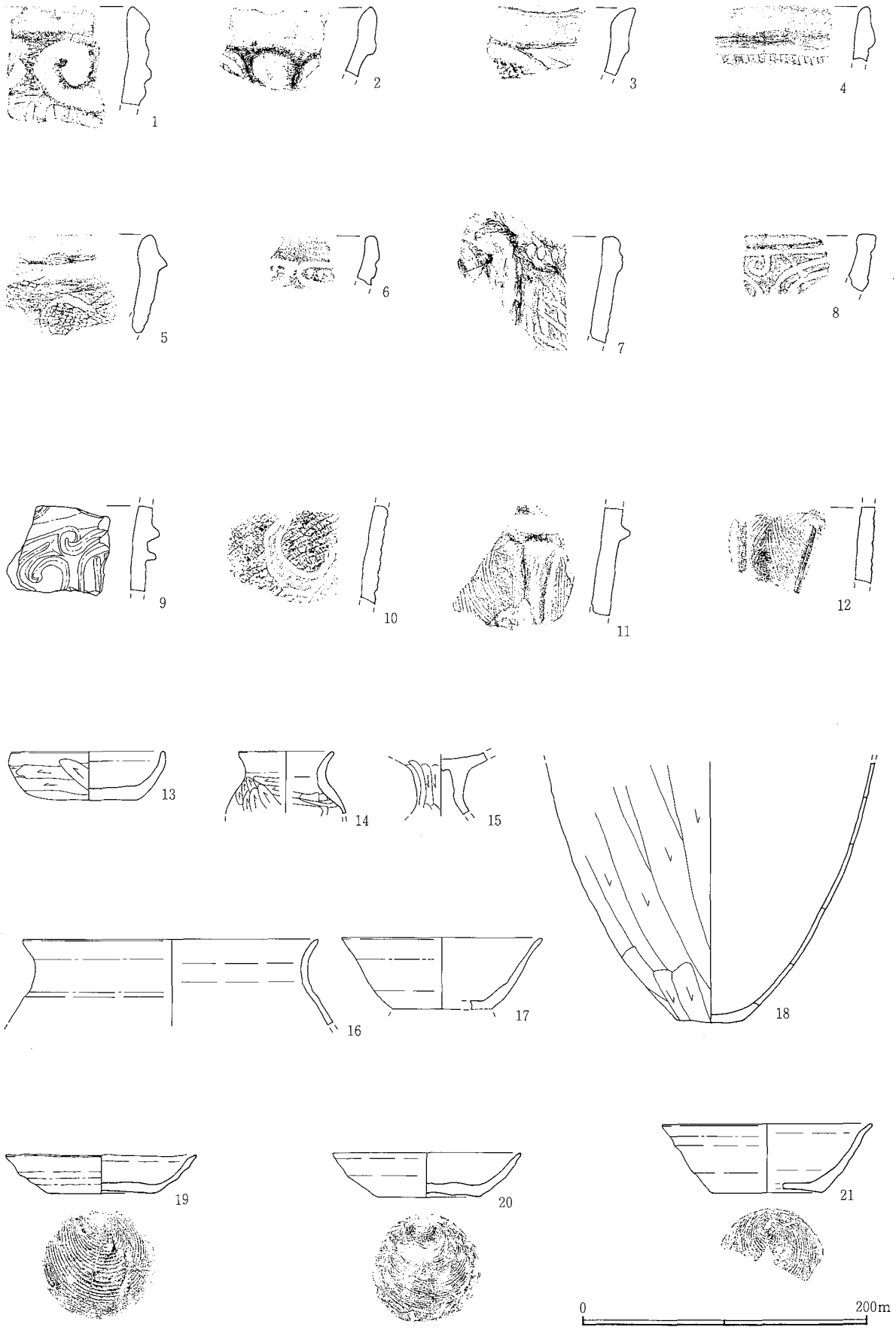
第19図　北原遺跡H－12号住居址実測図



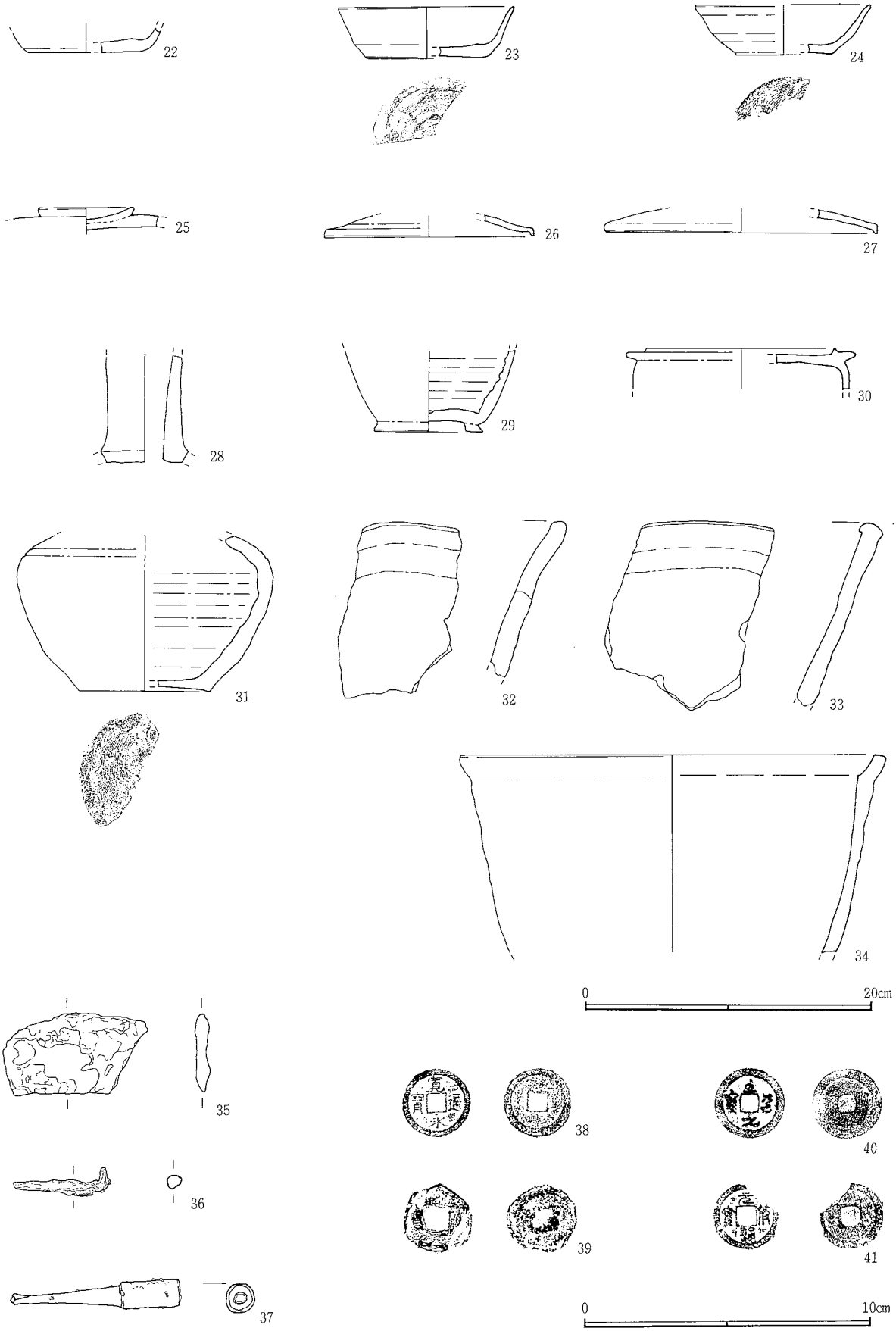
第20図　北原遺跡ＨＴ－１号掘立柱建物址実測図

第21図　北原遺跡Ａ区グリッド出土の遺物(1)

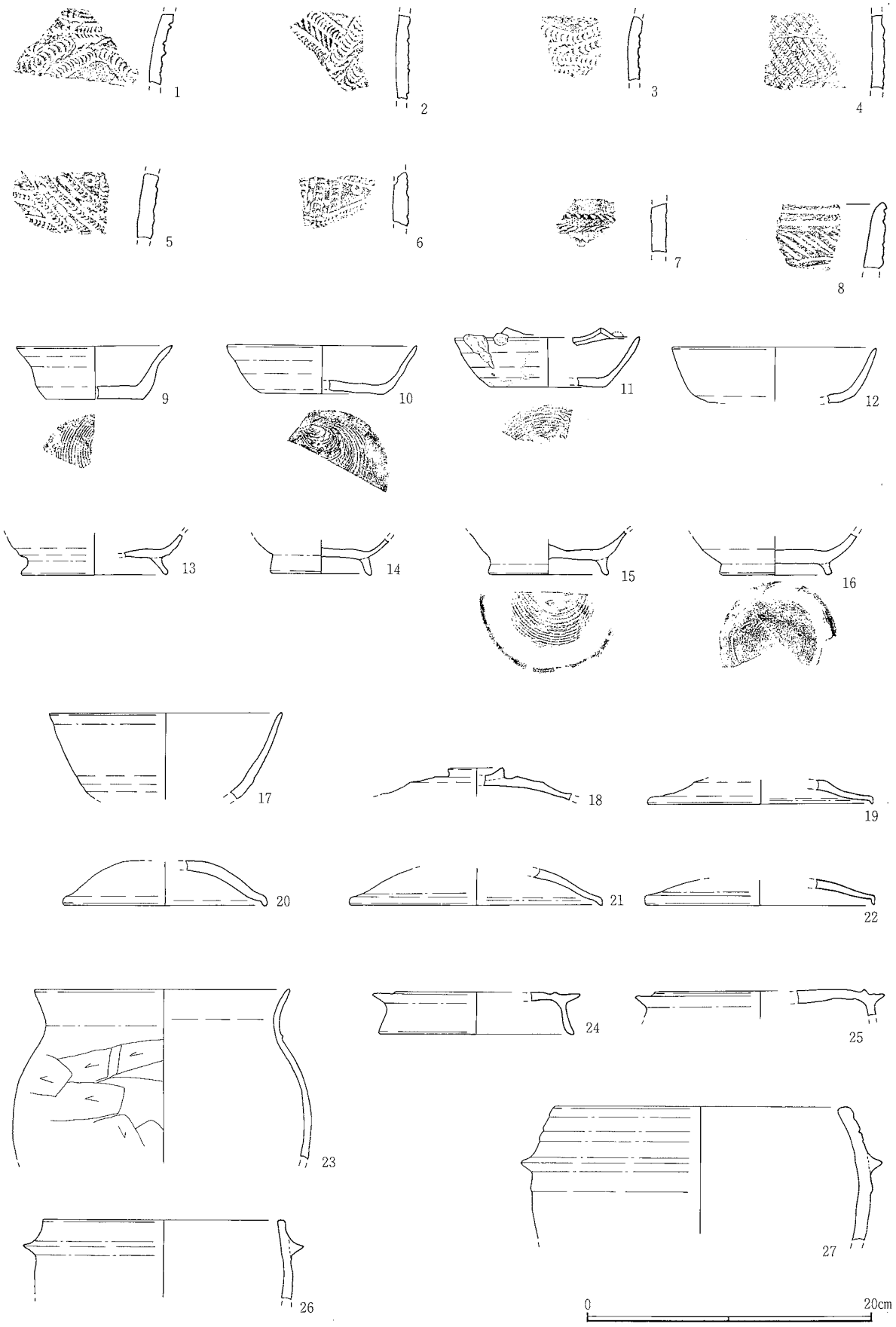
第22図　北原遺跡Ａ区グリッド出土の遺物(2)



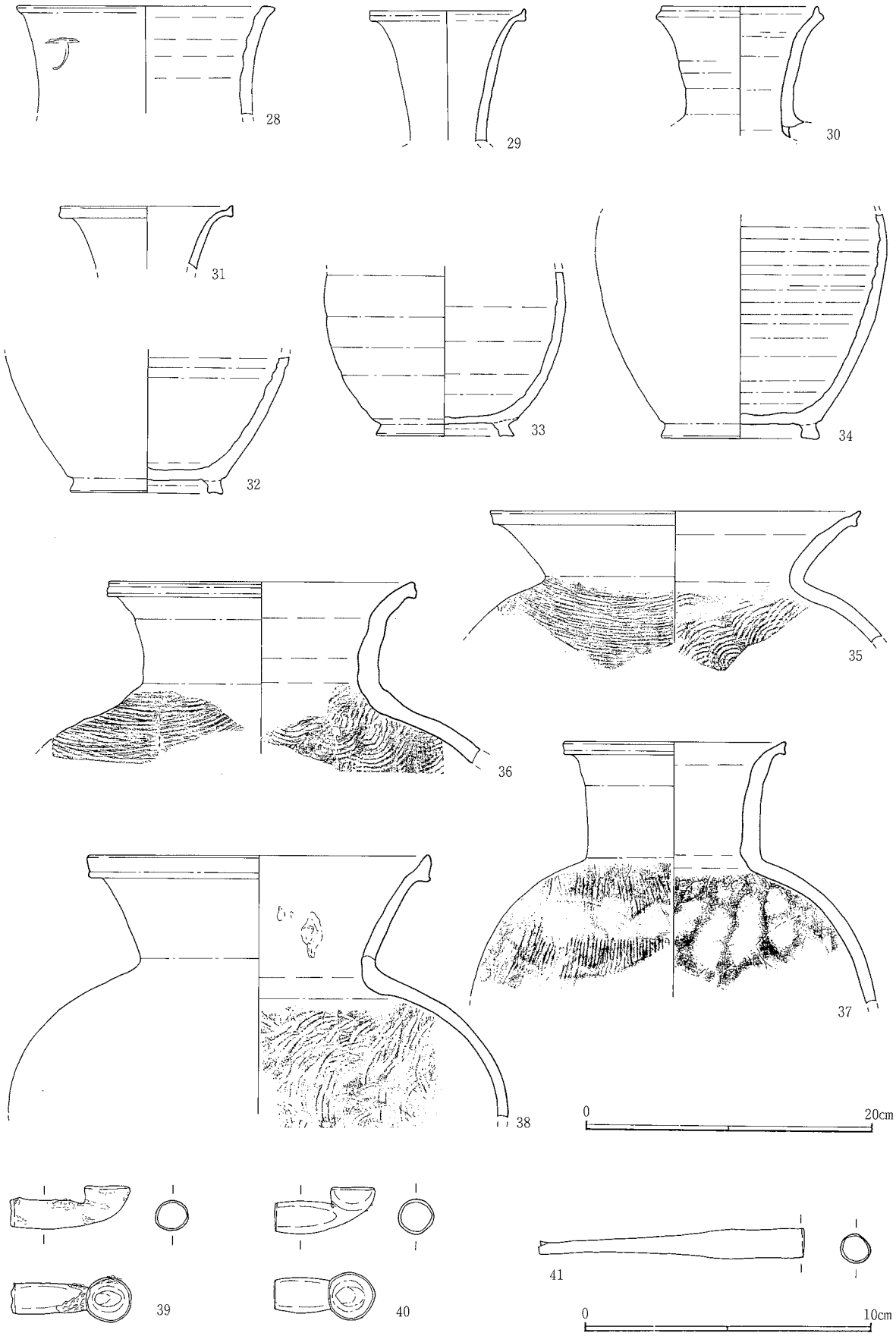
第23図　北原遺跡Ｂ区グリッド出土の遺物(1)



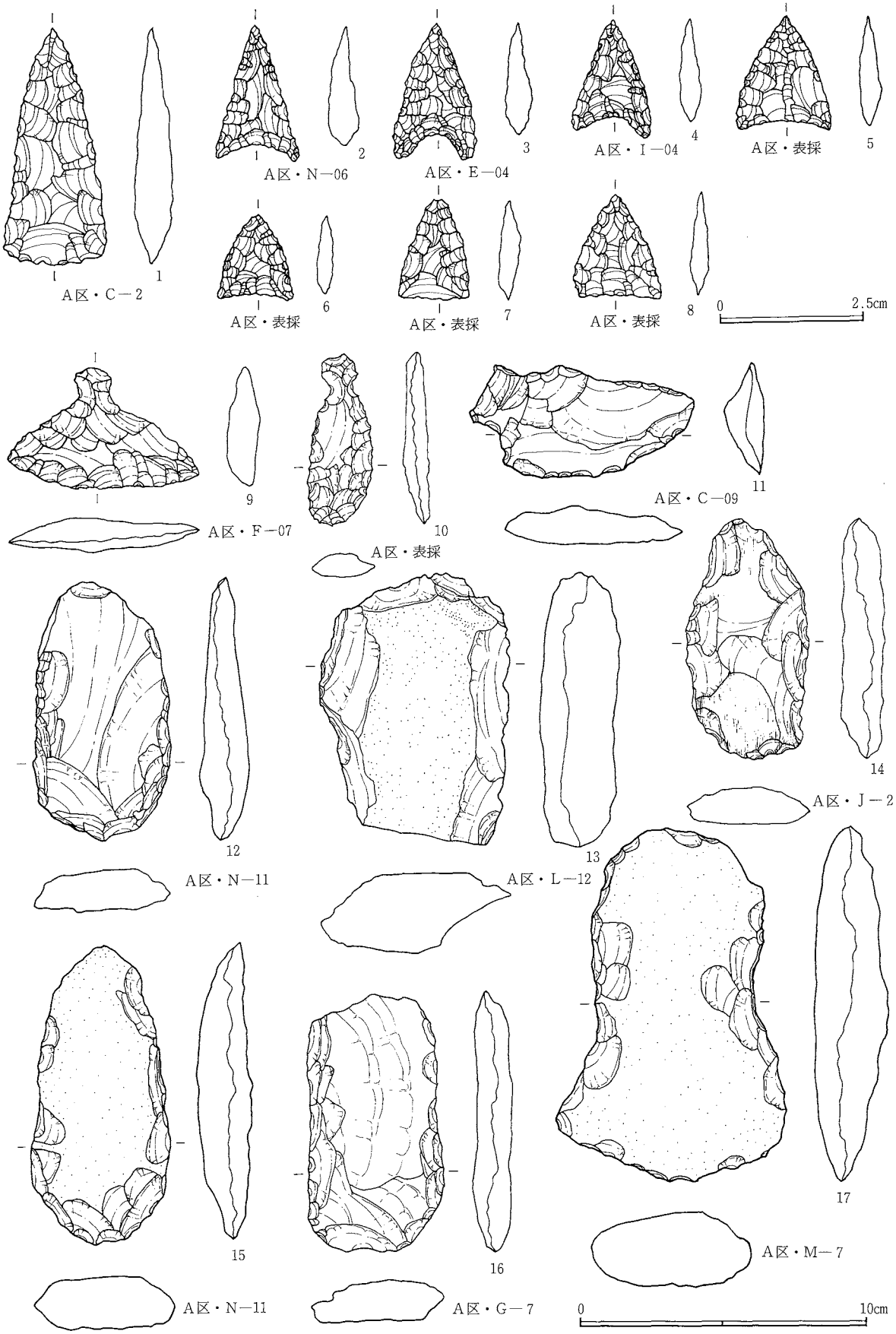
第24図　北原遺跡Ｂ区グリッド出土の遺物(2)



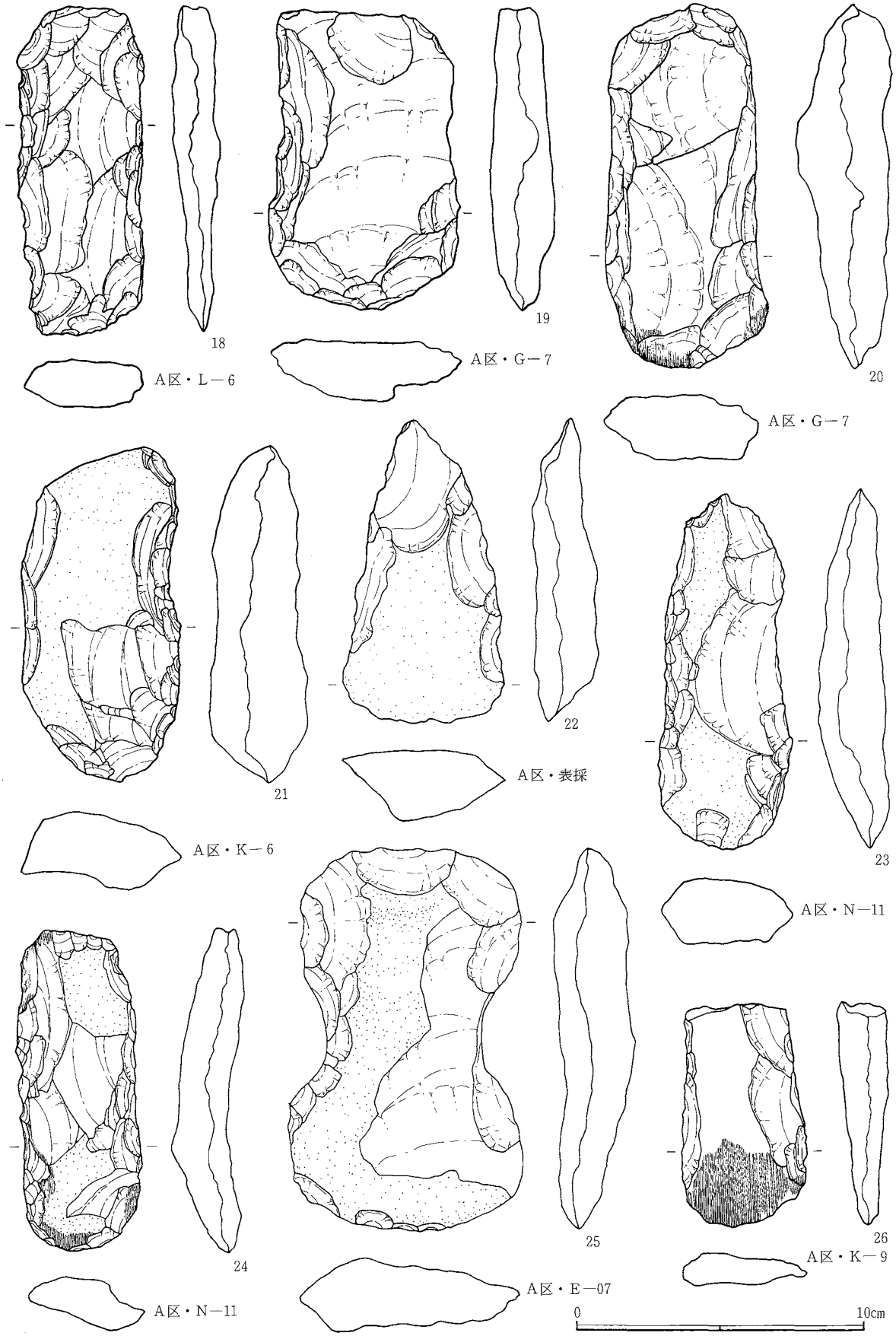
第25図　北原遺跡Ｃ区グリッド出土の遺物(1)



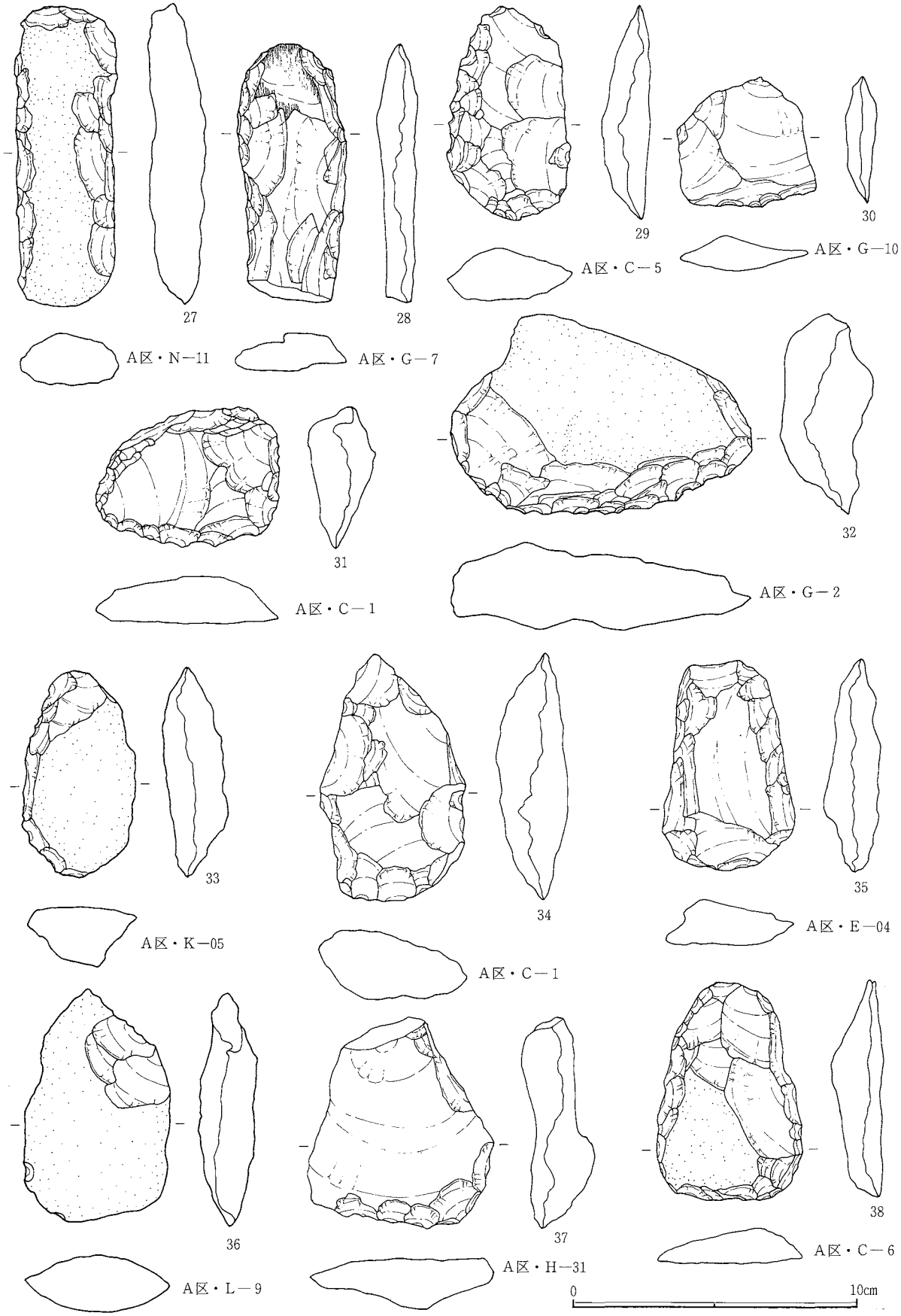
第26図　北原遺跡Ｃ区グリッド出土の遺物(2)



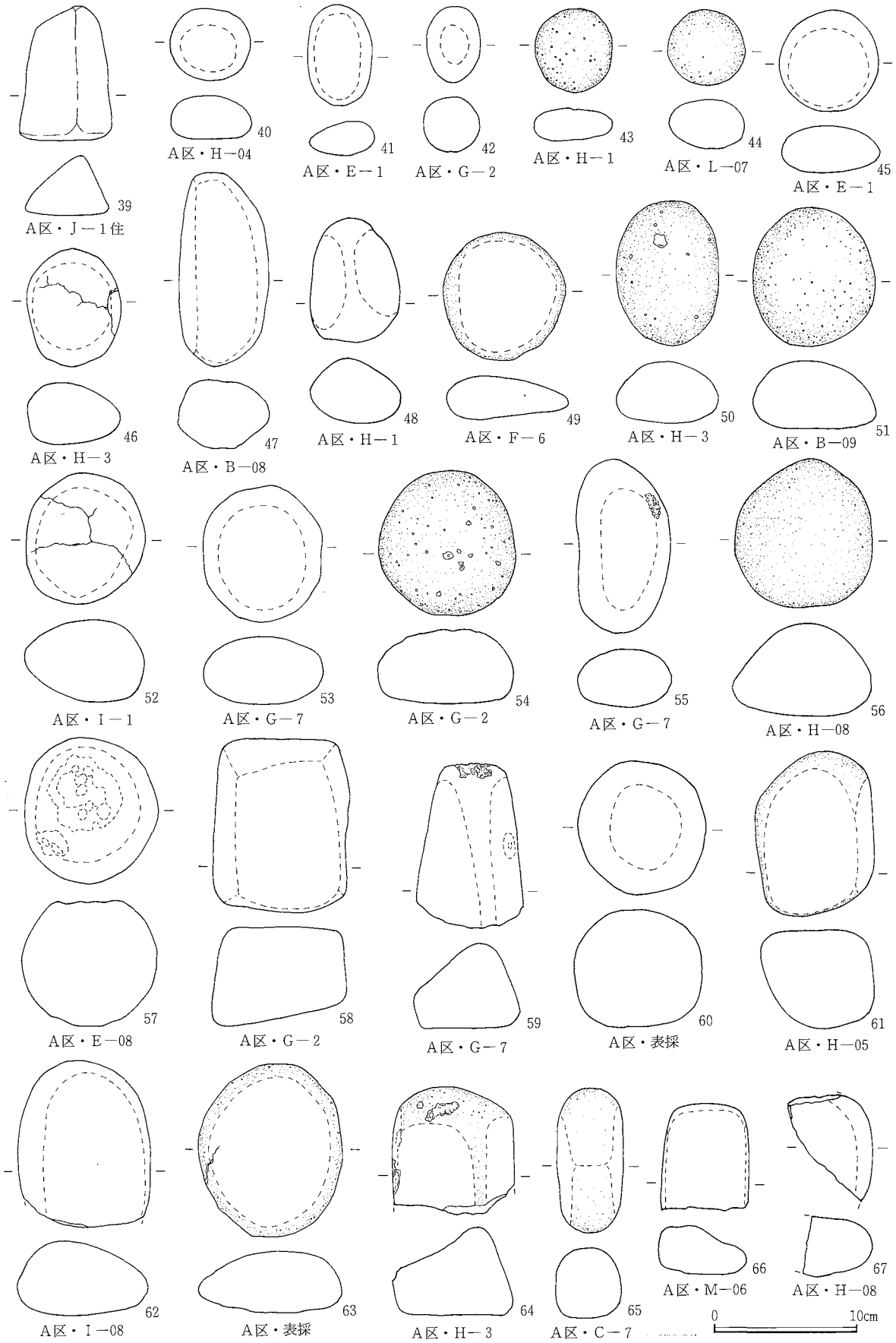
第27図　北原遺跡A区出土の石器実測図(1)



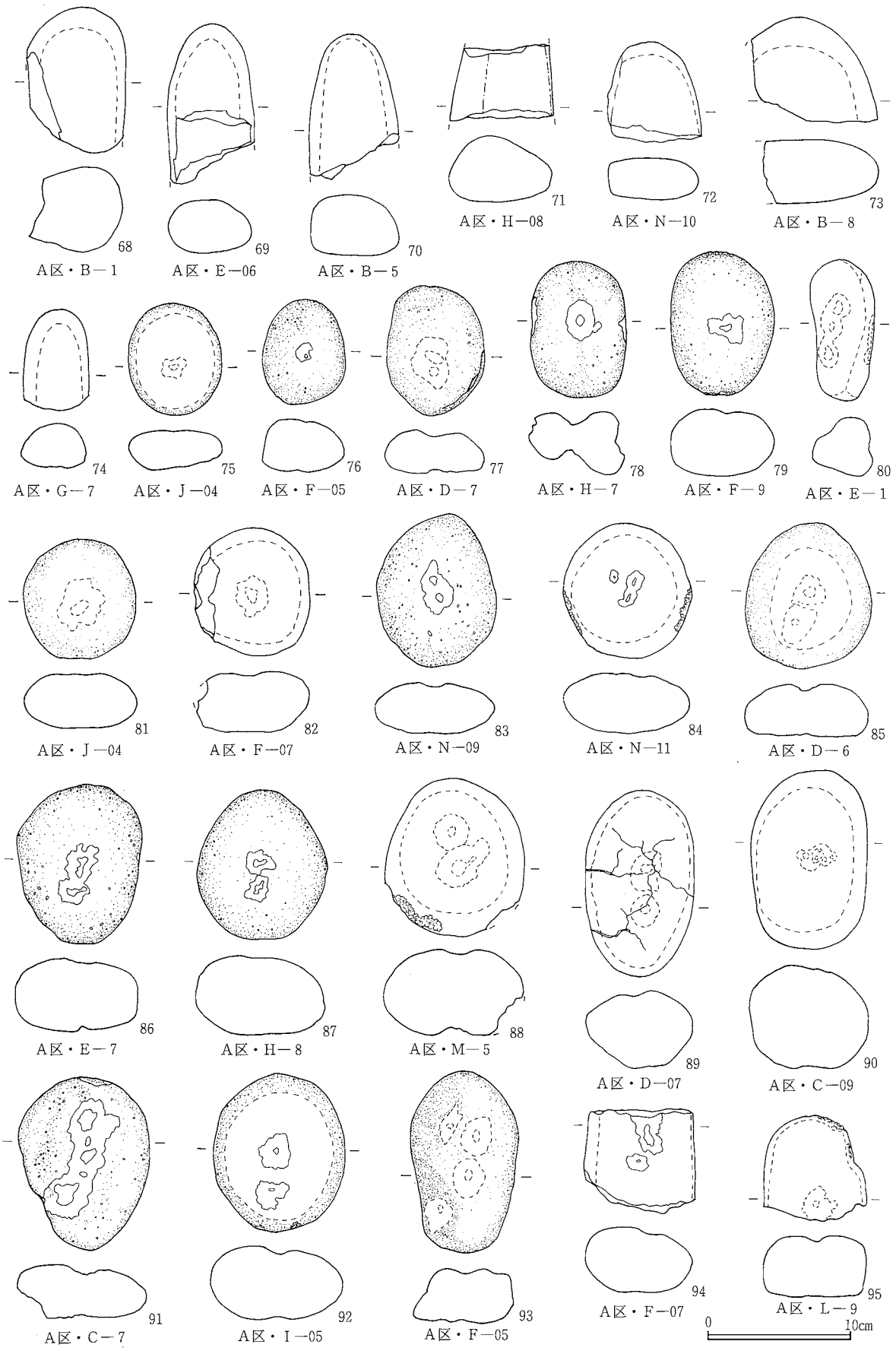
第28図　北原遺跡Ａ区出土の石器実測図(2)



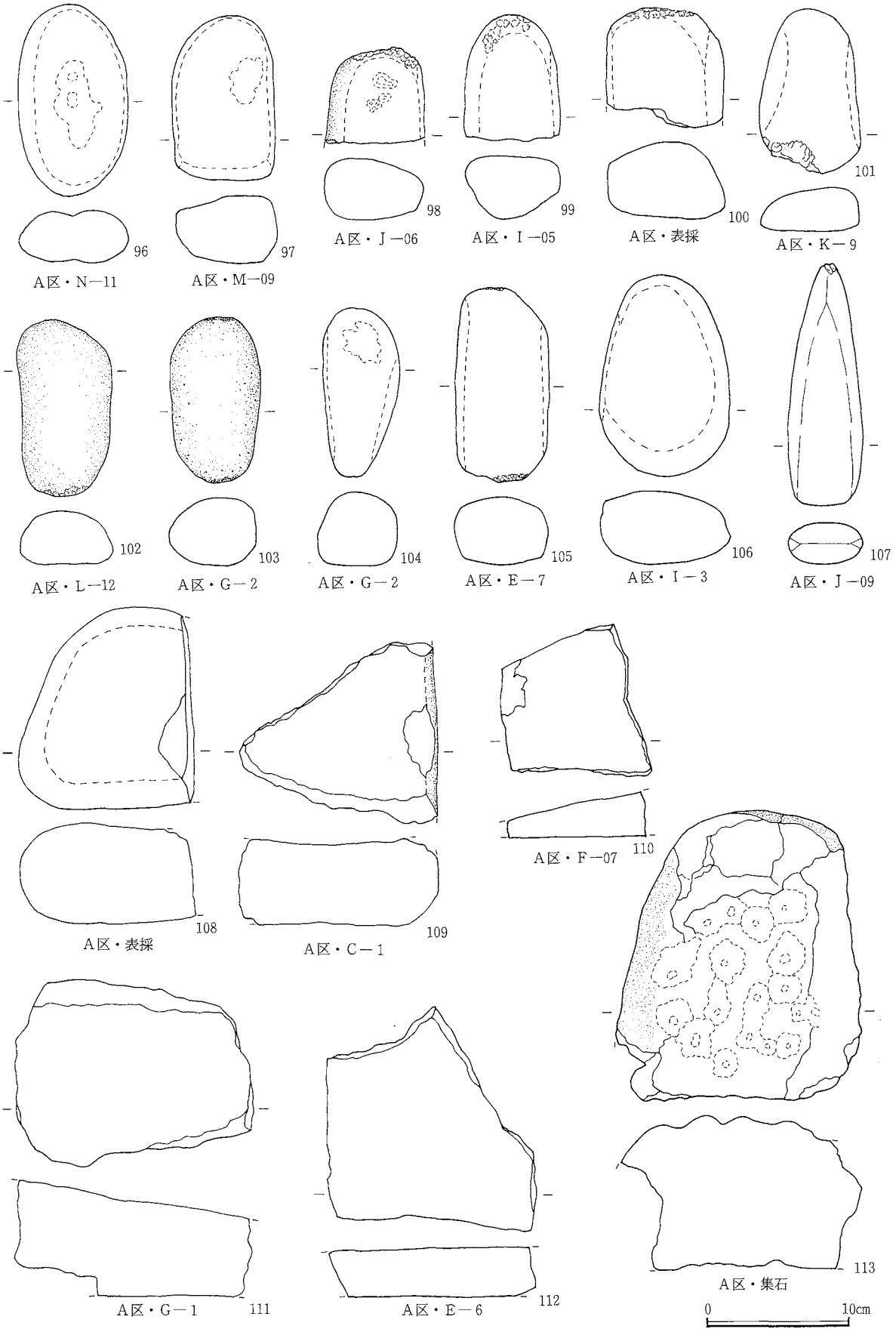
第29図　北原遺跡Ａ区出土の石器実測図(3)



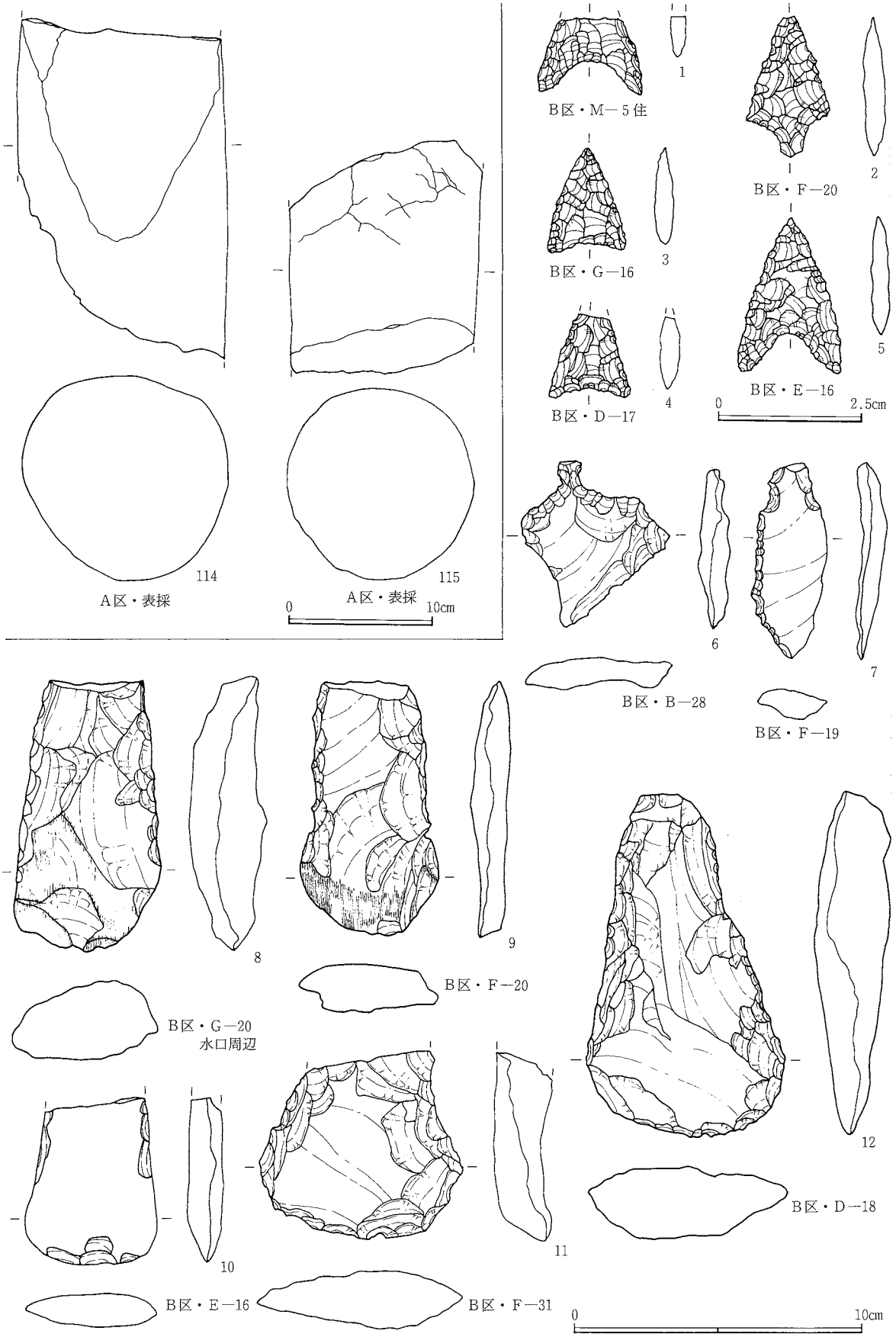
第30図　北原遺跡A区出土の石器実測図(4)



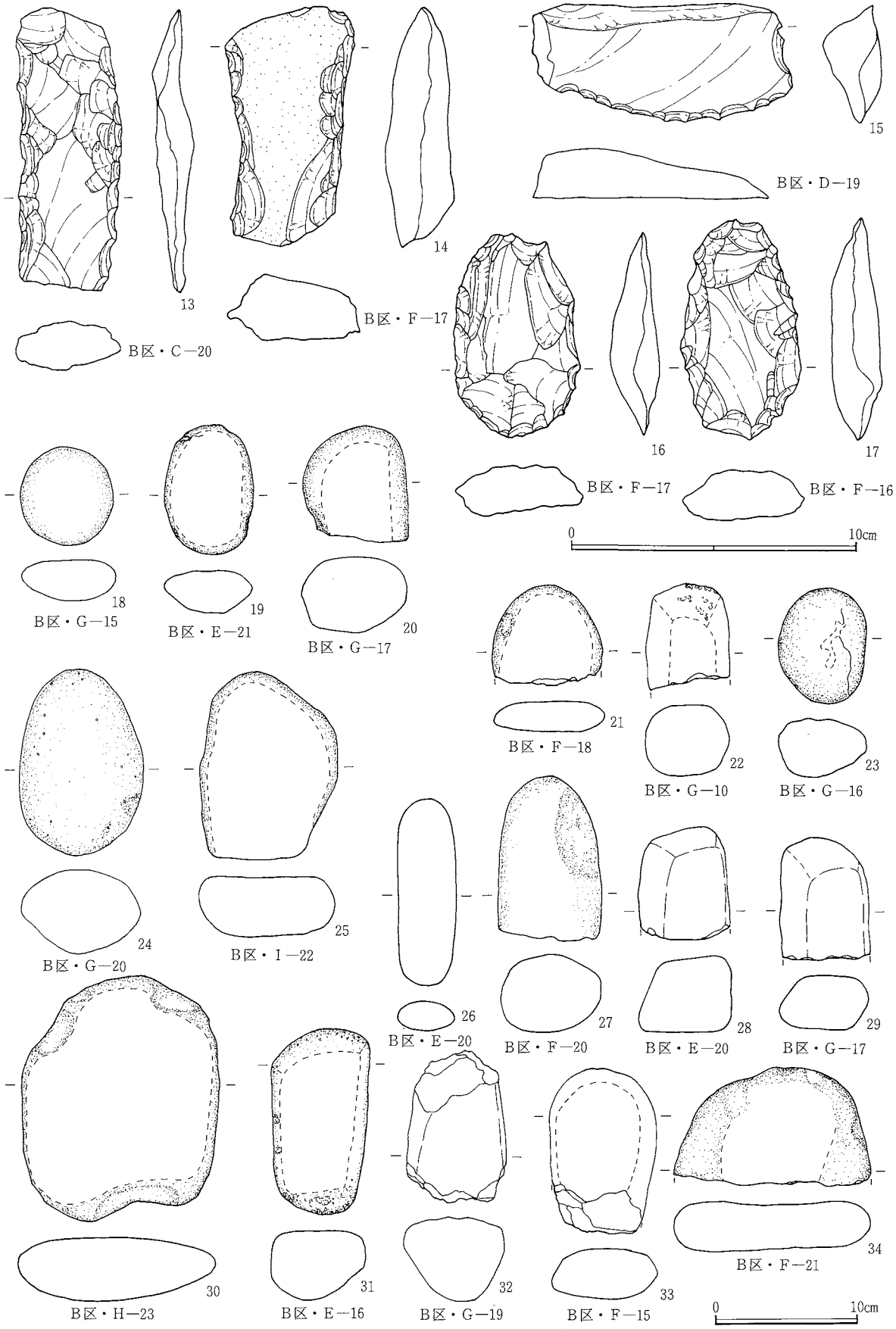
第31図　北原遺跡A区出土の石器実測図(5)



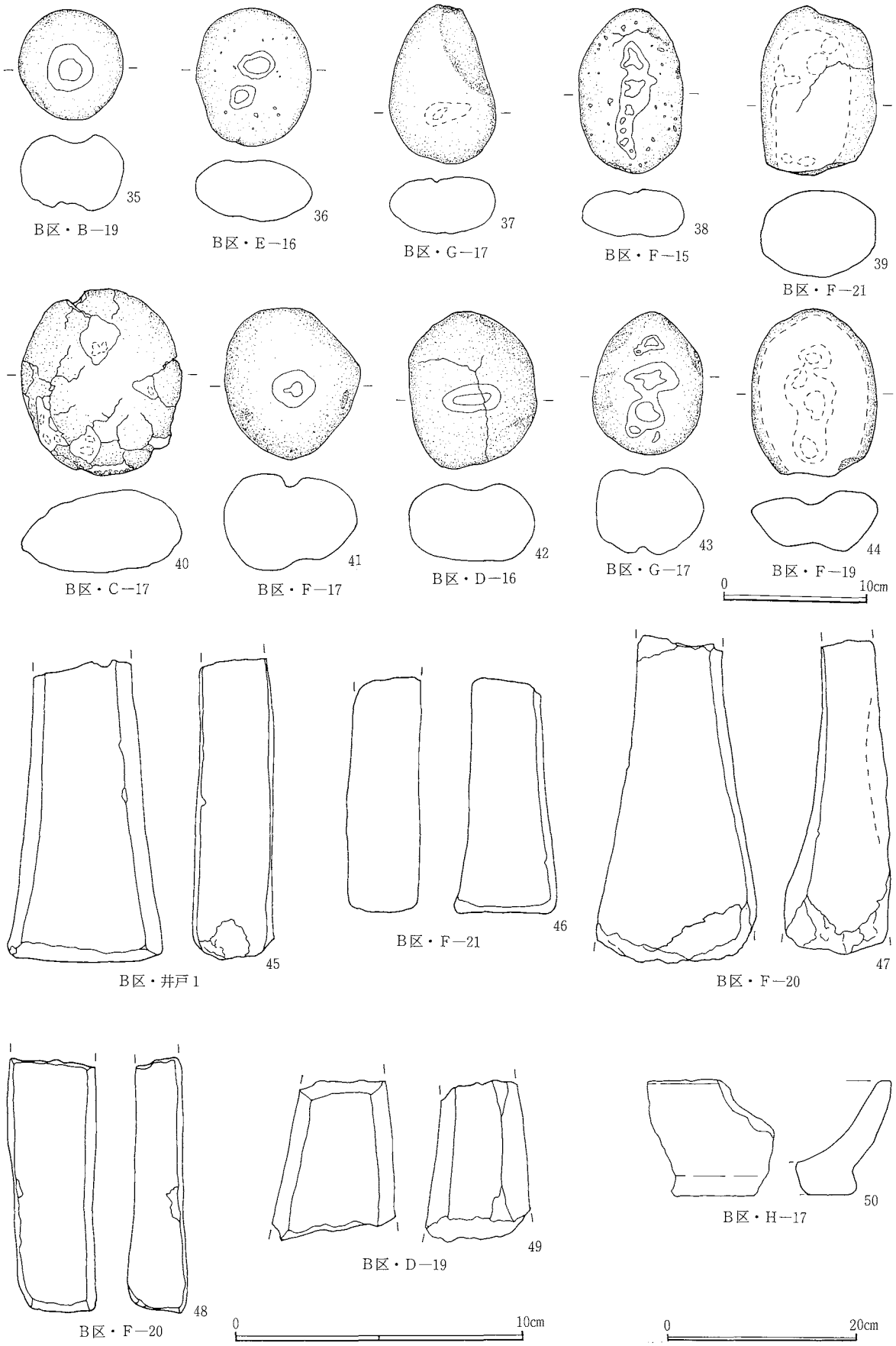
第32図　北原遺跡A区出土の石器実測図(6)



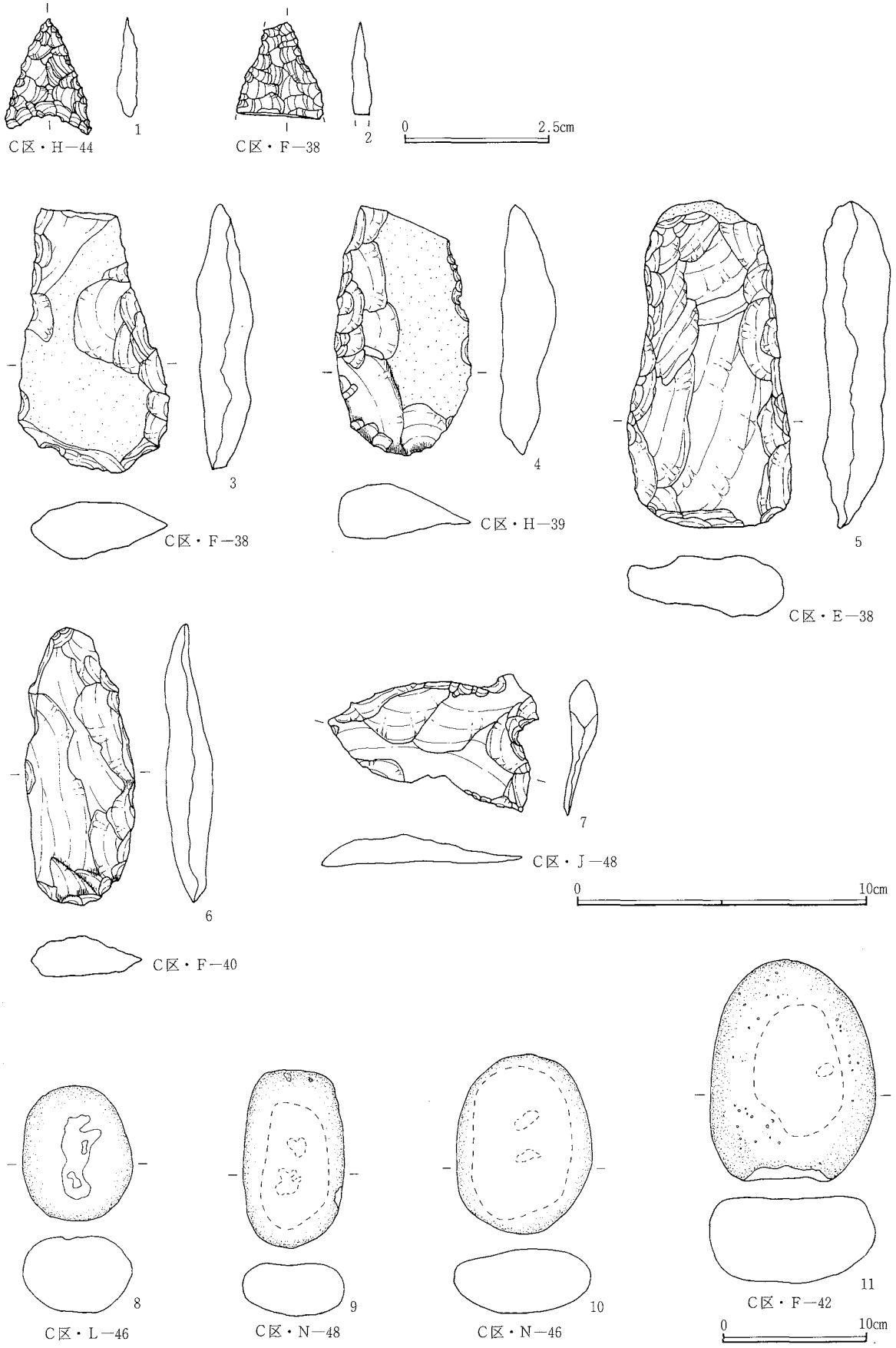
第33図　北原遺跡A区・B区出土の石器実測図



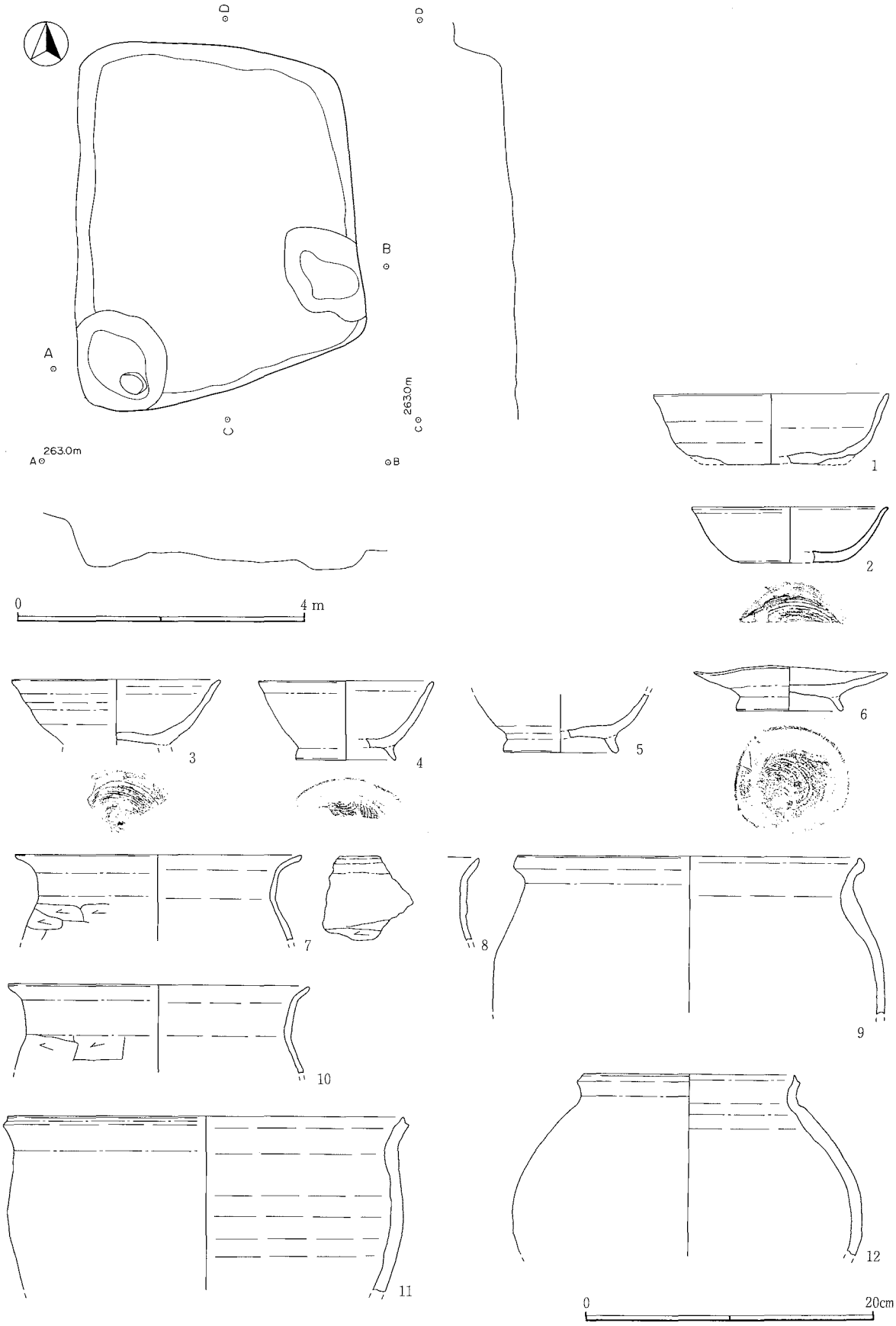
第34図　北原遺跡B区出土の石器実測図



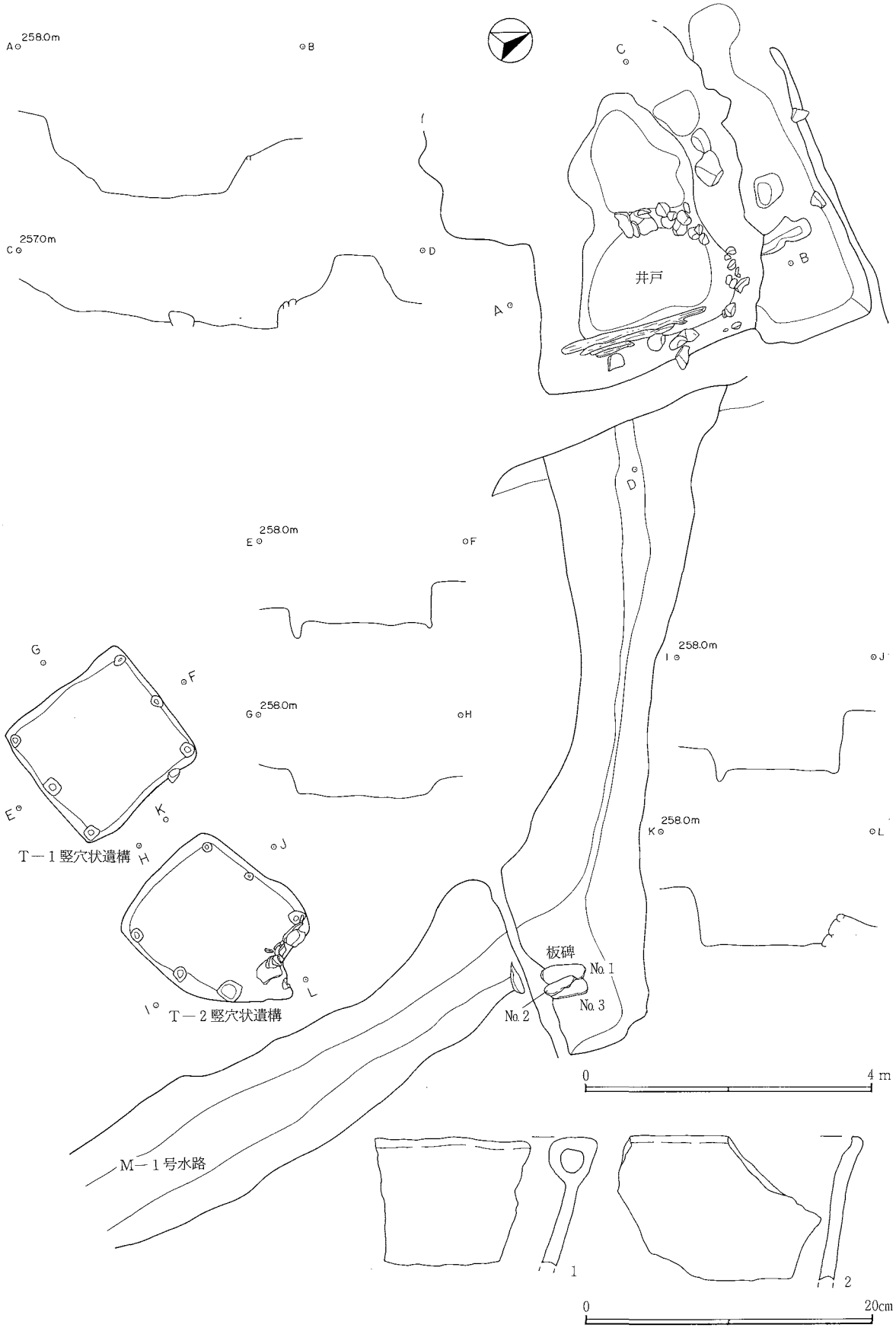
第35図　北原遺跡B区出土の石器・砥石実測図



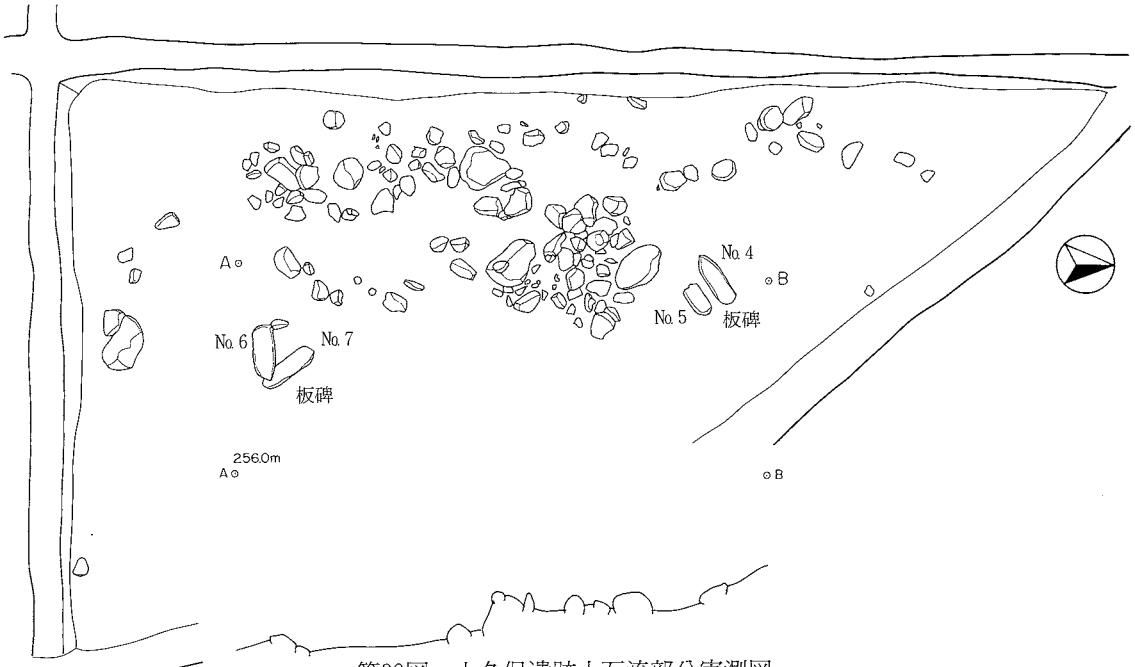
第36図　北原遺跡C区出土の石器実測図



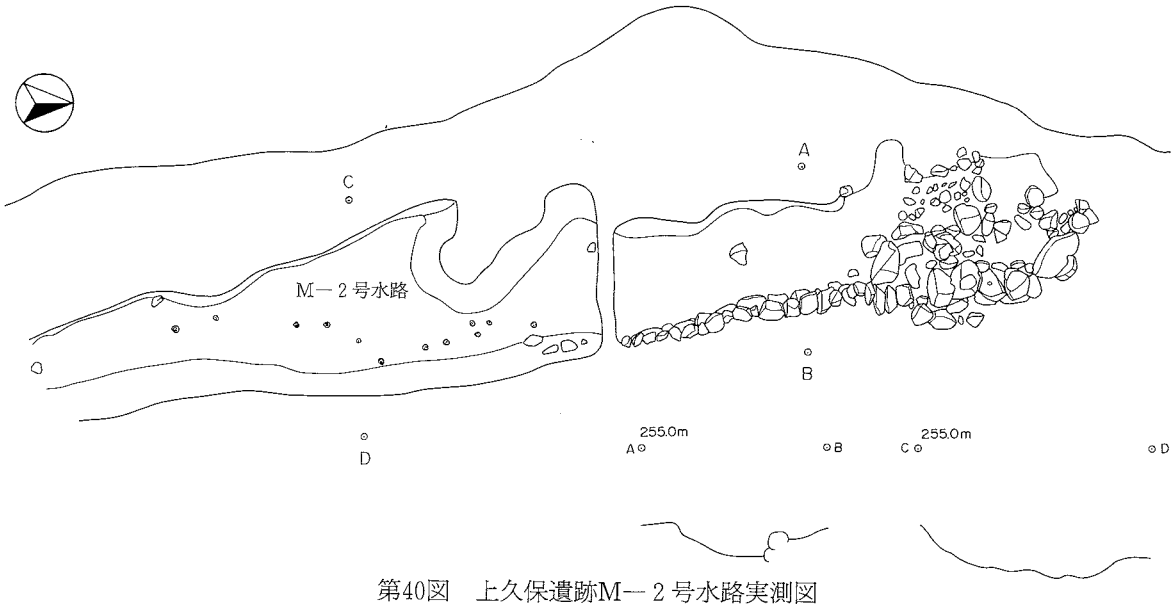
第37図　上久保遺跡H－1号住居址・出土遺物実測図



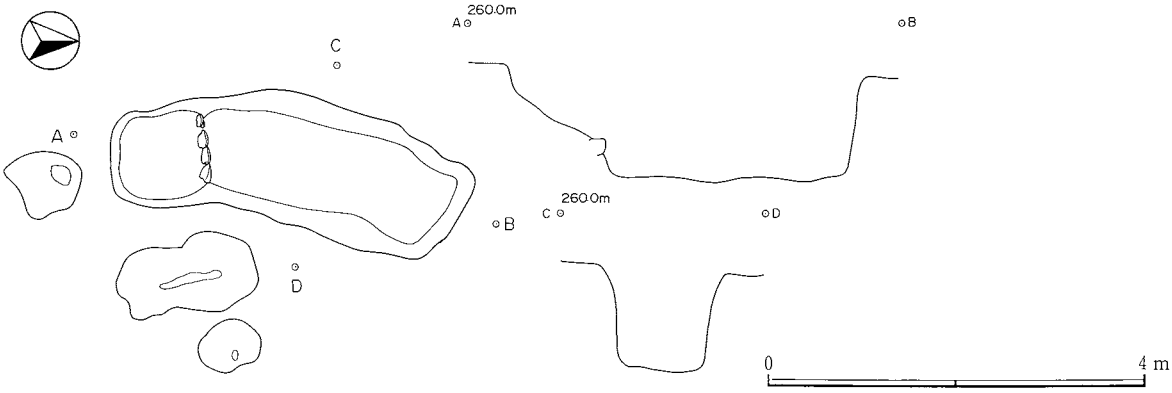
第38図　上久保遺跡　井戸・M－1号水路・T－1号・T－2号実測図・井戸出土遺物実測図



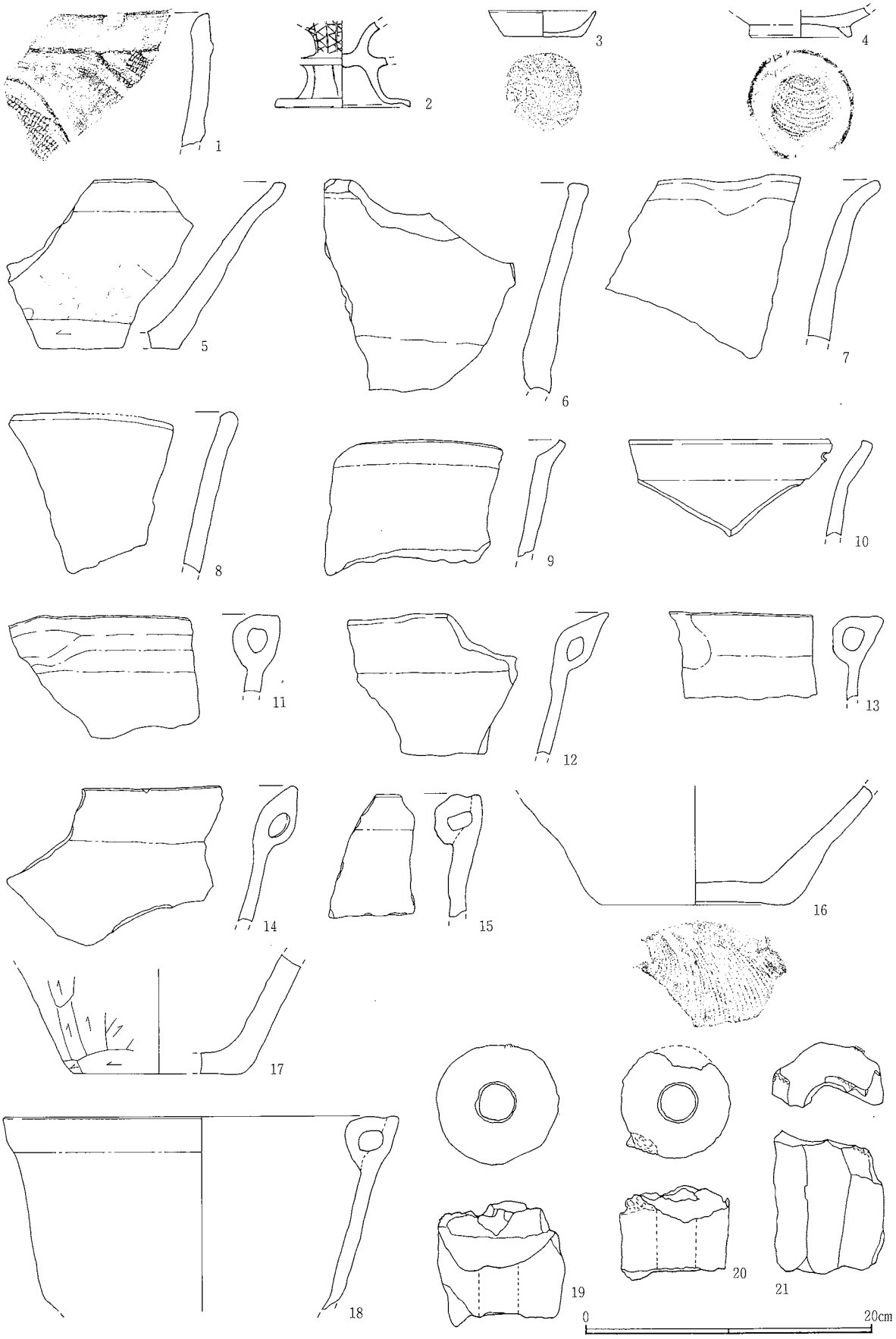
第39図　上久保遺跡土石流部分実測図



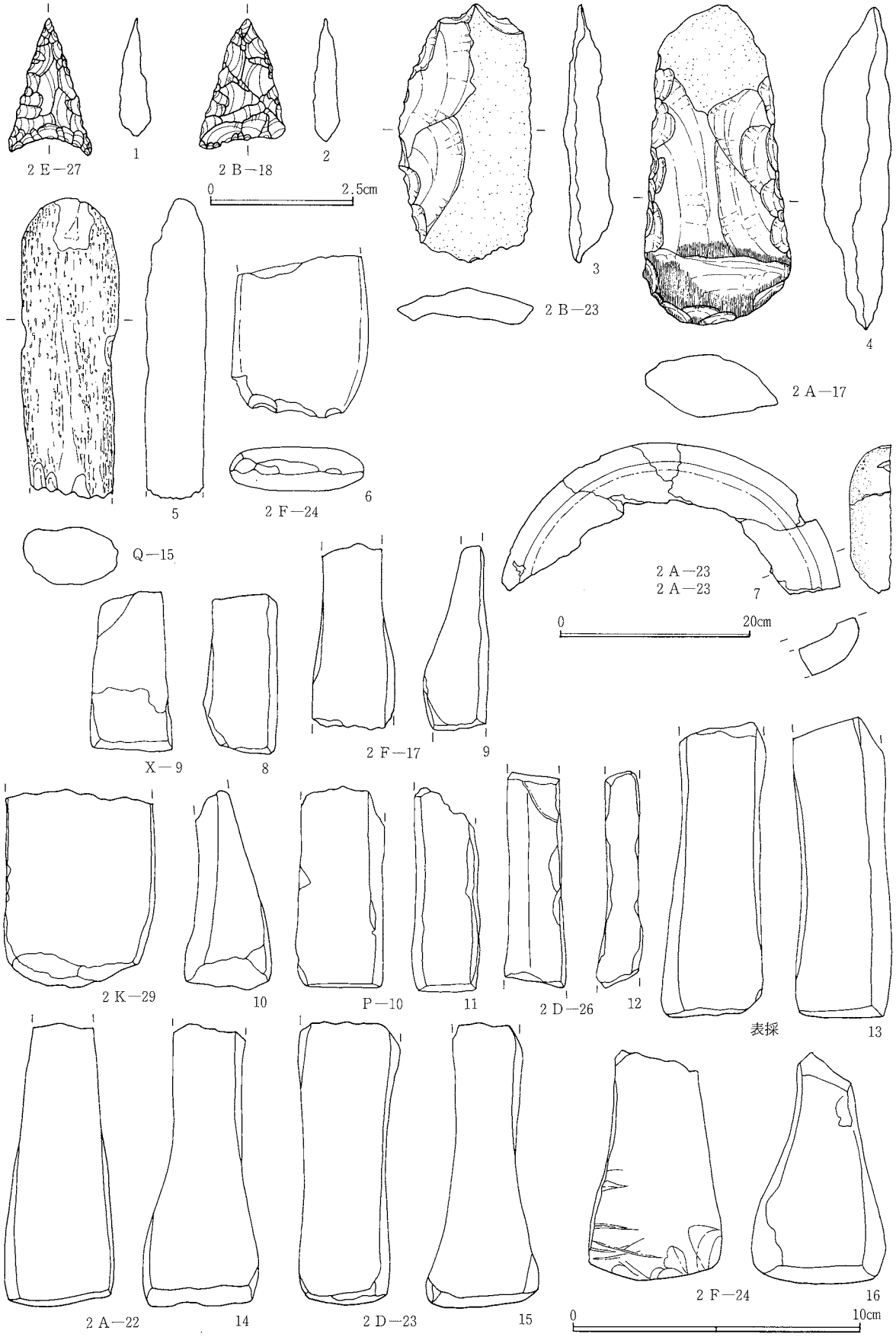
第40図　上久保遺跡M－2号水路実測図



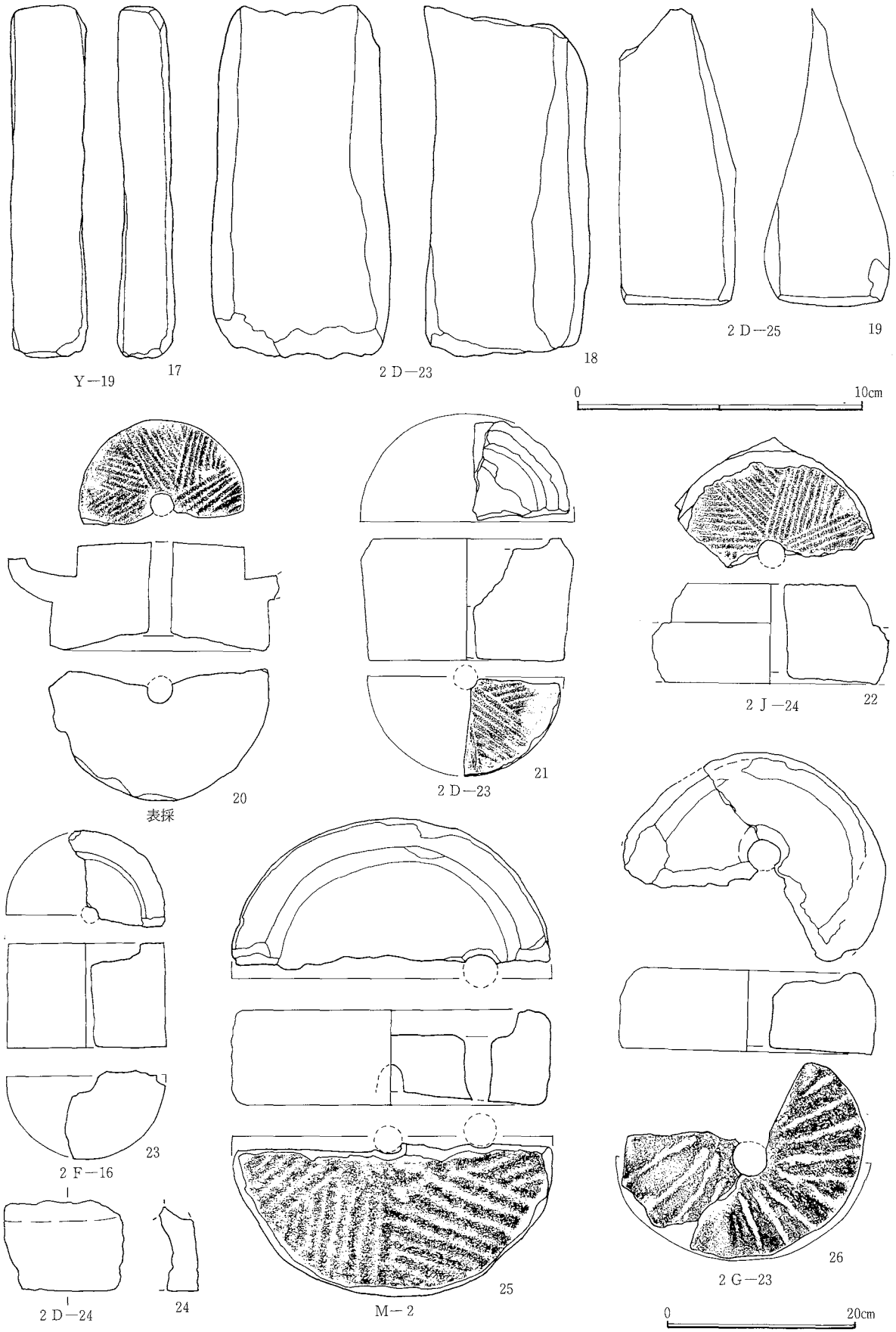
第41図　上久保遺跡T－3竪穴状遺構実測図



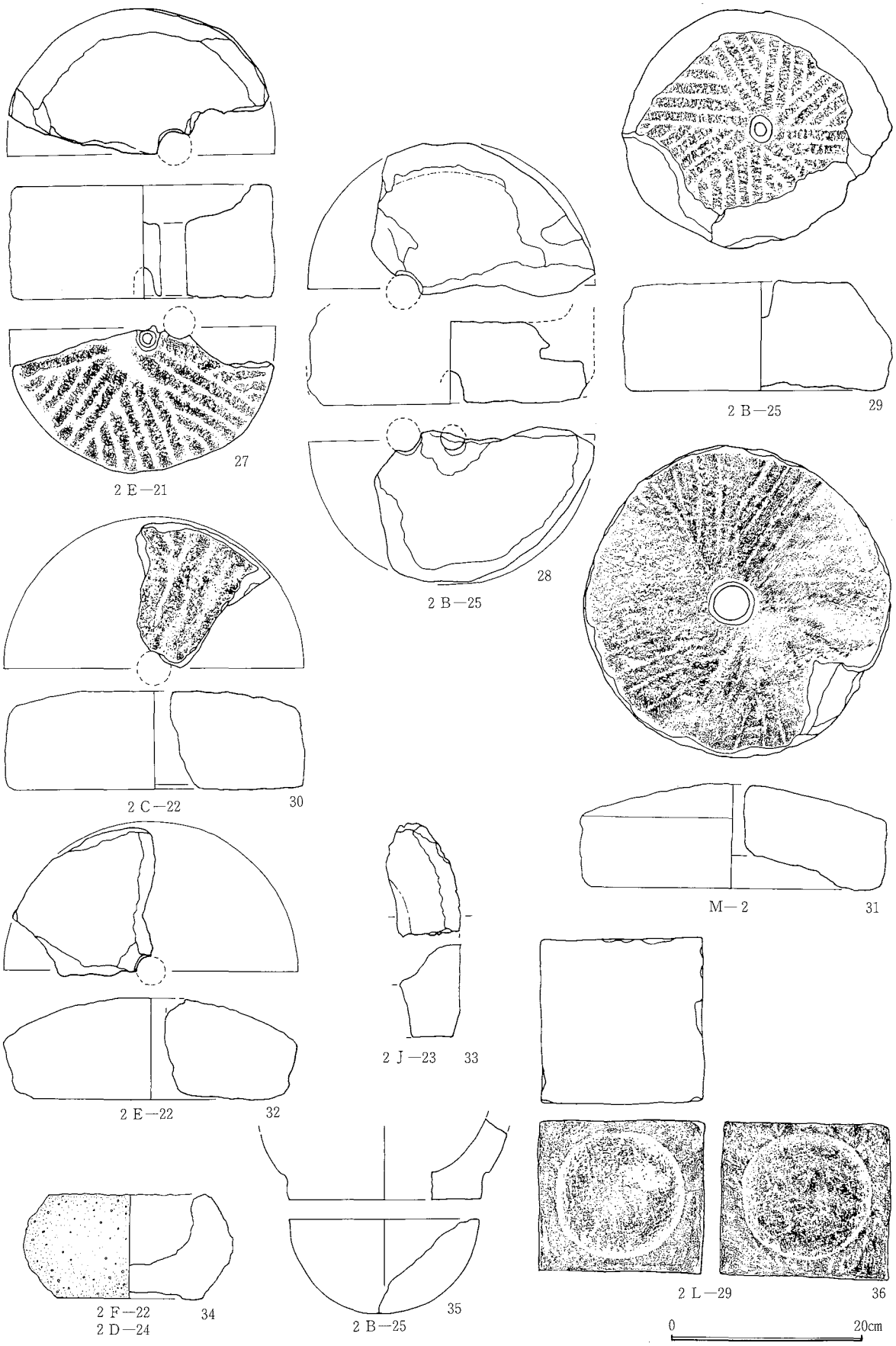
第42図　上久保遺跡グリッド出土遺物実測図



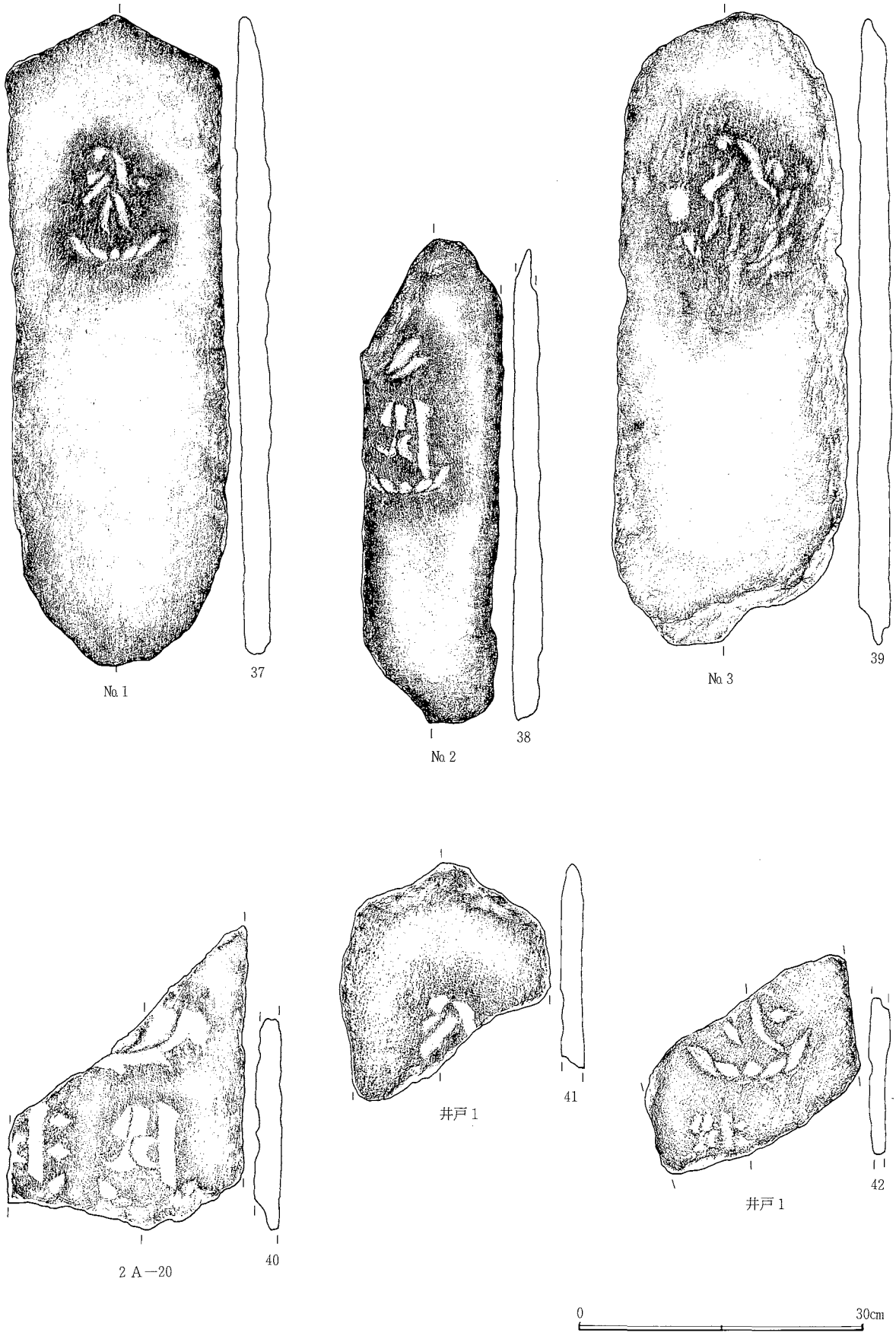
第43図　上久保遺跡グリッド出土の石器・砥石実測図



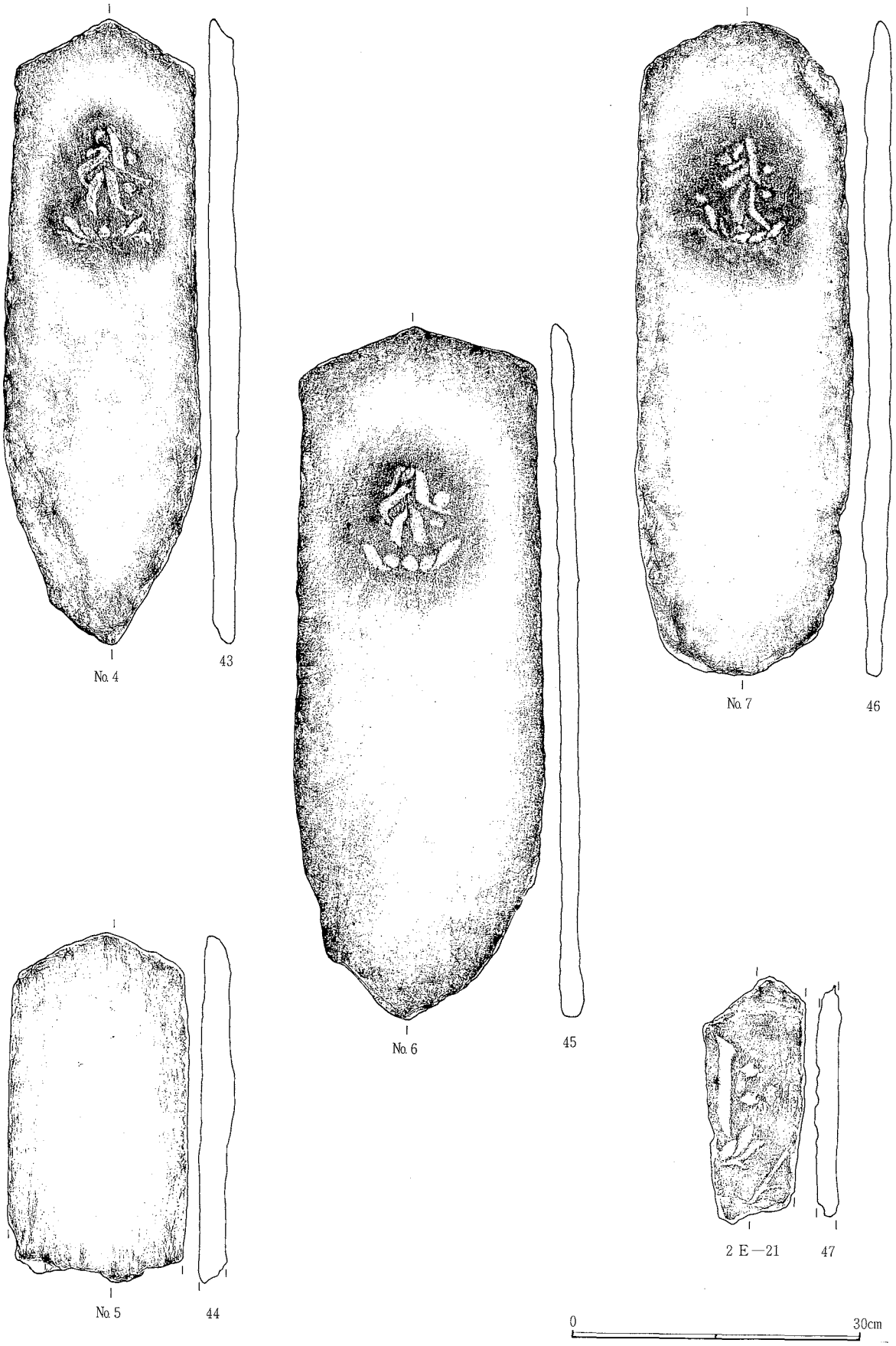
第44図　上久保遺跡グリッド出土の砥石・石臼実測図



第45図　上久保遺跡グリッド出土の石臼・石皿・塔実測図



第46図　上久保遺跡板碑実測図(1)



第47図　上久保遺跡板碑実測図(2)

遺跡観察表

H－1

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　— 底　7.6 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　やや不良	2/3 3区上層
2	土師器 坏	口　14.6 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口辺部～体部にかけての一部 3区上層
3	須恵器 坏	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　浅黄橙色 焼　やや不良	破片 ＊外面スス付着
4	須恵器 坏	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 3区上層
5	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	口縁部の破片 カマド
6	土師器 甕	口　(21.0) 底　— 高　(7.0)	外面：横ナデ、胴上部へラナデ 内面：（回転）横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺部～頸部の一部 カマド

H－2

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　— 底　(6.0) 高　(1.2)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	破片 4区上層
2	須恵器	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	破片 3区下層
3	須恵器	口　(15.0) 底　— 高　(3.5)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　淡橙色 焼　やや不良	破片 4区上層
4	須恵器	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	破片 2区下層

H－3

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　12.8 底　6.0 高　3.3	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 ＊ゆがみ少々有り 2区下層
2	須恵器 坏	口　12.2 底　6.8 高　3.1	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 2区下層
3	須恵器 坏	口　14.6 底　7.5 高　3.7	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 ＊内外面スス付着 4区下層
4	須恵器 坏	口　14.2 底　7.8 高　4.0	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 ＊ゆがみ有り 4区上層 1区下層 4区下層

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
5	土師器 小型甕	口　— 底　— 高　(9.4)	内外面共に回転横ナデ 外面：胴下位斜方向ヘラケズリ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい橙色 焼　良	胴部4/5 ＊内外面スス付着 2区下層
6	須恵器 甕	口　(20.2) 底　(11.6) 高　(13.1)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/3 カマド
7	土師器 甕	口　(20.2) 底　— 高　(8.9)	外面：口縁部～胴上部回転横ナデ、胴上部縦方向ナデ 内面：口縁部～胴上部回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の1/3 2区上層
8	土師器 甕	口　(16.6) 底　— 高　(6.3)	外面：口辺部横ナデ、胴上部ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺部～頸部にかけての一部 2区下層
9	土師器 甕	口　(18.0) 底　— 高　(6.0)	外面：口辺部横ナデ、胴上部ヘラナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺部～頸部にかけての一部 2区上層
10	土師器 甕	口　(23.4) 底　(5.0) 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺部の一部 2区下層

H－4

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　12.8 底　7.6 高　3.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を多量に含む 色　暗灰色 焼　良	2/31 2区床直
2	須恵器 坏	口　13.2 底　5.9 高　3.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を多量に含む 色　灰色 焼　良	3/4 ＊外面に焼きむら有り 9区下層 16区床直
3	須恵器 坏	口　(13.6) 底　(7.8) 高　2.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　暗灰色 焼　良	1/4 6区床直
4	須恵器 坏	口　14.6 底　7.4 高　3.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　淡黄色 焼　やや不良	2/3 ＊外面一部にスス付着 16区床直
5	須恵器 坏	口　15.0 底　7.4 高　3.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　淡黄色 焼　やや不良	3/4 *内外面の一部にスス付着 12区床直
6	須恵器 坏	口　16.0 底　8.3 高　5.7	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	ほぼ完形 16区床直
7	須恵器 坏	口　20.6 底　— 高　7.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂礫を含む 色　灰色 焼　良	9/10 16区床直
8	土師器	口　— 底　— 高　—	外面：頸部横ナデ、体部ヘラナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	破片 カマド
9	土師器	口　— 底　— 高　—	外面：頸部横ナデ、体部ヘラナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	破片 12区床直
10	須恵器 坏	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　暗灰色 焼　良	破片 12区下層

H－5

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　13.4 底　8.0 高　3.3	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/4
2	須恵器 坏	口　— 底　(10.0) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　やや不良	底部破片
3	須恵器 坏	口　— 底　10.6 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　明褐灰色 焼　不良	1/5
4	須恵器 蓋	口　(18.0) ツマミ径 — 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	1/3
5	土師器 甕	口　(18.0) 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色	口縁部～胴部
6	須恵器 甕	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部 ＊外面に土器破片付着、自然釉有り

H－6

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	土師器 甕	口　29.0 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部 カマド

H－7

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	土師器 坏	口　11.8 底　— 高　4.9	外面：口縁部横ナデ、体底部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　にぶい黄橙色 焼　やや不良	3/4 ＊内面にすす付着 5区西壁面

H－8

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　(12.0) 底　(6.6) 高　4.1	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　明オリーブ灰色 焼　良	1/5 3区カクラン
2	須恵器 坏	口　(6.5) 底　(3.5) 高　3.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/6 3区カクラン
3	須恵器 坏	口　(14.0) 底　(9.0) 高　4.0	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/2 ＊外面に破片付着 ＊外面と内面に自然釉有り 2区下層
4	土師器 甕	口　(13.0) 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　褐色 焼　良	口縁部～胴部 ＊内面にスス付着 1区上層
5	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部破片 ＊内外面共にスス付着 3区カクラン

H－9

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　13.6 底　8.6 高　4.2	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	2/3 16区床直
2	須恵器 坏	口　(7.5) 底　(9.0) 高　3.5	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 ＊底部窯壁融着、自然釉有り 10区１層
3	須恵器 坏	口　(12.0) 底　(9.0) 高　3.3	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	＊外面に自然灰釉付着 ２区１層
4	須恵器 坏	口　13.2 底　7.4 高　2.9	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を多量含む 色　灰色 焼　良	2/3 ８区１層
5	須恵器 蓋	口　— ツマミ径 4.0 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/5 ＊つまみ中央部突出 １区３層
6	須恵器 蓋	口　(16.6) ツマミ径　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を多量に含む 色　灰白色 焼　良	1/5 ６区１層
7	須恵器 高台付 碗	口　— 底　(7.8) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	底部破片 ５区１層
8	須恵器 高台付 坏	口　10.7 底　6.7 高　5.2	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	2/3 13区２層
9	須恵器 壺	口　11.4 底　— 高　(7.0)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口辺～胴上部の1/2 ５区３層 ９区３層 E38G F38G
10	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	口縁部破片 ＊内面にスス付着 13区１層
11	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	口縁部破片 16区３層
12	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部破片 カマド
13	須恵器 大型甕	口　(46.0) 底　— 高　(18.5)	外面：口辺部回転横ナデ、波状紋有り、胴部タタキ痕有り 内面：口辺部回転横ナデ、胴部あて具痕有り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口縁部～胴上半部の1/3 ＊内外面に自然釉付着 ５区１層 D38G E38G

H－10

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　(11.5) 底　6.0 高　2.6	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 ＊粗雑 ６区ベルト１層

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
2	須恵器 坏	口　13.0 底　6.3 高　3.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 16区床直
3	須恵器 坏	口　12.8 底　6.6 高　3.9	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	完形 14区３層
4	須恵器 坏	口　13.6 底　7.5 高　3.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　良	2/3 13区ベルト３層 ２区３層
5	須恵器 坏	口　(12.8) 底　(6.5) 高　3.4	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　不良	1/5 16区２層
6	須恵器 坏	口　13.0 底　6.5 高　3.5	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	完形 16区床直
7	須恵器 坏	口　(14.0) 底　7.9 高　3.6	内外面共に回転横ナデ、底部回転ヘラ切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/2 13区ベルト３区 カマド２
8	須恵器 坏	口　7.0 底　6.6 高　4.0	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/2 ＊内外面にスス付着 カマド２
9	須恵器 高台付 坏	口　13.8 底　7.0 高　2.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	2/3 ＊内外面に自然灰釉少量付着
10	須恵器 高台付 碗	口　14.8 底　7.8 高　5.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 13区３層
11	須恵器 高台付 碗	口　15.8 底　7.9 高　5.9	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	ほぼ完形 カマド２
12	須恵器 碗	口　14.7 底　9.0 高　5.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰白色 焼　やや不良	2/3 13区ベルト３層
13	土師器 小型甕	口　(12.0) 底　— 高　(3.5)	外面：口辺部横ナデ、胴上部横方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺の一部 14区３層
14	土師器 甕	口　17.0 底　— 高　8.3	外面：口辺部横ナデ、胴上部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　赤褐色 焼　良	破片 13区２層
15	土師器 甕	口　(19.0) 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 内面：口縁部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	口縁部～胴部1/5 ＊内外面スス付着 16区２層
16	土師器 甕	口　— 底　— 高　—	外面：口辺部横ナデ、胴上部横ヘラミガキ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	破片 カマド２
17	土師器 甕	口　(13.8) 底　— 高　(6.4)	外面：口辺～頸部にかけて横ナデ、胴上部斜方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　細砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺～胴上部にかけて1/2 13区２層
18	土師器 甕	口　(20.0) 底　— 高　(7.0)	外面：口辺部横ナデ、胴上部斜ないし横方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　褐色 焼　良	口辺～胴上部1/4 カマド

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
19	土師質羽釜	口　17.0 底　— 高　(10.1)	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	口辺～体部にかけての一部 ２区３層 10区２層 14区１層
20	土師器甕	口　(18.6) 底　— 高　13.0	外面：口辺部横ナデ、胴上部斜方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺～胴中部1/4 カマド２
21	土師質羽釜	口　(22.0) 底　— 高　11.0	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄色 焼　やや不良	口辺と体部の一部 ＊内面に少量のスス付着 ９区１層 14区１層
22	須恵器鉢	口　22.0 底　— 高　(13.2)	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	口辺～体部の2/3 ＊整形粗雑 ５区３層
23	土師質羽釜	口　(21.5) 底　— 高　(11.5)	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい赤褐色 焼　やや不良	口辺～体部にかけての一部 ＊内外面にスス付着 ９区１層 14区１層
24	須恵器鍋	口　26.0 底　— 高　(19.9)	内外面共に横ナデ、継部に８つの穴（径５ミリ）有り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	口辺～胴上部にかけての1/2 ＊整形粗雑 ９区３層 13区１層 13区ベルト３層

H－11

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	土師器坏	口　12.0 底　8.0 高　3.9	外面：口縁部横ナデ、体底部ヘラケズリ 内面：横ナデ後体部放射状ヘラミガキ、底部コイル状ヘラミガキ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	1/2 ６区床直
2	土師器坏	口　(14.0) 底　— 高　(3.8)	外面：口縁～体部にかけて横ナデ、体底部横ヘラケズリ 内面：横ナデ後斜ヘラミガキ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	1/6 16区床直
3	土師器坏	口　14.0 底　— 高　4.0	外面：口縁部横ナデ、体底部横ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	1/6 ６区床直
4	土師器坏	口　16.8 底　10.3 高　6.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転ヘラ切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	3/5 16区床直
5	土師器	口　— 底　— 高　—	外面：口辺部回転横ナデ、胴上部ヘラケズリ 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　明赤色 焼　良	破片 16区床直
6	須恵器甕	口　(17.4) 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	口縁部～胴部1/4 16区床直

A区グリッド

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
33	土師器 蓋	口　(10.2) ツマミ径 — 高　(1.6)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　暗褐色 焼　良	破片 トレンチ一括
34	須恵器 蓋	口　(18.0) ツマミ径 — 高　(1.9)	内外面共に回転横ナデ、天井部回転ヘラケズリ	胎　細砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	破片 トレンチ一括
35	須恵器 高台付 坏	口　— 底　(9.0) 高　(2.4)	内外面共に横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	破片 表採
36	須恵器 高台付 坏	口　— 底　(12.2) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　細砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 表採
37	須恵器 坏	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 表採
38	須恵器 坏	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 表採

B区グリッド

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
13	土師器 坏	口　10.8 底　— 高　3.4	外面：口縁部横ナデ、体底部横方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　明褐色 焼　良	ほぼ完形 1H23G
14	土師器 小型甕	口　(6.6) 底　— 高　(4.3)	外面：口辺部横ナデ、胴部ヘラナデ 内面：口辺部横ナデ、胴部ヘラケズリ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい橙色 焼　良	破片 1C21G
15	土師器 高坏	口　— 底　— 高　—	外面：脚部縦ヘラケズリ 内面：脚部不定方向ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　やや不良	脚部の破片 1C18G
16	土師器 甕	口　(20.8) 底　— 高　(6.0)	外面：口辺部横ナデ、体部ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　明赤褐色 焼　良	破片 1J26G
17	土師器 高台付 碗	口　(14.2) 底　(7.0) 高　5.0	内外面共に回転横ナデ、底部高台欠損	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　やや不良	1/6 1I21G
18	土師器 甕	口　— 底　4.6 高　(18.0)	外面：縦ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　赤褐色 焼　良	胴中部～底部にかけて1/2 1H23G
19	須恵器 坏	口　13.4 底　7.4 高　2.7	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	1/2 1I19G
20	須恵器 坏	口　(13.2) 底　7.6 高　3.1	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　やや不良	1/2 1I19G
21	須恵器 坏	口　(14.8) 底　(7.8) 高　4.8	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂礫を含む 色　灰色 焼　良	1/4 1I22G
22	須恵器 坏	口　— 底　— 高　(1.8)	内外面共に回転横ナデ、底部回転ヘラ切り	胎　砂粒を含む 色　暗灰色 焼　良	破片 1I25G

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
23	須恵器 坏	口　(12.4) 底　(8.6) 高　3.6	内外面共に回転横ナデ、底部回転ヘラ切り後回転ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/5 1 D21G
24	須恵器 坏	口　(12.2) 底　(6.7) 高　3.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰白色 焼　やや良	1/4 1 I 22G
25	須恵器 蓋	口　— ツマミ径 (6.6) 高　(1.6)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	つまみ部～天井の1/2 1 I 20G
26	須恵器 蓋	口　(14.6) ツマミ径　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 1 G19G
27	須恵器 蓋	口　(19.0) ツマミ径　— 高　(1.7)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰白色 焼　良	破片 1 I 22G
28	須恵器 長頸壺	口　— 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	頸部のみ ＊No.29と同一？ 表採
29	須恵器 長頸壺	口　— 底　7.6 高　(5.7)	内外面共に横ナデ、ロクロ調整	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	体底部～底部 ＊内外面粗雑 ＊No.28と同一？ 表採
30	須恵器 壺 (骨壺)	口　(15.0) 天井部径 (13.0) 高　(2.8)	内外面共に回転横ナデ、天井部回転ヘラ切り	胎　細砂粒を多量に含む 色　灰色 焼　良	1/8 1 H20G
31	須恵器 壺	口　— 底　(9.2) 高　(10.9)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　暗灰色 焼　良	頸部～底部の1/3 1 K25G
32	瓦質陶 器	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　やや不良	破片 1 E21G
33	瓦質陶 器	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を多く含む 色　暗灰色 焼　やや不良	破片 井戸1
34	瓦質陶 器	口　(29.6) 底　— 高　(13.7)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 ＊外面にスス付着 1 E17G
35	鎌	残存長5.0 刃幅　0.5	鉄製		1 E17G
36	釘	長さ　3.4 直径　0.5	鉄製		1 E20G
37	キセル 吸口	長さ　5.9 直径　1.0	銅製		1 G20G

C区グリッド

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
9	須恵器 坏	口　(11.0) 底　6.2 高　3.7	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/5 1 J 39G
10	須恵器 坏	口　(13.4) 底　(8.4) 高　3.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 1 H40G
11	須恵器 坏	口　(13.0) 底　(8.0) 高　3.4	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 ＊内外面に自然釉多量に付着 ＊口縁部内側に口縁部別個体融着 1 F38G
12	須恵器 坏	口　(14.3) 底　— 高　(3.9)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	破片 1 E38G
13	須恵器 高台付 碗	口　— 底　(10.2) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　細砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/5 1 J 39G
14	須恵器 高台付 碗	口　— 底　(7.0) 高　(2.3)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	底部の1/2 1 F38G
15	須恵器 高台付 碗	口　— 底　(8.5) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	底部の1/3 1 F38G
16	須恵器 高台付 碗	口　— 底　7.8 高　(2.2)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	底部の1/2 1 J 39G
17	須恵器 碗	口　16.4 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	1/4 1 E38G
18	須恵器 蓋	口　— ツマミ径 (4.0) 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/5 1 E38G
19	須恵器 蓋	口　(16.0) ツマミ径 — 高　(1.7)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 1 E38G
20	須恵器 蓋	口　(14.4) ツマミ径 — 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/5 1 F38G
21	須恵器 蓋	口　— ツマミ径 — 高　(2.5)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 1 E38G
22	須恵器 蓋	口　(16.0) ツマミ径 — 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　細砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	破片 1 E38G
23	須恵器 甕	口　(18.0) 底　— 高　(11.9)	外面：口辺部横ナデ、胴上部ヘラナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	口縁部～胴上部の一部 1 F38G

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
24	須恵器 蓋 (骨壺)	口　(14.6) 天井部径 　　(11.2) 高　(2.9)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 1Ｅ38Ｇ
25	須恵器 蓋 (骨壺)	口　(17.5) 天井部径 　　(14.6) 高　(1.8)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/4 1Ｅ38Ｇ
26	須恵器 羽釜	口　(17.0) 底　— 高　(5.5)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	破片 1Ｊ40Ｇ
27	須恵器 羽釜	口　(20.8) 底　— 高　(9.4)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　褐灰色 焼　良	破片 ＊外面にスス付着 1Ｆ44Ｇ
28	須恵器 甕	口　(18.0) 底　— 高　—	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口縁部の一部 1Ｅ38Ｇ ＊一部にスス付着
29	須恵器 壺	口　10.8 底　— 高　(9.1)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口縁部～頸部3/4 1Ｅ38Ｇ
30	須恵器 瓶の口 ？	口　(10.8) 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口辺部の1/3 1Ｅ38Ｇ
31	須恵器 壺	口　11.0 底　11.0 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	口辺部と体底部の1/4 1Ｅ38Ｇ
32	須恵器 碗	口　— 底　(10.6) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/3 1Ｅ38Ｇ
33	須恵器 壺	口　— 底　9.6 高　(11.5)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	底部～胴中部1/3 ＊外面に自然釉少々有り 1Ｆ38Ｇ
34	須恵器 壺	口　11.0 底　11.0 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	口辺部と体底部の1/4 1Ｅ38Ｇ
35	須恵器 壺	口　(25.8) 底　— 高　(8.6)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　灰色 焼　良	口辺部～頸部1/3 1Ｅ38Ｇ
36	須恵器 甕	口　(21.6) 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴上部タタキ 内面：口縁部横ナデ、胴上部おさえ	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	口縁部～胴上部の1/5 1Ｆ38Ｇ
37	須恵器 長頸瓶	口　(15.6) 底　— 高　—	外面：口頸部回転横ナデ、体部タタキ 内面：タタキ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口頸部～胴上部の1/3 1Ｅ38Ｇ
38	須恵器 甕	口　24.0 底　— 高　(18.0)	外面：横ナデ 内面：口辺部横ナデ、体部あて具痕有り	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口辺部～胴上部にかけての2/3 ＊内外面に自然灰釉付着 1Ｅ38Ｇ
39	キセル	長さ　4.2 直径　1.0	銅製		1Ｅ40Ｇ

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
40	キセル	長さ　3.4 厚さ　1.6 先口　1.7 末口　1.1	銅製鋳造物		完形
41	キセル	長さ　9.3 直径　1.0	銅製		1 F44G

B 4住居

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	須恵器 坏	口　(16.4) 底　— 高　(4.9)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/4 カマド周辺
2	須恵器 坏	口　(13.8) 底　(7.2) 高　(3.8)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を含む 色　黒色 焼　良	1/4 15区床直 ＊内外面にスス付着
3	須恵器 高台付 碗	口　(14.6) 底　— 高　(4.5)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	1/4 13区4層
4	須恵器 高台付 碗	口　(12.2) 底　(7.0) 高　5.5	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を少量含む 色　明灰褐色 焼　やや不良	1/3 12区4層
5	須恵器 坏	口　— 底　(8.0) 高　—	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　灰色 焼　良	1/5 9区4層
6	高台付 皿	口　13.5 底　7.3 高　3.1	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　荒砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	7/8 ＊ひずみ有り貯蔵穴
7	土師器 甕	口　(20.0) 底　— 高　—	外面：口辺部横ナデ、胴上部横方向へラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	口辺～胴上部にかけての破片 14区4層
8	土師器	口　— 底　— 高　—	外面：口辺部横ナデ、頸部へラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　橙色 焼　良	破片貯蔵穴 ＊内面一部スス付着
9	瓦質陶 器甕	口　(24.0) 底　— 高　(10.9)	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	口縁部～胴中部の1/4 床直
10	土師器 甕	口　(21.0) 底　— 高　—	外面：口縁部横ナデ、胴上部横へラケズリ 内面：口縁部横ナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　良	口縁部一括（表面）
11	須恵器 堝	口　(27.6) 底　— 高　(12.1)	内外面共に回転横ナデ、ロクロ調整あり内面に輪積痕あり	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　良	1/5 貯蔵穴
12	瓦質陶 器壺	口　14.7 底　— 高　(12.5)	内外面共に回転横ナデ、外面に自然灰釉付着	胎　荒砂粒を含む 色　灰色 焼　やや不良	口縁部～胴中央部にかけての4/5 貯蔵穴

B４―井戸

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
1	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　(8.7)	外面：回転横ナデ 内面：ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい赤褐色 焼　良	破片 ＊内外面スス付着
2	瓦質陶器鉢	口　― 底　― 高　(10.0)	外面：回転横ナデ 内面：ヘラナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 ＊外面スス付着

B４―グリッド

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
2	瓦質陶器	口　― 底　9.4 高　6.0	外面：工具を使った紋様あり 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	実測の高さの2/3 ２Ｉ26Ｇ
3	土師器小皿	口　7.5 底　5.5 高　1.8	内外面共に横ナデ、底部回転糸切り	胎　砂粒を少量含む 色　橙色 焼　良	ほぼ完形 ２Ａ21Ｇ
4	高台付皿	口　― 底　7.0 高　(2.0)	内外面共に回転横ナデ、底部回転糸切り後付高台	胎　砂粒を含む 色　灰白色 焼　やや良	底部のみ ２Ｈ27Ｇ
5	瓦質陶器鉢	口　― 底　― 高　11.7	外面：口縁部横ナデ、体部指ナデ、下部横ナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	1/8 ２Ｇ27Ｇ
6	瓦質陶器鉢？	口　― 底　― 高　(14.8)	外面：不定方向ナデ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　褐色 焼　良	破片 ２Ａ25Ｇ ＊内外面スス付着
7	瓦質陶器鉢	口　― 底　― 高　―	外面：口辺部横ナデ ＊注ぎ口あり	胎　砂粒を多量に含む 色　灰色	口辺部の破片 １Ｙ22Ｇ
8	瓦質陶器	口　― 底　― 高　―	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰色 焼　良	破片 ２Ａ21Ｇ
9	瓦質陶器	口　― 底　― 高　―	内外面共に回転横ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	破片 ２Ｂ５Ｇ ＊外面スス付着
10	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　(6.7)	内外面共に回転横ナデ、有孔	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	破片 ２Ｂ23Ｇ
11	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　―	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰黄褐色 焼　良	口辺部の破片 ２Ｊ23Ｇ
12	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　(9.8)	内外面共にナデ	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	破片 １Ｄ２Ｇ ＊外面スス付着
13	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　―	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を含む 色　灰褐色 焼　良	口辺部の破片 １Ｙ22Ｇ
14	瓦質陶器内耳堝	口　― 底　― 高　(9.5)	外面：横ナデ 内面：口辺部横ナデ、以下斜ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	破片 ２Ｊ23Ｇ ＊外面スス付着

No.	器種	法　量	器形・技法等の特徴	胎土・色調・焼成	依存状態・備考
15	瓦質陶器内耳堝	口　— 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　細砂粒を少量含む 色　暗灰色 焼　良	口縁部の破片 ２Ｅ23Ｇ
16	瓦質陶器鉢	口　— 底　(13.2) 高　—	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転横ナデ	胎　砂粒を多量に含む 色　灰色 焼　やや不良	胴下半部の1/4 ２Ａ18Ｇ
17	瓦質陶器鉢	口　— 底　(12.0) 高　(7.4)	外面：体底部縦及び横方向ヘラケズリ 内面：横ナデ	胎　砂粒を含む 色　黄灰色 焼　良	底部の1/5 １Ｙ22Ｇ
18	瓦質陶器内耳堝	口　(27.6) 底　— 高　—	内外面共に横ナデ	胎　砂粒を少量含む 色　黄褐色 焼　良	口縁部～胴部の1/10 ２Ｇ27Ｇ ＊外面スス付着
19	羽口	底　(8.5) 高　— 幅　(3.0)	＊先端焼溶	胎　砂粒を含む 色　にぶい黄橙色 焼　良	1/3？ ２Ｆ24Ｇ
20	羽口	直径　7.3 厚さ　2.3	＊一部鉄滓付着	胎　砂粒を多量に含む 色　にぶい黄橙色 焼　不良	１Ｄ２Ｇ
21	羽口	底　(8.0) 高　— 幅　2.5	＊先端に焼溶スス付着	胎　砂粒を含む 色　にぶい橙色 焼　良	1/2？ １Ｄ２Ｇ

B３A区

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
1	石鏃	黒曜石	3.95	1.65	0.5	4.1	C２G
2	石鏃	黒曜石	2.35	1.45	0.6	1.5	No.６G
3	石鏃	黒曜石	2.25	1.45	0.45	1.2	E04G
4	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.35	0.9	I04G
5	石鏃	黒曜石	2.0	1.6	0.35	1.2	表採
6	石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.25	0.8	表採
7	石鏃	黒曜石	(1.7)	1.24	0.3	1.0	表採
8	石鏃	黒曜石	1.8	1.55	0.35	1.1	表採
9	石匙	頁岩	4.2	6.6	1.2	23.6	F07G
10	石匙	頁岩	4.9	2.2	0.9	8	表採
11	石匙	頁岩	3.9	7.9	1.4	32	C09G
12	打製石斧	頁岩	9.0	4.8	1.7	83	N11G
13	打製石斧	頁岩	9.4	6.7	2.8	222	L12G
14	打製石斧	頁岩	8.3	4.3	1.4	54	J２G
15	打製石斧	頁岩	10.2	4.8	1.9	109	N11G
16	打製石斧	頁岩	9.0	4.6	1.3	76	G７G
17	打製石斧	頁岩	12.2	8.0	2.6	276	M７G
18	打製石斧	頁岩	10.3	4.3	1.6	100	L６G
20	打製石斧	安山岩	10.3	5.6	3.3	257	G７G
21	打製石斧	頁岩	11.5	5.5	3.4	236	K６G
22	打製石斧	頁岩	10.4	5.6	2.3	131	表採
23	打製石斧	頁岩	22.2	4.7	2.4	110	N11G
24	打製石斧	頁岩	11.0	4.5	2.5	101	N11G
25	打製石斧（分銅型）	安山岩	13.2	8.2	2.9	338	E07G
26	打製石斧	頁岩	7.7	4.4	1.8	61	K９G
27	打製石斧	頁岩	10.5	3.7	2.1	95	N11G
28	打製石斧	頁岩	9.0	3.8	1.4	65	G７G
29	スクレイパー	頁岩	7.4	4.4	1.8	56	C５G
30	スクレイパー	頁岩	4.5	4.9	1.1	21	G10G
31	スクレイパー	頁岩	4.8	5.4	2.3	66	C１G
32	スクレイパー	頁岩	7.0	10.6	3.2	246	G２G
33	スクレイパー	頁岩	7.2	4.0	2.0	63	K05G
34	スクレイパー	頁岩	8.6	5.2	2.6	107	C１G
35	スクレイパー	頁岩	7.3	4.7	2.0	59	E04G
36	スクレイパー	安山岩	8.2	5.2	2.0	91	L９G
37	スクレイパー	頁岩	7.4	6.6	2.1	83	H31G
38	スクレイパー	頁岩	7.6	5.1	1.9	62	C６G

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
39	磨石	安山岩	9.2	6.5	4.2	340	J 1住
40	磨石	安山岩	5.0	5.7	3.0	125	H04G
41	磨石	安山岩	7.0	4.5	2.3	89	E 1 G
42	磨石	安山岩	5.3	3.8	3.8	108	G 2 G
43	磨石	安山岩	5.9	5.3	2.3	101	H 1 G
44	磨石	安山岩	5.2	5.3	3.4	116	L07G
45	磨石	安山岩	7.0	7.0	3.2	242	E 1 G
46	磨石	安山岩	8.3	6.5	4.3	261	H 3 G
47	磨石	安山岩	13.3	11.4	4.7	632	B08G
48	磨石	安山岩	8.6	6.3	4.5	394	H 1 G
49	磨石	安山岩	8.8	8.5	3.0	326	F 6 G
50	磨石	安山岩	10.0	7.0	4.3	401	H 3 G
51	磨石	安山岩	9.7	8.5	4.7	531	B09G
52	磨石	安山岩	9.1	8.4	5.8	595	I 1 G
53	磨石	安山岩	9.5	8.4	4.7	546	G 7 G
54	磨石	安山岩	10.0	9.6	5.2	609	G 2 G
55	磨石	安山岩	12.0	6.4	4.0	503	G 7 G
56	磨石	安山岩	10.3	9.7	6.5	759	H08G
57	磨石	安山岩	9.9	9.4	(8.8)	1140	E08G
58	磨石	安山岩	12.0	9.6	7.0	1380	G 2 G
59	磨石	安山岩	(11.4)	7.5	6.0	754	G 7 G
60	磨石	安山岩	9.3	8.9	8.2	1258	表採
61	磨石	安山岩	11.4	8.4	6.8	920	H05G
62	磨石	安山岩	(11.5)	9.3	5.1	766	108G
63	磨石	安山岩	12.0	10.1	4.3	771	表採
64	磨石	安山岩	(8.8)	8.6	6.1	683	H 3 G
65	磨石	安山岩	10.0	4.6	4.9	368	C 7 G
66	磨石	安山岩	(7.5)	6.1	3.3	254	M06G
67	磨石	安山岩	(7.4)	(5.9)	4.3	245	H08G
68	磨石	安山岩	(10.0)	(6.7)	5.7	557	B 1 G
69	磨石	安山岩	(10.1)	5.8		333	E06G
70	磨石	安山岩	(10.0)	6.2	4.2	318	B 5 G
71	磨石	安山岩	(5.0)	7.2	4.6	287	H08G
72	磨石	安山岩	(7.0)	(7.1)	3.0	210	N10G
73	磨石	安山岩	(7.4)	(8.6)	4.4	401	B 8 G
74	磨石	安山岩	(7.0)	4.1	3.0	108	G 7 G
75	凹石	安山岩	7.8	6.5	2.7	199	J 04G
76	凹石	安山岩	7.3	5.7	3.6	225	F05G

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
77	凹石	安山岩	9.0	6.8	3.0	217	D 7 G
78	凹石	安山岩	9.0	6.8	4.3	307	H 7 G
79	凹石	安山岩	10.0	7.2	4.5	477	F 9 G
80	凹石	安山岩	9.8	4.5	4.0	214	E 1 G
81	凹石	安山岩	8.3	7.8	3.8	336	J 04G
82	凹石	安山岩	9.0	(8.2)	4.1	416	F07G
83	凹石	安山岩	20.5	8.4	3.5	364	N09G
84	凹石	安山岩	9.3	8.9	4.1	493	N11G
85	凹石	安山岩	10.1	8.8	3.7	434	D 6 G
86	凹石	安山岩	11.0	13.6	5.0	634	E 7 G
87	凹石	安山岩	10.4	9.2	5.5	725	H 8 G
88	凹石	安山岩	11.0	9.7	6.0	810	M 5 G
89	凹石	安山岩	12.9	7.6	5.3	628	D07G
90	凹石	安山岩	12.5	8.4	7.3	1170	C09G
91	凹石	安山岩	12.0	9.1	3.7	406	C 7 G
92	凹石	安山岩	11.0	9.2	5.1	686	105G
93	凹石	安山岩	12.6	7.6	3.8	452	F05G
94	凹石	安山岩	(7.3)	7.8	4.4	350	F07G
95	凹石	安山岩	7.3	7.1	4.3	291	L 9 G
96	凹石	安山岩	13.2	7.6	3.6	474	N11G
97	凹石	安山岩	11.5	7.2	4.7	610	M09G
98	敲石	安山岩	(6.7)	6.9	4.2	357	J 06G
99	敲石	安山岩	(8.7)	6.7	4.5	381	I 05G
100	敲石	安山岩	(8.0)	8.2	5.4	561	1 G
101	敲石	安山岩	11.4	7.1	3.0	390	K 9 G
102	敲石	安山岩	12.2	6.5	3.7	535	L12G
103	敲石	安山岩	11.6	6.4	4.8	511	G 2 G
104	敲石	安山岩	11.7	5.5	5.1	532	G 2 G
105	敲石	安山岩	13.5	6.6	4.7	721	E 7 G
106	敲石	安山岩	14.0	9.2	5.1	891	I 3 G
107	磨製石斧	緑色岩	(16.7)	5.3	2.9	387	J 09G
108	石皿	安山岩	14.0	(7.5)	7.0	2020	表採
109	石皿	安山岩	12.5	13.9	6.0	1570	C 1 G
110	台石（石皿）	安山岩	(10.6)	(10.6)	3.2	519	F07G
111	石皿	凝灰岩	(13.0)	(16.5)	7.0	2105	G 1 G
112	台石（石皿）	安山岩	(14.7)	(14.6)	3.4	1300	E 6 G
113	多石	溶結凝灰岩(秋間石)	(20.0)	(17.3)			
10.5	5330	集石					

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
114	石棒	安山岩	23.5	14.5	14.0	5790	表採
115	石棒	安山岩	(16.0)	13.1	13.2	3570	表採

B3B区

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
1	石鏃	黒曜石	1.3	1.8	0.25	0.7	H5住
2	石鏃	黒曜石	(2.4)	1.48	0.4	1.2	F20G
3	石鏃	黒曜石	1.6	1.35	0.28	0.75	G16G
4	石鏃	黒曜石	(1.3)	1.37	0.26	0.7	D17G
5	石鏃	黒曜石	2.7	1.76	0.3	1.5	E16G
6	石匙	黒頁岩(チャート？)	5.8	1.1	1.0	24	B28G
7	石匙	頁岩	6.6	2.5	1.1	16	F19G
8	打製石斧	頁岩	9.3	5.1	2.7	193	G20G
9	打製石斧	頁岩	8.7	4.8	1.6	70	F20G
10	打製石斧	頁岩	5.8	4.6	1.2	50	E16G
11	打製石斧	頁岩	6.3	6.9	2.1	106	F31G
12	打製石斧	頁岩	12.0	6.9	2.6	206	D18G
13	打製石斧	頁岩	9.9	3.7	1.7	58	C20G
14	打製石斧	黒色頁岩	8.5	4.5	2.2	106	F17G
15	スクレイパー	頁岩	9.1	4.1	2.1	73	D19G
16	スクレイパー	頁岩	7.2	4.4	1.7	59	F17G
17	スクレイパー	頁岩	7.7	4.3	1.7	68	F16G
18	磨石	安山岩	7.0	6.2	2.8	196	G15G
19	磨石	安山岩	9.0	6.2	3.0	256	E21G
20	磨石（砥石）	安山岩	7.6	7.5	5.2	460	G17G
21	磨石	安山岩	6.8	7.7	2.1	192	F18G
22	磨石（砥石）	安山岩	6.6	5.9	5.0	321	G10G
23	磨石	安山岩	8.0	6.1	4.0	300	G16G
24	磨石	安山岩	12.8	8.3	6.0	796	G20G
25	磨石	安山岩	13.0	9.7	4.2	894	I22G
26	磨石	硅質安山岩	13.0	4.2	2.1	175	E20G
27	磨石	安山岩	11.5	7.3	5.4	685	F20G
28	磨石（砥石）	安山岩	7.8	6.5	5.3	435	E20G
29	磨石（砥石）	安山岩	8.3	6.3	4.0	380	G17G
30	磨石	安山岩	17.2	13.5	4.5	1470	H23G
31	磨石（砥石）	安山岩	13.0	6.7	4.6	731	E16G
32	磨石（砥石）	安山岩	10.6	7.0	5.7	546	G19G
33	磨石	安山岩	11.5	7.5	3.5	439	F15G

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
34	磨石	安山岩	7.9	13.7	3.5	605	F21G
35	凹石	安山岩	7.5	7.1	5.2	393	B19G
36	凹石	安山岩	9.5	7.9	4.0	411	E16G
37	凹石	安山岩	10.9	7.3	3.6	401	G17G
38	凹石	安山岩	11.3	7.1	3.3	362	F15G
39	凹石	安山岩	11.6	8.0	6.0	860	F21G
40	凹石	安山岩	12.8	11.0	5.4	765	C17G
41	凹石	安山岩	10.5	9.4	6.6	704	F17G
42	凹石	安山岩	10.7	8.6	5.2	675	D16G
43	凹石	多孔質安山岩	9.7	7.6	5.7	289	G17G
44	凹石	安山岩	11.2	8.7	4.0	505	F19G
45	砥石	流紋岩	(10.4)	5.4	2.9	236	井戸1
46	砥石	流紋岩	8.1	2.6	3.6	130	F21G
47	砥石	流紋岩	(11.4)	5.6	3.7	242	F20G
48	砥石	流紋岩	(8.8)	3.1	2.1	78	F20G
49	砥石	流紋岩	(5.6)	4.3	3.7	93	D19G
50	石臼	安山岩	12.0	11.5	9.0	947	H17G

B3C区

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
1	石鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.3	0.9	H44G
2	石鏃	黒曜石	(1.6)	(4.5)	0.3	0.9	F38G
3	打製石斧	頁岩	9.1	5.1	1.8	87	F38G
4	スクレイパー	頁岩	8.6	4.6	1.4	66	H39G
5	打製石斧	頁岩	11.2	5.6	2.2	123	E38G
6	打製石斧	頁岩	9.5	3.8	1.7	51	F40G
7	スクレイパー	頁岩	4.7	7.2	1.0	25	J48G
8	凹石	安山岩	9.5	7.7	5.2	559	L46G
9	凹石	安山岩	12.3	7.0	3.4	494	K48G
10	凹石	安山岩	12.5	9.3	4.3	708	N46G
11	凹石	安山岩	15.2	11.3	5.0	1680	F42G

B4

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
1	石鏃	黒曜石	2.6	1.28	0.4	1.2	2E27G
2	石鏃	黒曜石	2.2	1.5	0.55	1.6	2B18G
3	打製石斧	緑色岩類	8.6	4.6	1.5	53	2B23G
4	打製石斧	頁岩	11.0	5.0	2.3	152	2A17G

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
5	石棒	結晶片岩	10.3	3.4	2.1	132	Q15G
6	磨製石斧	緑色岩類	(5.7)	4.8	1.5	80	2 F24G
7	石皿		径：(36.0) 厚：(4.5)			1580	2 A23G 2 A25G
8	砥石	流紋岩	(5.5)	2.7	2.5	54	X 9 G
9	砥石	流紋岩	(6.4)	2.6	2.1	46	2 F17G
10	砥石	流紋岩	(6.8)	5.1	2.9	102	2 K29G
11	砥石	流紋岩	(7.0)	2.8	2.3	68	P10G
12	砥石	流紋岩	(7.5)	2.2	1.3	24	2 D26G
13	砥石	流紋岩	(10.3)	3.5	2.75	151	表採
14	砥石	流紋岩	(9.8)	3.7	3.7	193	2 A22G
15	砥石	流紋岩	(9.8)	3.6	4.0	134	2 D23G
16	砥石	流紋岩	8.0	5.5	5.7	190	2 F24G
17	砥石	流紋岩	12.3	2.7	1.9	103	Y19G
18	荒砥石	安山岩	(12.3)	6.3	5.7	579	2 D23G
19	砥石	流紋岩	(10.3)	4.2	4.3	196	2 D25G
20	石臼（下臼）		上部直径： 17.7 最 大 幅：(32.6) 厚（高）： 11.5			3930	表採
21	石臼（上臼）	安山岩	直径：(22.8) 高 ： 13.0			1530	2 D23G
22	石臼（下臼）	安山岩	直径：(21.2) 高さ： 10.3			3160	2 J24G
23	石臼（上臼）	安山岩	長径：(17.0) 厚 ： 11.0			1170	2 F16G
24	石臼	凝結凝灰岩(秋間石)	— —			596	破片 2 D24G
25	石臼（上臼）	安山岩	直径： 34.0 高 ： 10.0			9200	M 2
26	石臼（上臼）	安山岩	長径： 27.4 厚 ： 8.6			5680	2 G23G
27	石臼（上臼）	安山岩	直径：(28.0) 高 ： 12.0			6070	2 E21G
28	石臼（上臼）	安山岩	径：(30.5) 厚：(10.0)			4160	2 B25G
29	石臼（下臼）	安山岩	直径： 28.5 高 ： 11.5			13200	2 B25G
30	石臼（下臼）	安山岩	直径：(31.4) 高 ： 10.4			2170	2 C22G
31	石臼（下臼）	安山岩	直径： 32.5 高 ： 11.0			13600	M 2

No.	器　　種	石　　質	長さ	幅	厚さ	重さ	備　　考
32	石臼（下臼）	安山岩	径：(31.0) 高： 10.5			2400	2 E22G
33	石臼		長さ(径)： — 幅　：— 厚　：9.6			992	2 J23G
34	石臼	多孔質安山岩	口径：16.5 底径：15.0 器高：10.8			3450	2 F22G 残存3/2
35	石臼（茶臼の下臼）	安山岩	最大幅：(26.0) 高　：(7.0)			774	2 B25G
36	塔の一部	安山岩	縦：15.9 横：17.4 厚：17.2			9500	2 L29G
37	板碑	緑色片岩	67.3	23.0	3.7	10500	No.1
38	板碑	緑色片岩	(49.3)	(15.8)	3.2	4420	No.2
39	板碑	緑色片岩	66.0	24.5	3.4	10700	No.3
40	板碑	緑色片岩	(27.0)	(25.0)	2.9	3200	2 A20G
41	板碑	緑色片岩	25.0	22.0	2.3	2090	井戸1
42	板碑	緑色片岩	(16.0)	22.7	2.2	1720	井戸1
43	板碑	緑色片岩	65.0	20.0	3.2	6700	No.4
44	板碑	緑色片岩	(36.5)	19.0	3.6	4330	No.5
45	板碑	緑色片岩	72.0	26.0	2.5	8500	No.6
46	板碑	緑色片岩	68.3	22.8	2.8	9100	No.7
47	板碑	緑色片岩	(25.0)	(11.0)	2.5	1200	2 E21G

Ⅶ　東上秋間遺跡群周辺の地質と石器石材

磯　貝　基　一

1．はじめに

東上秋間遺跡群は秋間丘陵の中にあって、北に稜線が東西に連なり、南を秋間川が東流している。秋間丘陵には多くの古墳、古窯跡、石造物、採石場跡などがみられ、古くから豊かな文化を築いてきた郷であることを物語っている。

しかし、近年地域内に四つのゴルフ場が造成され、近く北陸新幹線の通過に伴って新安中駅が作られるなど時代の流れの中で大きく変わろうとしている。東上秋間遺跡群は北陸新幹線、新安中駅周辺開発に伴って発掘され、多くの土器や石器が出土した。出土した石器の中には地元産の秋間石を使ったものもみられる。

そこで、秋間丘陵の地質について調査し、遺跡から出土した石器石材の原産地や搬入経路などについて検討した。

2．地形及び地質

秋間丘陵は榛名火山の南に位置し、烏川と秋間川に挟まれた地域である(第１図)。本稿の主な対象地域は標高150m～600mの稜線の南側である。主稜線はWNW－ＥＳＥで、稜線高度は600mから350mと東に移るにつれて高度を下げている。高度300～350m以上の地域は主に火山砕屑岩で構成され、300～350m以下の地域は礫岩、砂岩、泥岩、凝灰岩の堆積岩からなっている。また、ところどころにみられる平坦面や緩傾斜面にはローム層が堆積している。丘陵を浸食して秋間川が支流の般若沢川、久保川、苅稲川、日向川などを集めて東流し、流域に小規模な砂礫堆積物からなる低地を形成している。低地は河川にへばりつくように分布し、主に水田として耕作されている。

本地域には上部中新統～鮮新統と考えられている礫岩を主とする上部板鼻層と火山砕屑岩からなる秋間層が広く分布している（第２図)。

板鼻層は板鼻付近の碓氷川河床を標式地として、藤岡市庚申山、高崎市観音山、安中市地域へと連続して分布する。走行50°～85°W、傾斜15°～30°Nの同斜構造を示す礫岩、砂岩、泥岩、凝灰岩からなる層厚600m以上の累層である。板鼻層は岩相、堆積環境などの違いにより、砂岩を主とする下部と礫岩を主とする上部に分けられる。本地域に分布する板鼻層はおもに上部層で、礫岩を主として砂岩、泥岩、凝灰岩を挟んでいる。礫岩はおもに硬砂岩、チャート、石英斑岩、流紋岩などの円礫からなり、秋間層に近づくにつれ安山岩礫を含むようになる。礫径は５cm～10cmのものが多く、礫層は一般に茶褐色を呈する。砂岩、泥岩の多くは礫岩の中に狭在し、連続性にかける。一部に互層をなす部分もあり、瑞林寺北方、御岳山南西方からはハンノキ、イヌシデ、ケヤキ、カエデなどの植物化石を産出している(第１表)。凝灰岩層は主なものが４枚あり、層厚は５m～20mである。４枚のうち２枚は連続性がよく、西から東へ追跡することができる。特に最下位の凝灰岩層は高崎市観音山、藤岡市庚申山へと連続し、板鼻層中

の重要な鍵層となっている。また、上位2枚の凝灰岩層は西部地域において溶結構造がみられる。凝灰岩層の上下付近にはところどころに薄い炭層を挟むが、連続性に欠ける。板鼻層は海退期の堆積物で構成され、上部板鼻層は淡水性の堆積物からなり、最上部の堆積時には西部地域は陸上化していたと考えられる。秋間層は下り貝付近の秋間川河床を標式地として、安中市北部から松井田町北部にかけて分布している。走行N70°～90°W、傾斜10°～20°Nの同斜構造をなし、おもに凝灰角礫岩からなる層厚350m前後の累層である。秋間層は部分不整合の関係で板鼻層の上にのり、層厚は西部で厚く、東に移るにつれて薄くなる。岩相により下位より、含軽石・多孔質安山岩凝灰角礫岩層、茶褐色成層凝灰角礫岩層、礫岩・凝灰角礫岩層、溶結凝灰岩層に分けられる。これを秋間団体研究グループは森熊凝灰角礫岩部層、長岩凝灰角礫岩部層、大戸貝礫岩・凝灰角礫岩部層、茶臼山溶結凝灰岩層と呼んでいる。茶褐色成層凝灰角礫岩は特徴的な岩石で、西部から東部へと連続して分布し、秋間層中の鍵層となっている。溶結凝灰岩は溶結構造がよくみられ、稜線部に連続的に分布している。また、礫岩・凝灰角礫岩層中の細粒泥岩からはヒルムシロ、ヒシ、ブナ、コナラなどの植物化石の産出が報告されている。秋間層は南西方で活動した火山の山麓に堆積した火山性堆積物と考えられている。

第1表　上部板鼻層・秋間層中の植物化石

上部板鼻層	秋間層
1．Alnus aff. trabeculosa	1．Potamogeton sp.
2．Alnus aff. japonica	2．Fagus stuxbergii
3．Carpinus heigunensis	3．Trapa cf. angusticerata
4．Carex spp.	4．Trapa cf. macropoda
5．Rosa usyuensis	5．Hemitrapa sp.
6．Zelkova ungeri	6．Quercus subvariabilis
7．Alangium mikii	7．Trapa cf. mamminifera
8．Phragmites?sp.	8．Cladrastis aniensis
9．Acer nordenskioeldii	9．Liquidambar miocenica
10．Salix k-suzukii	10．Stewartia submonadelpha

（尾崎公彦他1981より作成）

ローム層は本地域の平坦面や緩傾斜面に2～10mの厚さで堆積しており、模式柱状図で表すと第3図のようになる。下位よりAs-MP（室田軽石）、As-BP（板鼻褐色軽石）、As-OKP（大窪沢軽石）、As-YP（板鼻黄色軽石）などを挟み、軽石、火山灰、火山砂、火山礫などからなる陸上火山堆積物である。本地域のローム層は主に浅間火山の噴出物によって構成されている。また、ローム層の上には表土（黒土）が堆積し、その中にもAs-A（浅間A軽石）、As-B（浅間B軽石）がところにより挟在しているのがみられる。

3．秋間石について

秋間地域では秋間層中の茶臼山溶結凝灰岩を秋間石と呼び、石材として江戸～明治時代には大量に採掘されていた。秋間石は西の茶臼山付近で最も厚く、東へ御岳山まで稜線にそって連続して分布するが、以東は高所に点在する。西方へは松井田町北部の三輪久保付近まで追跡できる。秋間層が北へ緩く傾斜していることから、烏川河床にも露出し、これは里見石として昭和30年代まで掘り出されていた。秋間石とほぼ同質のものは、長野県佐久市に志賀溶結凝灰岩と呼ばれて、広く分布している。茶臼山溶結凝灰岩と志賀溶結凝灰岩は、K-Ar法により絶対年代が測定されている。茶臼山溶結凝灰岩は3.50～3.66Ma、志賀溶結凝灰岩は3.12～3.35Maで、共に新生代鮮新世の火山噴出物であることを示している。両溶結凝灰岩は岩質、流理構造、分布状況などから、八風山の東付近に噴出源が想定される。そこから火

山活動に伴って多量の火砕流が放出され、多くは西方の佐久地域に流出したが、一部が北東方の秋間地域まで達し溶結したと考えられる。

秋間石は安山岩質の溶結凝灰岩で、安山岩に比べ軟らかく、加工しやすいことから、古くから石材として使用されてきた。縄文時代の多孔石、古墳時代の小形石棺、中世の磨鉢、江戸時代の供養塔、明治時代の常夜燈などの石造物が造られた(第2表)。秋間地域は古くから秋間石による石造文化を築いてきた郷である。

第2表　秋間石の主な石器・石製品

	出土・設置場所	時代
多孔石	東上秋間北原遺跡	原始
凹石	東上秋間北原遺跡	原始
小形石棺	東上秋間四本木原	古代
古墳切石	西上秋間二軒茶屋古墳	古代
磨鉢	東上秋間上久保遺跡	中世
聖観音	中秋間礼応寺	近世
六体地蔵幢	下後閑北野寺	近世
経典供養塔	東上秋間久保	近世
馬頭観音	下秋間舘	近世
石尊山石宮	東上秋間長岩	近世
石燈籠	西上秋間飽馬神社	近世
常夜燈	中野谷上宿	近代
御手洗石	鷲宮咲前神社	近代
鳥居	郷原日枝神社	近代
家屋台石	旧碓氷社、安中教会	近代

4．石器石材

東上秋間遺跡群は現在までに5遺跡が発掘されているが、発掘調査が進むにつれて、その数は増加するものと思われる。今回報告するのはすでに発掘を終えた北原遺跡と上久保遺跡についてである。

(1)　北原遺跡

出土した石器は石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、打製石斧、磨石、凹石、敲石、石皿、多孔石、石棒、磨製石斧、磨鉢、砥石などである（第3表)。ほとんどが縄文時代中～後期のもので、中世の磨鉢、砥石が僅かに含まれている。石鏃の製作には黒曜石、チャート、黒色安山岩、赤玉石が使用されている。黒曜石とチャートの砕片が遺跡から多量に出土していることから、黒曜石製石鏃・チャート製石鏃は原石が遺跡に持ち込まれ、遺跡内で製作が行われたものと考えられる。石匙、スクレイパー、打製石斧の製作には主に頁岩が使用されている。磨石、凹石、敲石、石皿には主に安山岩が使われている。石棒は特殊な白色の石英安山岩が使用され、同質の石材は遺跡周辺や近くの河川などにないことから、製品として持ち込まれたものと考えられる。また、磨製石斧は緑色岩類を使って作られており、やはり製品と

第3表　北原遺跡の石器石材

	黒曜石	チャート	黒色安山岩	赤玉石	頁岩	安山岩	秋間石	緑色岩類	計
石鏃	23	5	2	2					32
石錐	1								1
石匙					5				5
スクレイパー	2	1		1	41				45
打製石斧					49	13			62
磨石					1	48			49
凹石					1	48	1		50
敲石						4			4
石皿						2			2
環状石器						1			1
多孔石							1		1
石棒						2			2
磨製石斧								1	1
計	26	6	2	3	97	118	2	1	255

他に黒曜石の剥片・砕片203点、チャートの剥片・砕片31点、チャート石核4点及び中世の安山岩製磨鉢1点、流紋岩製砥石5点が出土した。

して持ち込まれた可能性が高い。地元産の秋間石は多孔石と凹石に使われている。磨鉢は安山岩で作られ、砥石は流紋岩が使用されている。

北原遺跡から出土した縄文時代の石器石材の総数は255点で、黒曜石、チャート、黒色安山岩、赤玉石、頁岩、安山岩、秋間石、緑色岩類である。安山岩、頁岩、黒曜石の３石材で全体の約95％を占め、安山岩が最も多い。

〈安山岩〉

色、鉱物粒度、表面の状態など多様な安山岩で、打製石斧、磨石、凹石、敲石、石皿、石棒などに使われ、磨石、凹石に多用されている。出土した安山岩は粗粒斑晶輝石安山岩、等粒斑晶輝石安山岩、大輝石斑晶輝石安山岩、含角閃石輝石安山岩、石英安山岩などに細分できる。秋間層中の角礫及び九十九川・碓氷川上流の新第三紀火山堆積物中のものであろう。

〈頁岩〉

表面が風化した灰色～黄灰色の頁岩で、石匙、スクレイパー、打製石斧の製作に使用されている。基色が黒色と青灰色のものがあり、黒色のものは中・古生層起源、青灰色のものは第三紀層起源のものと思われる。遺跡周辺、秋間川・九十九川・碓氷川の河川礫には石器石材になるような頁岩はなく、鏑川の河川礫を採取したのであろう。鏑川上流に分布する中・古生層、第三紀層中の頁岩である。

〈黒曜石〉

透明なものと半透明で黒色なものがあり、主に石鏃の製作に使われている。黒曜石の砕片が遺跡から多量に出土していることから、原石として遺跡に持ち込まれたものであろう。色、表面の模様、含有物などから信州産のものと思われる。

〈チャート〉

灰色～黒灰色の緻密潜晶質な岩石で、石鏃とスクレイパーに使用されている。チャートの石核、剥片、砕片が出土していることから、原石として遺跡に持ち込まれた可能性が高い。鏑川上流の中・古生層中のチャートで、鏑川で採取したものであろう。

〈赤玉石〉

赤色～茶色の硅質岩で、石鏃とスクレイパーの製作に使われている。鏑川上流の道平川ダム南方に分布する新第三紀火山堆積物中の安山岩の中に晶出する。鏑川で採取したものと思われる。

〈秋間石〉

灰色～灰褐色の溶結凝灰岩で、多孔石と凹石に使用されている。溶結構造のみられる斜長石、軽石、異質岩片などを含む安山岩質の溶結凝灰岩である。秋間層中の茶臼山溶結凝灰岩で、遺跡周辺に露出していたものを使用したのであろう。

〈黒色安山岩〉

黒色緻密な安山岩で、石鏃として２点出土している。形が小さく詳細は不明である。

〈緑色岩類〉

緑色で樹脂光沢のある重い岩石で、磨製石斧として１点出土するのみである。県南部に分布する御荷鉾緑色岩類であろう。

北原遺跡の石器石材は黒曜石を除き県内産のもので、多くは遺跡周辺及び秋間川、九十九川、碓氷川、鏑川で採取したものと考えられる。したがって、縄文時代の北原遺跡における石器石材入手の活動範囲は、遺跡からほぼ10km圏内にあるといえる。

(2) 上久保遺跡

出土した石器は縄文時代の石鏃、打製石斧、磨製石斧、石棒と中世の砥石、石皿、石臼、磨鉢、板碑、塔石などの石製品である（第４表）。

石器石材は縄文時代の頁岩、黒曜石、安山岩、緑色片岩、緑色岩類が13点と中世の安山岩、流紋岩、緑色片岩、秋間石の47点であった。安山岩、頁岩、黒曜石、緑色岩類、秋間石は、北原遺跡とほぼ同質のものである。

第４表　上久保遺跡の石器・石製品石材

	黒曜石	頁　岩	安山岩	秋間石	流紋岩	緑色片岩	緑色岩類	計
石　鏃	4							4
打製石斧		6	1					7
磨製石斧							1	1
石　棒						1		1
砥　石			1		14			15
石　皿			1					1
石　臼			14					14
磨　鉢			1	1				2
板　碑						14		14
塔　石			1					1
計	4	6	19	1	14	15	1	60

〈緑色片岩〉

緑色の結晶片岩で、点紋のあるものとないものがある。緑泥片岩を主とし、中世の板碑破片として出土する。製品として遺跡付近に持ち込まれ、破壊されて捨てられたものであろう。県南部に分布する三波川変成岩中の結晶片岩である。

〈流紋岩〉

白色細粒な岩石で、中世の砥石に使用されている。14点出土する流紋岩の砥石は同じ形をしており、規格品である。製品として遺跡に持ち込まれたものであろう。遺跡周辺に産出地はなく、鏑川上流の砥沢にその産出が知られている。

東上秋間遺跡群の縄文時代石器石材は、安山岩、頁岩、黒曜石、チャート、赤玉石、秋間石、緑色岩類、黒色安山岩、結晶片岩である。安山岩と頁岩が際だって多い。黒曜石、チャートは原石として遺跡に持ち込まれ、緑色岩類、結晶片岩は製品となったものを持ち込んだ可能性が高い。

縄文時代の群馬県西部における３遺跡の石器石材組成をグラフで表すと第４図のようになる。北原遺跡は安山岩と頁岩が主体で、安山岩が最も多い。中原遺跡では頁岩と安山岩が主体で、頁岩が最も多い。北山Ｂ遺跡は頁岩、結晶片岩、チャートが主体で、頁岩が最も多い。３遺跡とも頁岩が多いのは、縄文時代には打製石斧が大量に作られ、それに頁岩が主に使われたこと及び頁岩は主に鏑川で採取され、鏑川が３遺跡の石材採取圏内にあることなどが考えられる。北原遺跡に安山岩が最も多いのは、遺跡周辺、秋間川・九十九川・碓氷川の河川礫がほとんど安山岩であることによる。中原遺跡に安山岩が多いのは、遺跡周辺の段丘礫、碓氷川の河川礫のほとんどが安山岩であることによるだろう。北山Ｂ遺跡に結晶片岩、チャートが多いのは、近くの鮎川・神流川の河川礫に結晶片岩やチャートが多いことによると考えられる。

中世の石材は安山岩、流紋岩、緑色片岩、秋間石で、安山岩、流紋岩、緑色片岩が主なものである。安山岩は石臼、磨鉢、石皿などに、流紋岩は砥石に、緑色片岩は板碑にそれぞれ使われている。中世石材は製品として持ち込まれたものであろう。

参考文献

秋間団体研究グループ（1971）　群馬県安中市北部の新第三系．地球科学，25-５，Ｐ219～226．

安中市社会福祉協議会秋間支部（1994）　秋間の石造文化財．

磯貝基一・周藤賢治・富樫敬吾（1976）　群馬県南西部の秋間層，相間川層及び剣ヶ峰層中の火山岩類の岩石学的研究．岩石鉱物鉱床学会誌，71-２，Ｐ50-59．

磯貝基一・大工原豊（1993）石器石材の分析．大下原遺跡・吉田原遺跡，Ｐ244-254，安中市教育委員会．

磯貝基一（1994）　石器石材分析―安山岩製石器石材について―．中野谷地区遺跡群―自然科学編―，Ｐ103-110，安中市教育委員会．

磯貝基一（1995）　群馬における石器石材．石器石材―予稿集―，Ｐ７-12，岩宿文化資料館．

尾崎公彦・石井淑子・茂呂徹（1981）　群馬県安中市周辺の板鼻・秋間層産化石植物群．横浜国立大学理科紀要，２-28，Ｐ77-89．

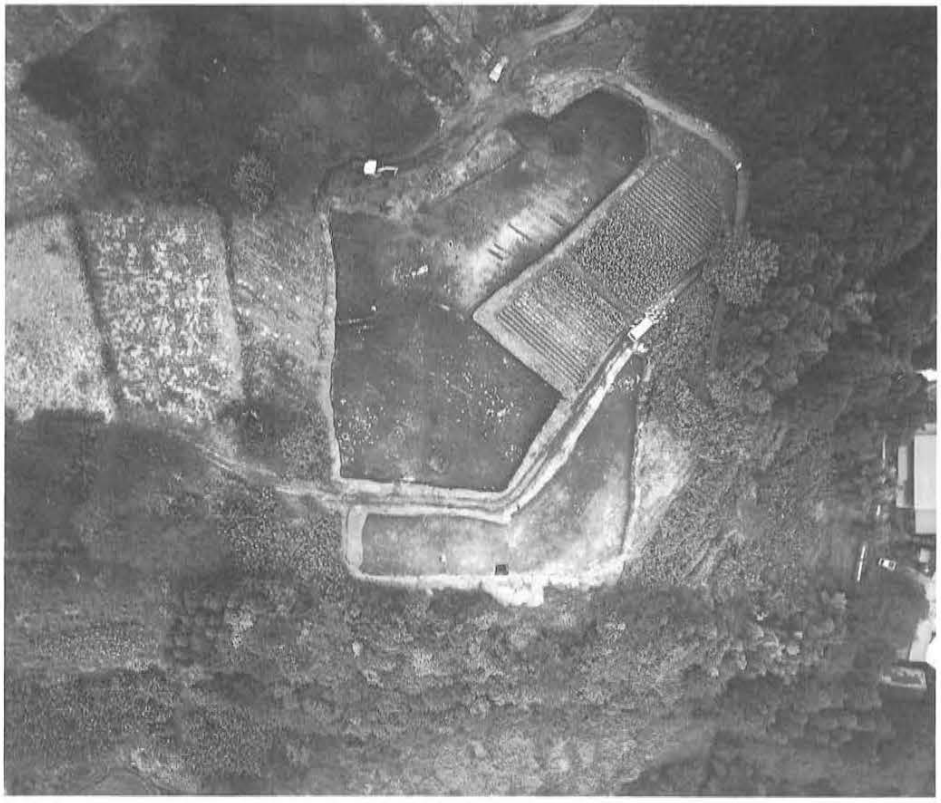
小林二三雄（1993）　安中市内の板鼻層について．シモアキマカイギュウ発掘調査報告書，Ｐ４-18，安中市教育委員会．

野村哲・小坂共栄（1987）　群馬県西部の新第三系の地質構造発達史．群馬大学教養部紀要，21，Ｐ51-68．

野村哲・海老原充（1988）　群馬県西部新生代火山岩類のK-Ar年代と古地磁気．群馬大学教養部紀要，22，Ｐ65-78．

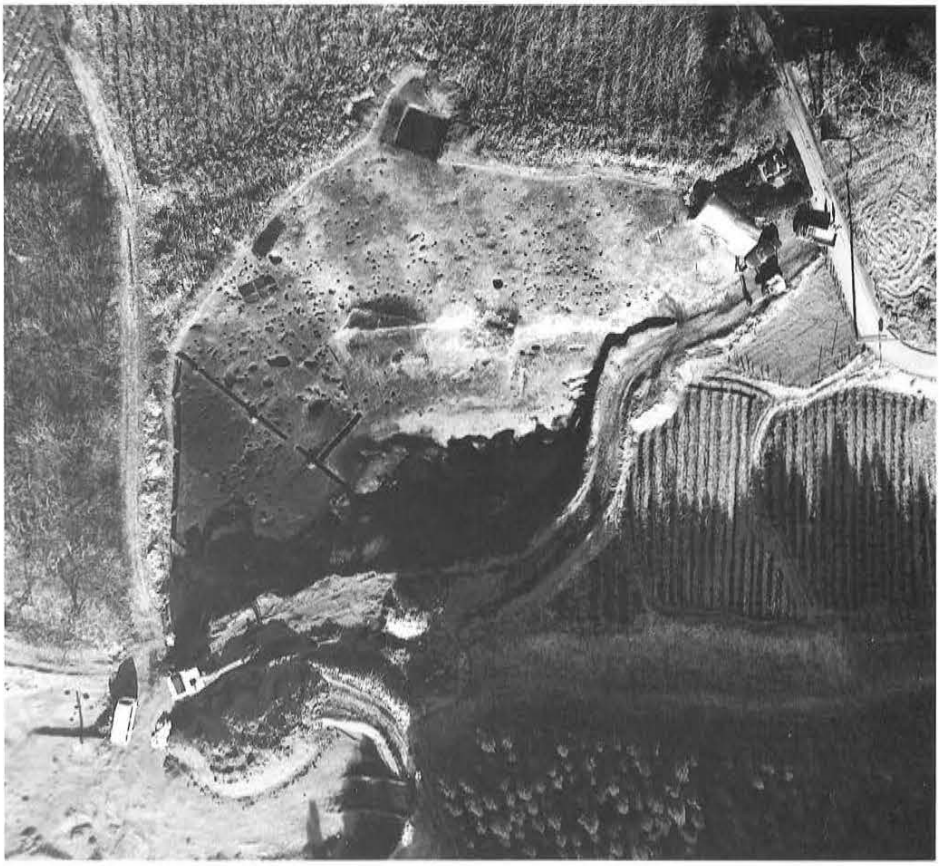
写　真　図　版

北原遺跡全景

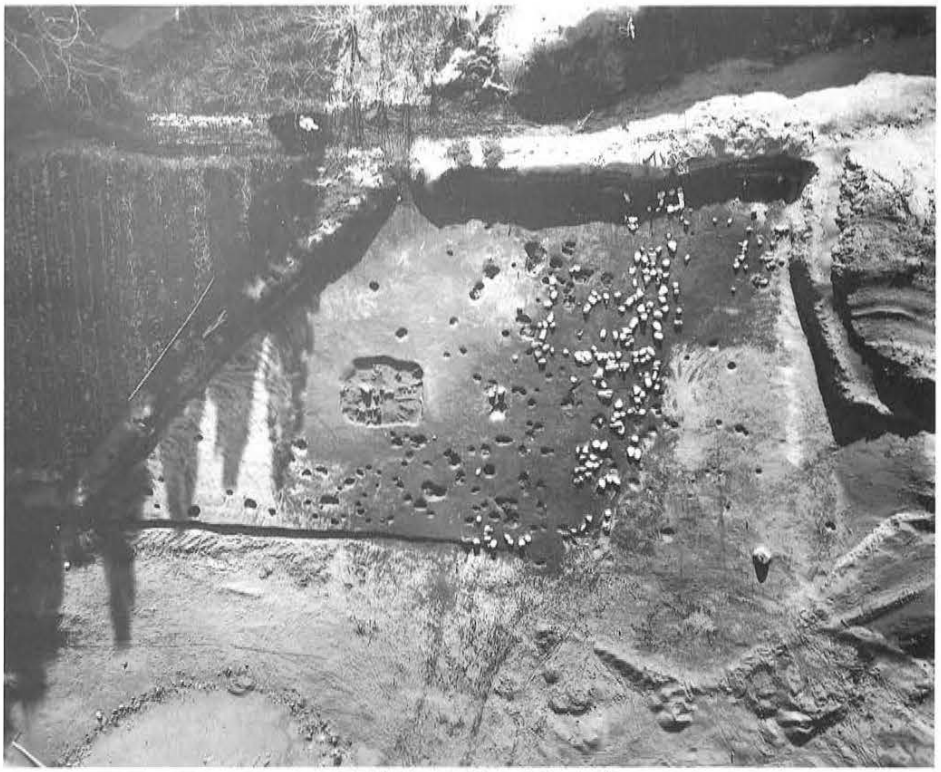


北原遺跡A区全景

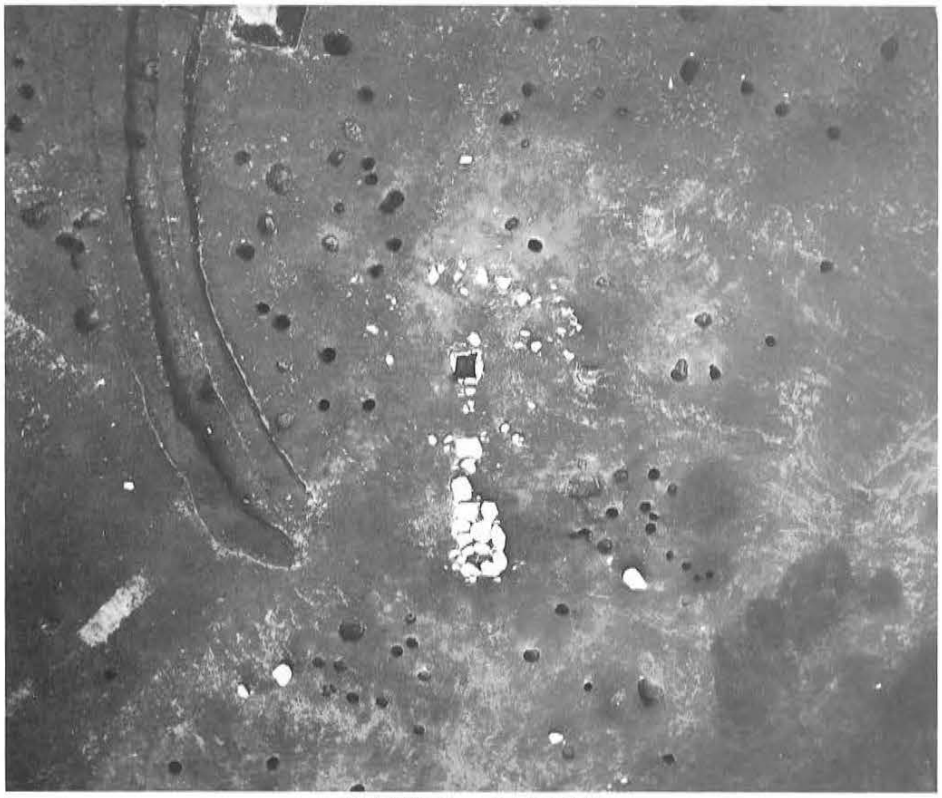
図版— 2



北原遺跡B区全景



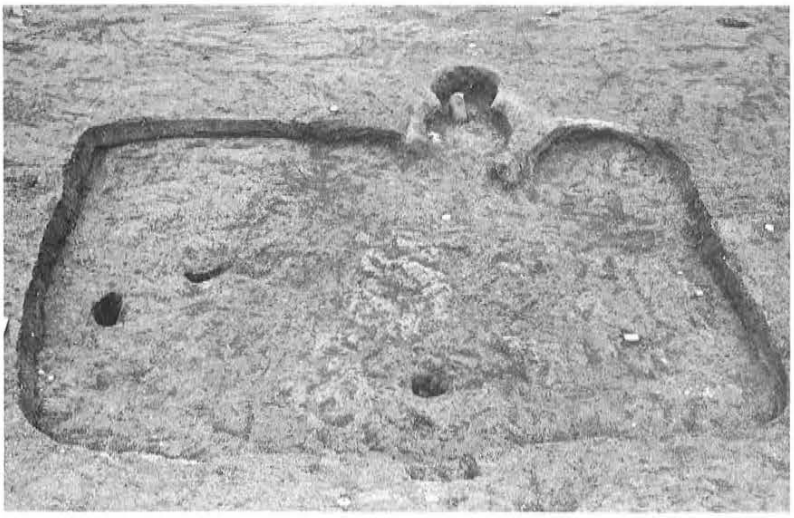
北原遺跡A区追加部分全景



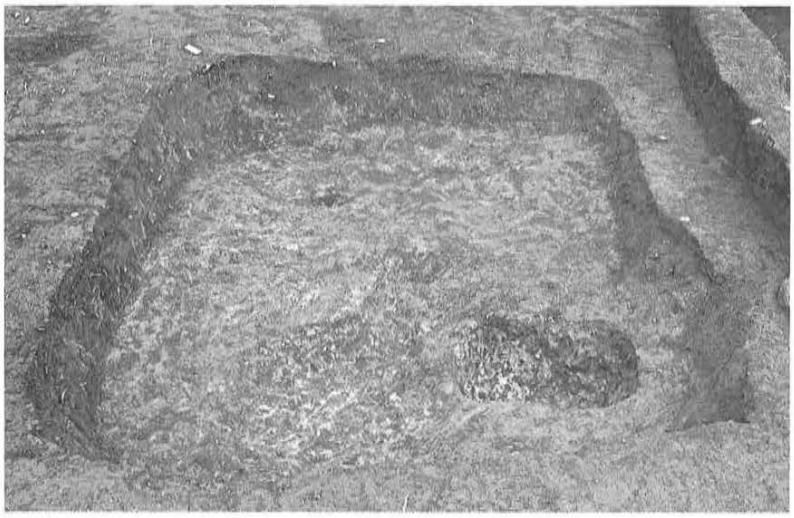
北原遺跡 J — 1 号住全景

北原遺跡 J — 2 号住全景

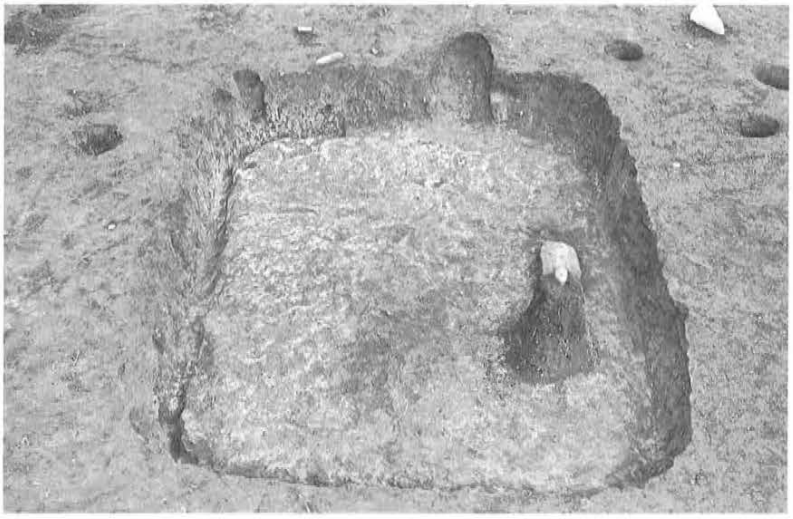
図版－4



北原遺跡Ａ区Ｈ－１号住全景

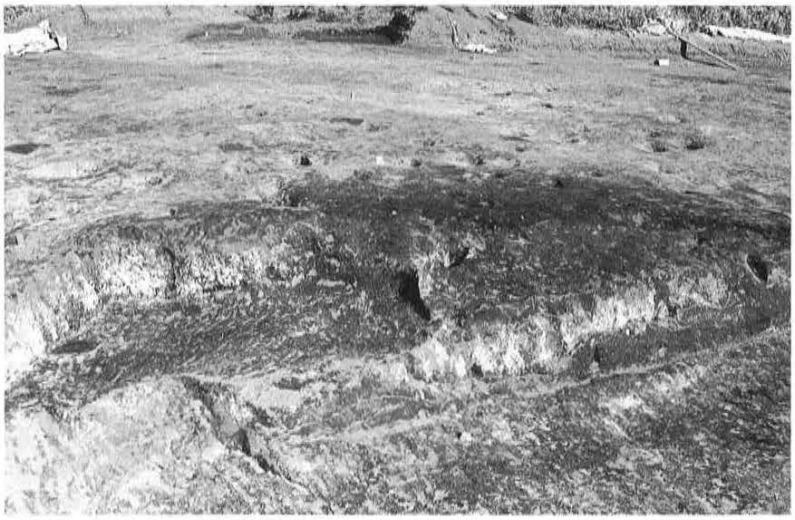


北原遺跡Ａ区Ｈ－２号住全景

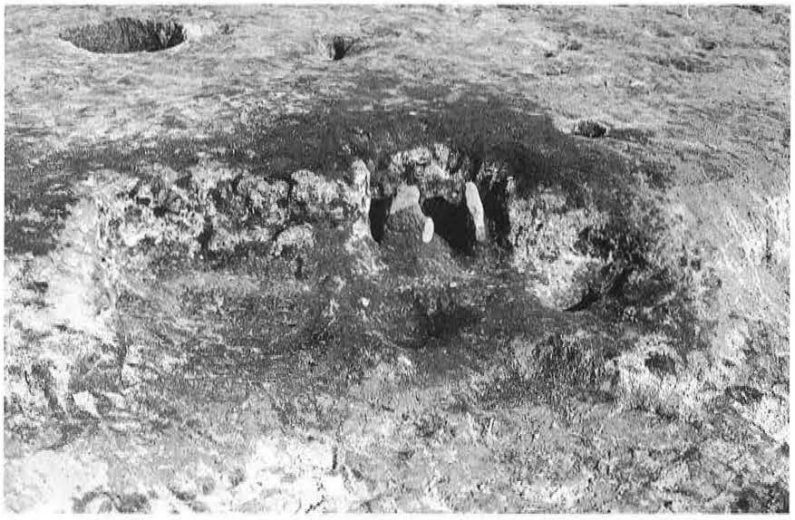


北原遺跡Ａ区Ｈ－３号住全景

北原遺跡Ａ区Ｈ－４号住全景

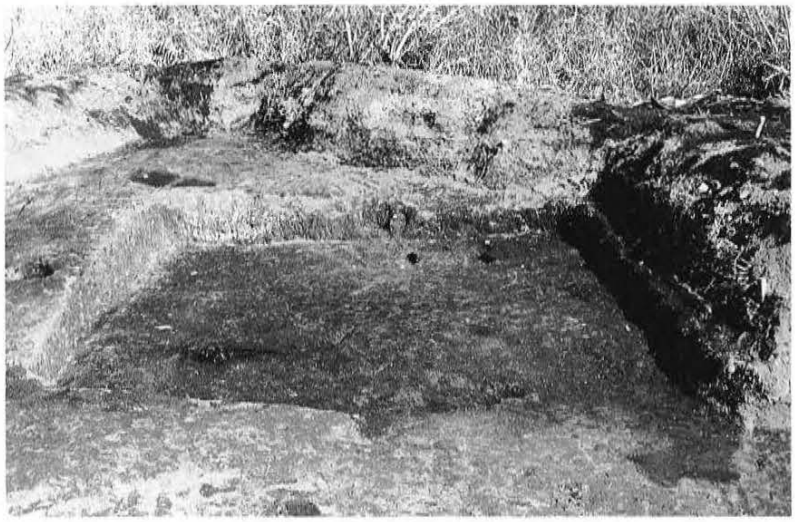


北原遺跡Ｂ区Ｈ－５ａ、５ｂ号住全景



北原遺跡Ｂ区Ｈ－６号住全景

図版－6

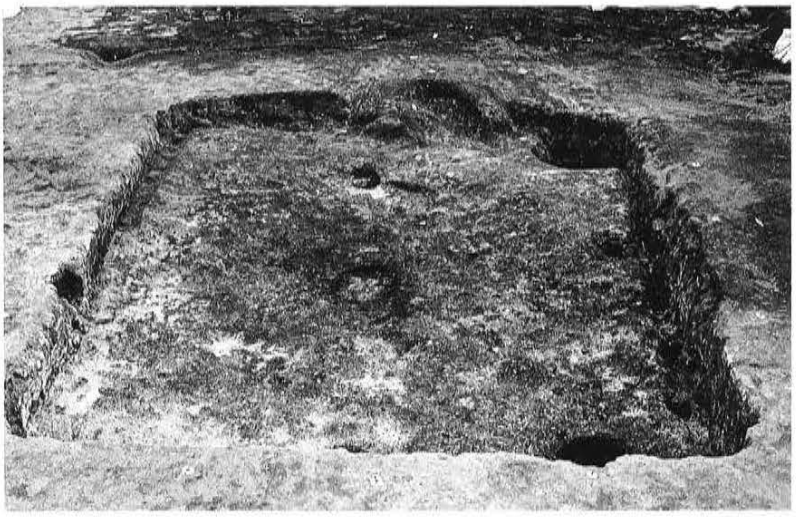


北原遺跡Ｂ区Ｈ－７号住全景

北原遺跡Ｂ区Ｈ－８号住全景

北原遺跡Ｃ区Ｈ－９号住全景

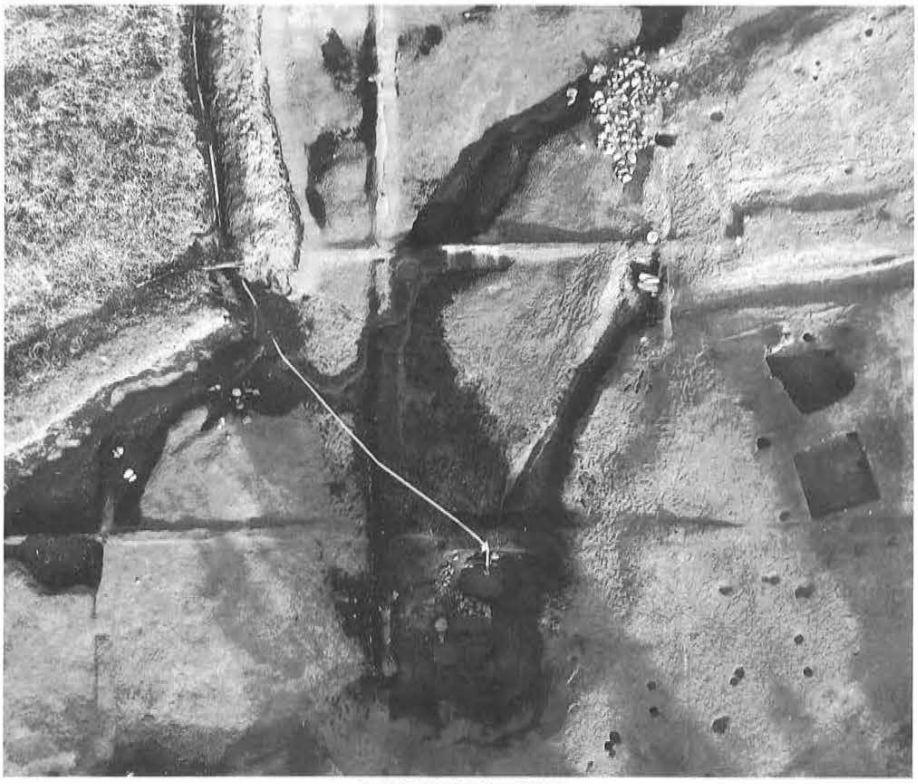
北原遺跡C区H—10号住全景



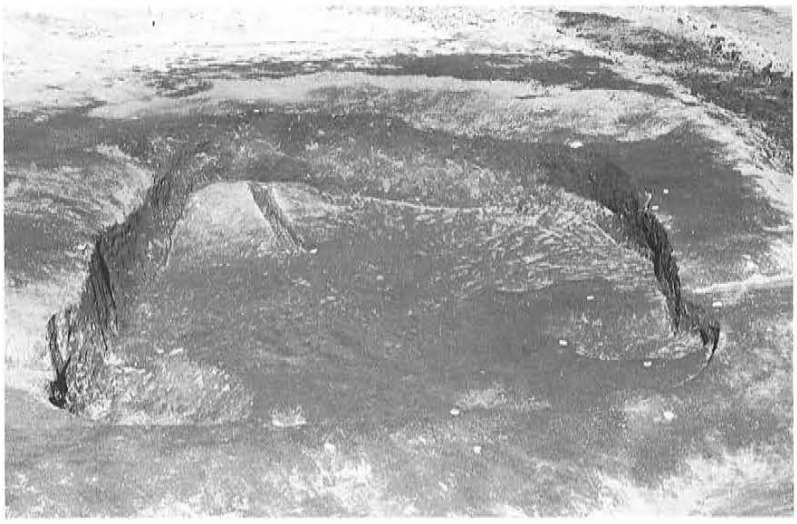
北原遺跡C区H—11号住全景

図版－8

上久保遺跡全景



上久保遺跡井戸周辺



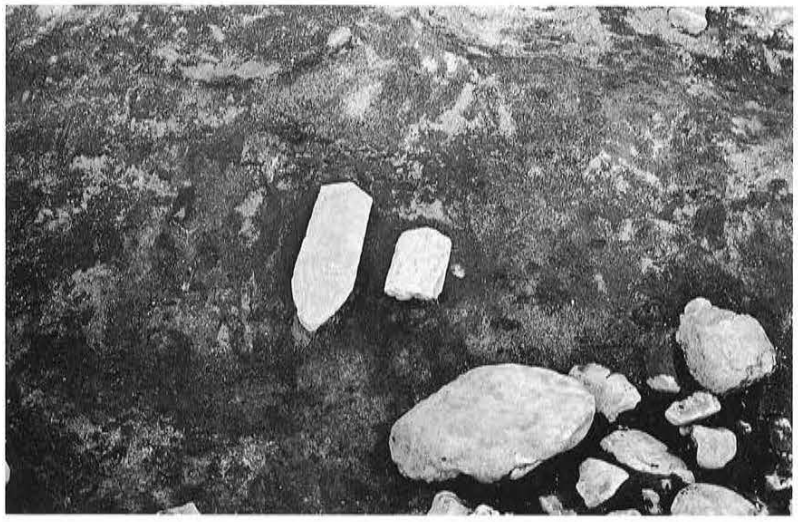
上久保遺跡H－1号住全景

上久保遺跡井戸全景

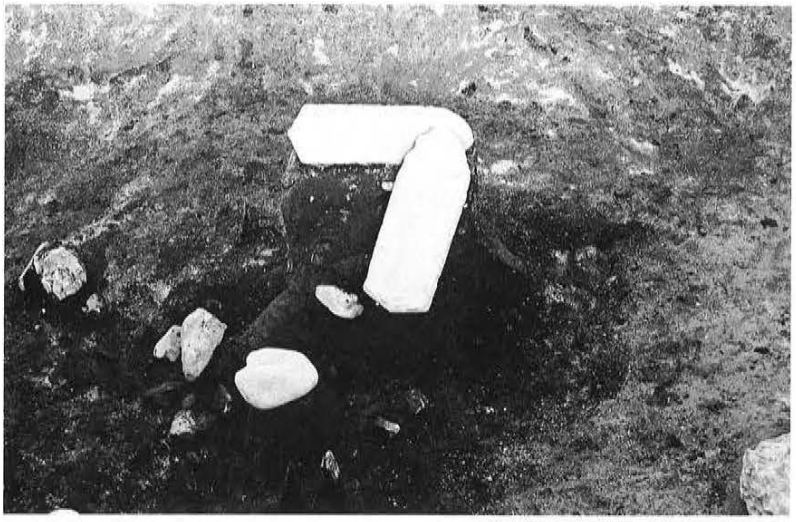
上久保遺跡T－3竪穴状遺構全景

図版—10

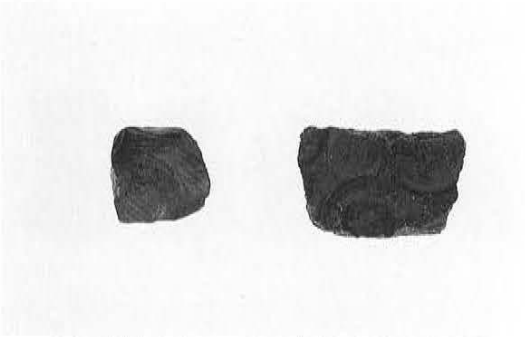
上久保遺跡M—2号全景

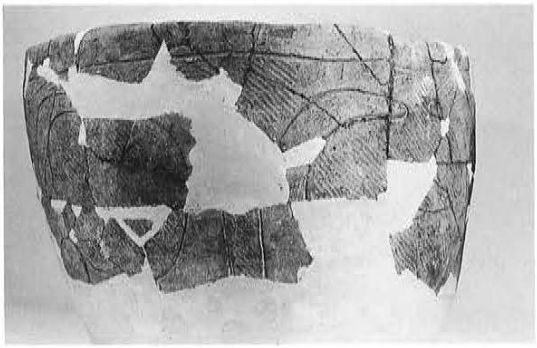


上久保遺跡板碑出土状態

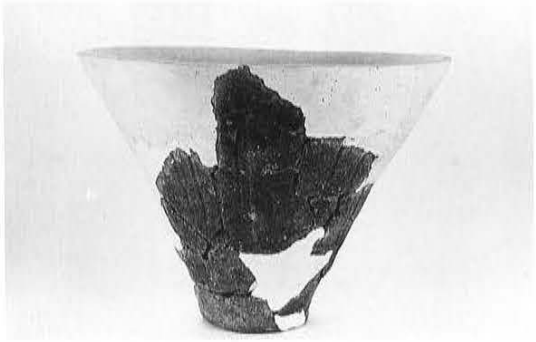


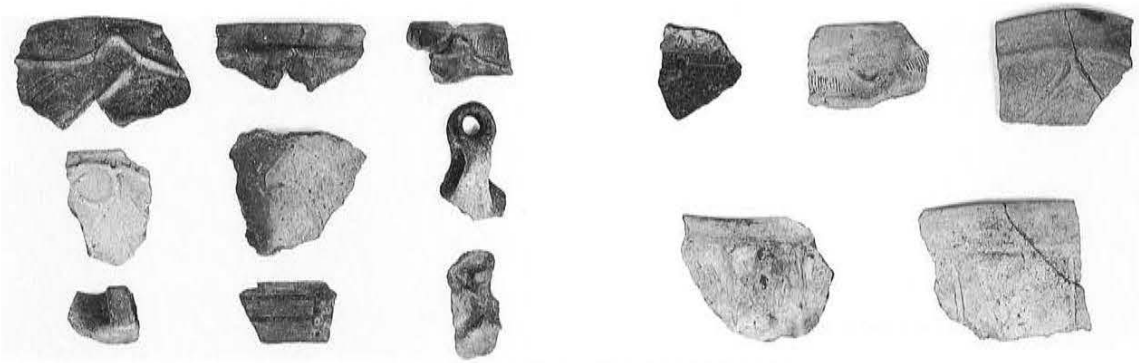
上久保遺跡板碑出土状態



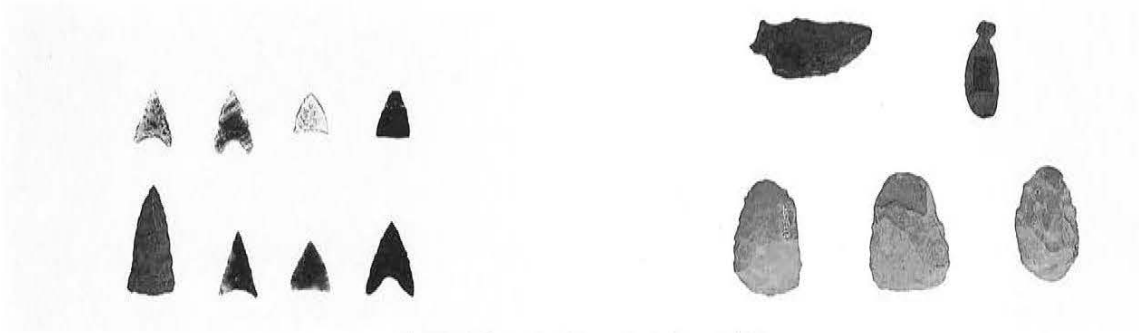


北原遺跡Ａ区Ｊ－１号住出土の縄文土器



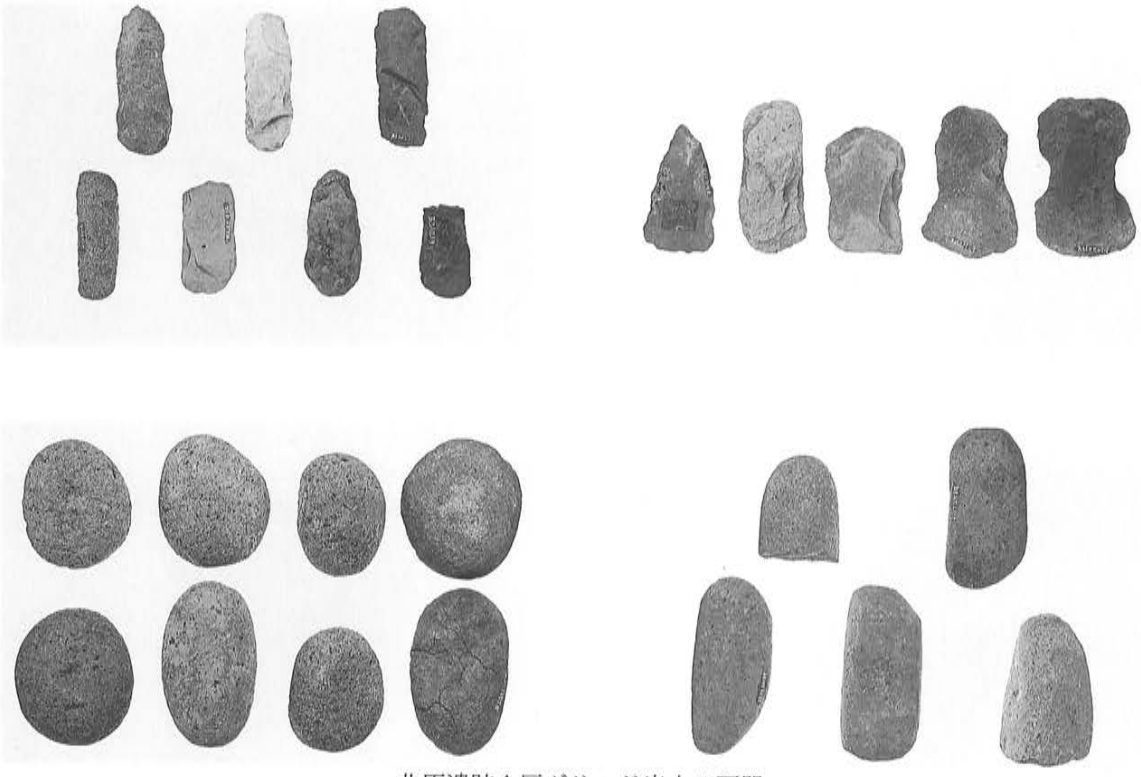


北原遺跡Ａ区グリッド出土の縄文土器



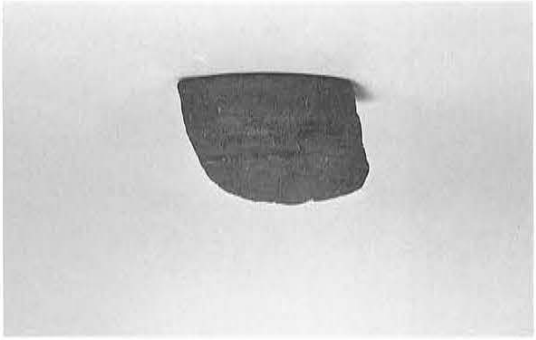
北原遺跡Ａ区グリッド出土の石器

図版―12

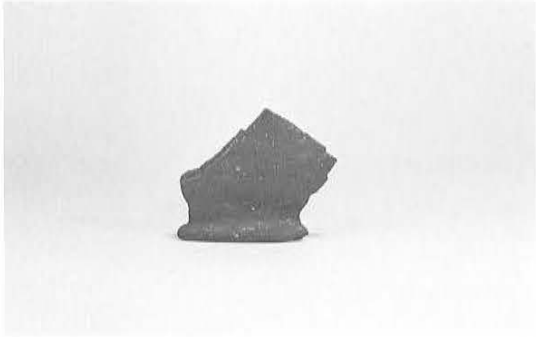
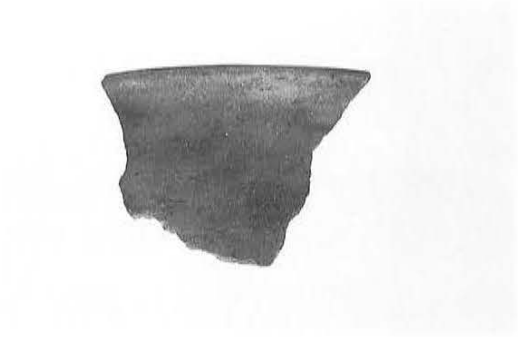


北原遺跡A区グリッド出土の石器

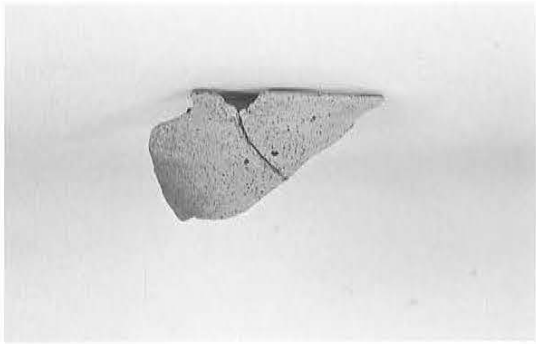
H－1号住



H－1号住

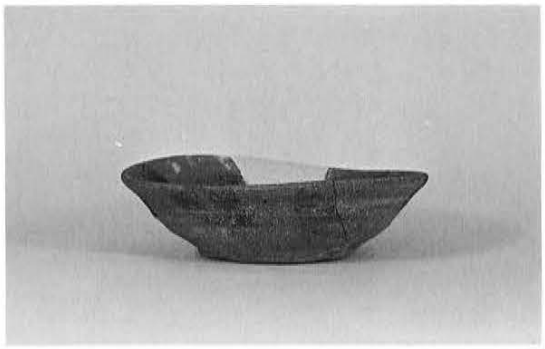
H－1号住



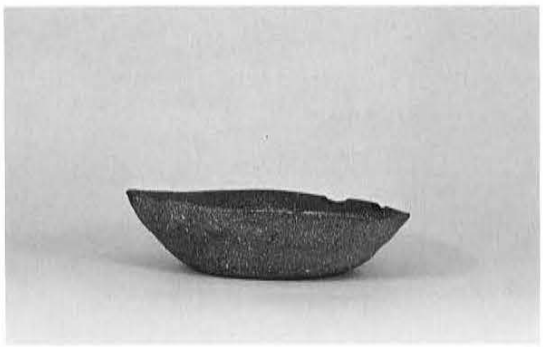
H－2号住

北原遺跡A区住居址出土の遺物(1)

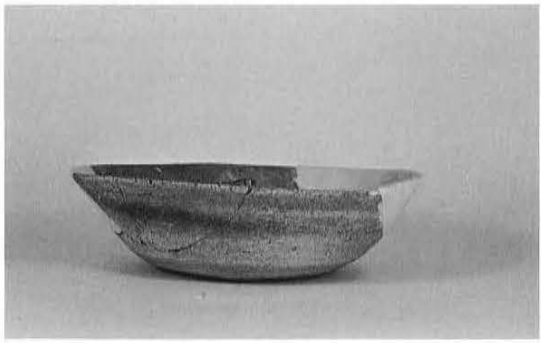
図版―14



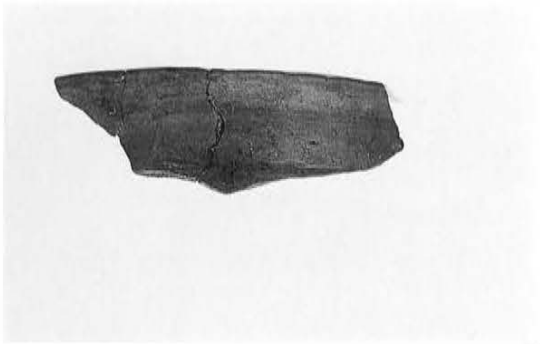
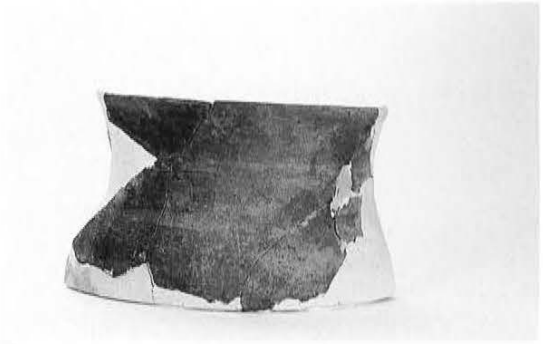
H－3号住



H－3号住



H－3号住

H－3号住

北原遺跡A区住居址出土の遺物(2)

H—4号住

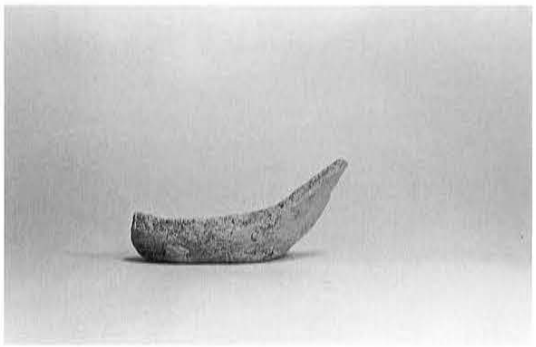
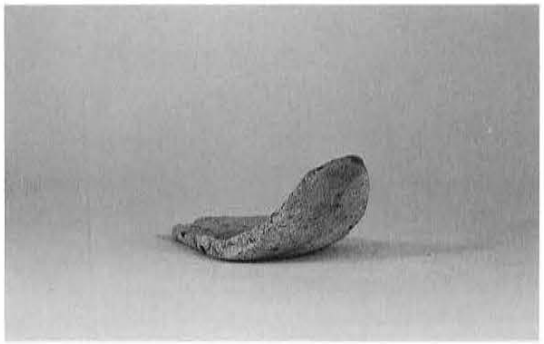
H—4号住

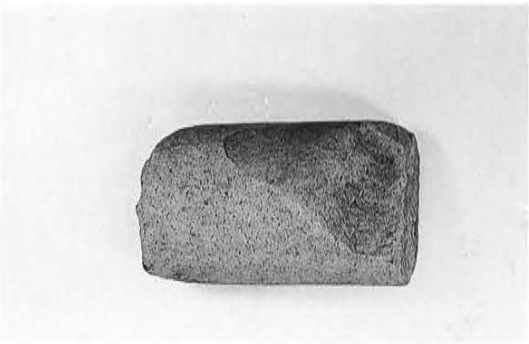
H—4号住

H—4号住

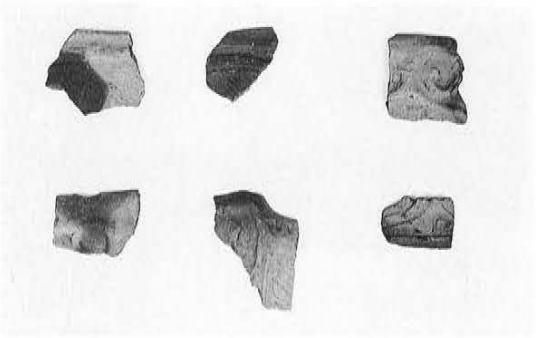
北原遺跡A区住居址出土の遺物(3)

図版—16

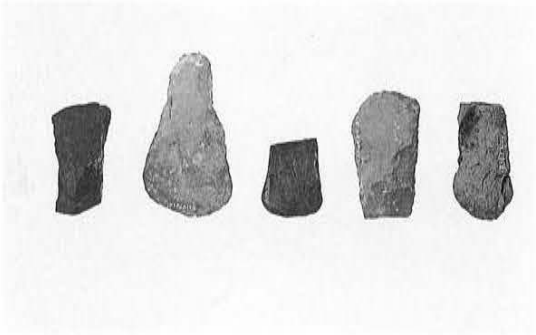



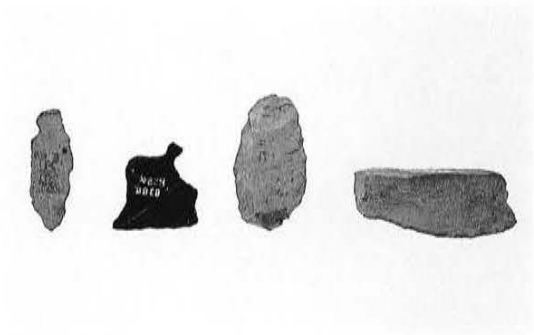


北原遺跡A区グリッド出土の遺物

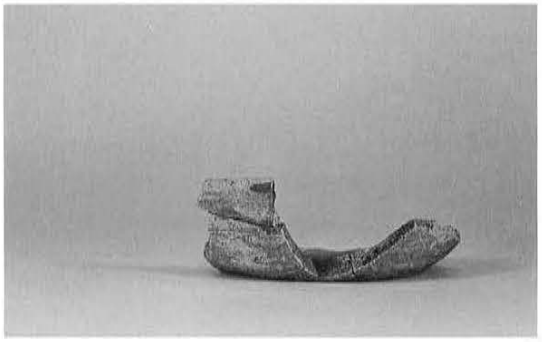


北原遺跡B区グリッド出土の縄文土器



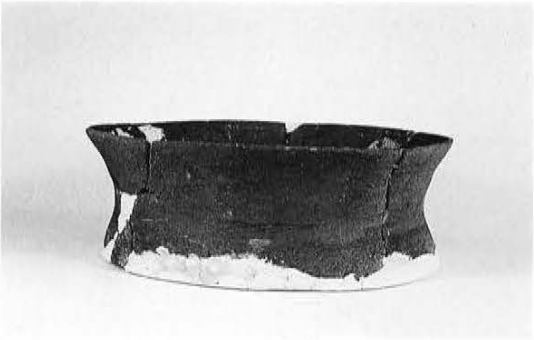


北原遺跡B区グリッド出土の石器



H—5号住

H—5号住

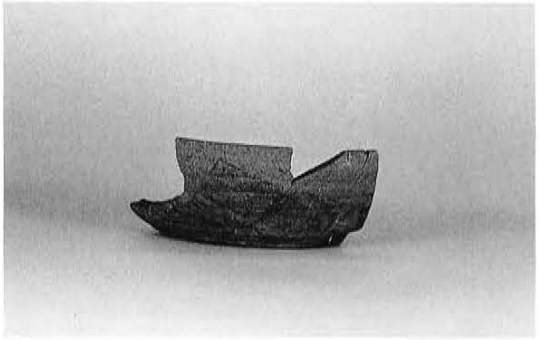


H—6号住

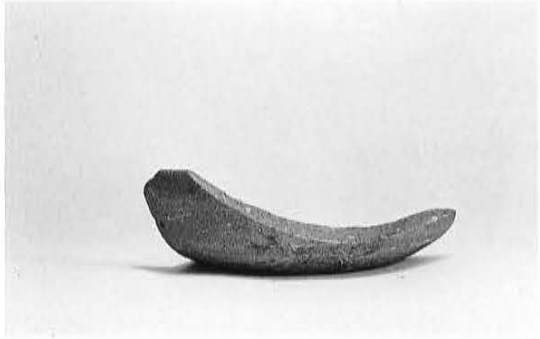
北原遺跡B区住居址出土の遺物

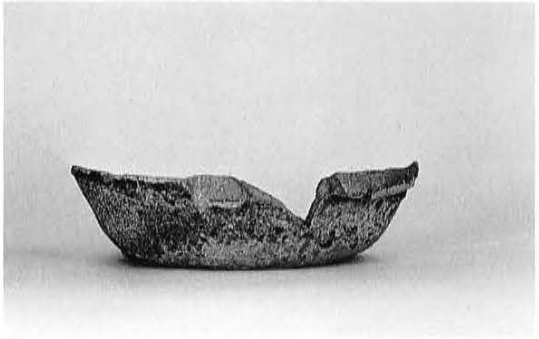
図版—18

H－7号住



H－8号住



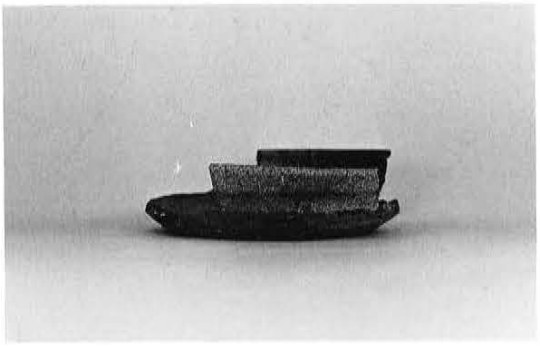


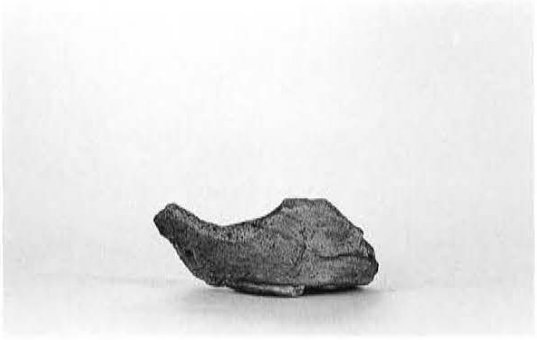
H－8号住

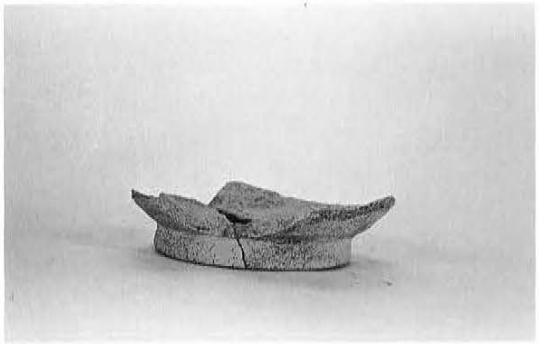
H－8号住

H－8号住

北原遺跡B区住居址出土の遺物

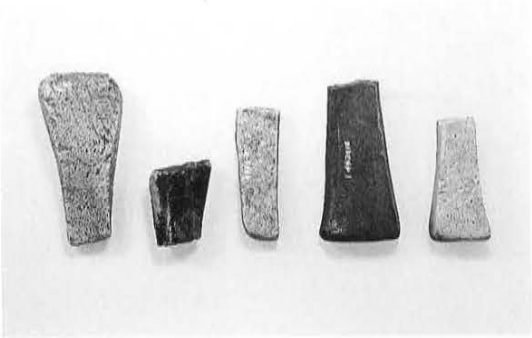


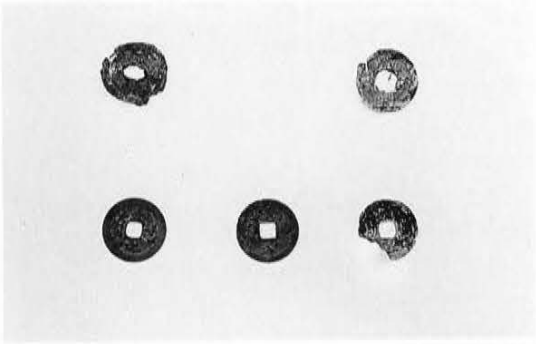




北原遺跡Ｂ区グリッド出土の遺物

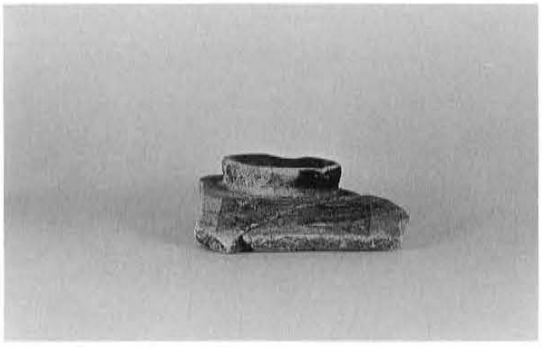
図版—20





北原遺跡B区グリッド出土の遺物

H－9号住



H－9号住

H－9号住

H－9号住

北原遺跡C区住居址出土の遺物(1)

図版—22

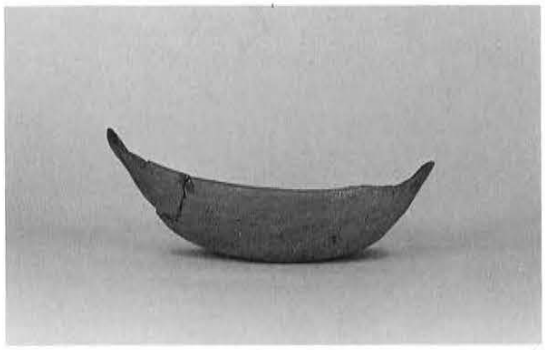
H—9号住

H—9号住

H—10号住

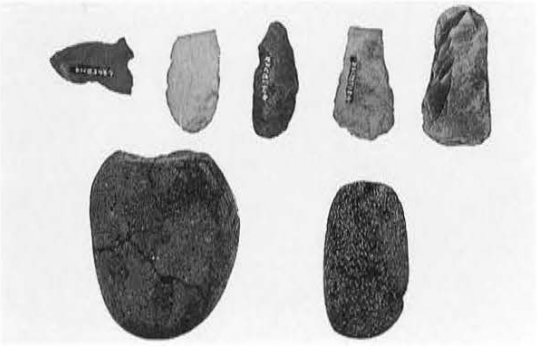
H—10号住　　H—11号住

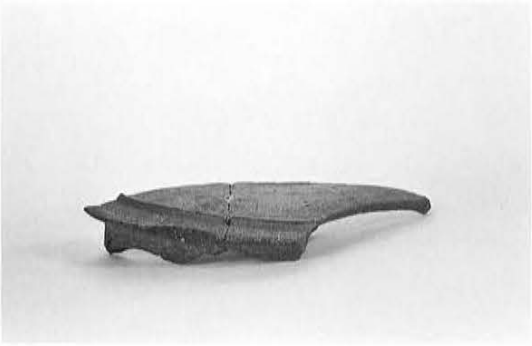
北原遺跡C区住居址出土の遺物(2)



H—11号住

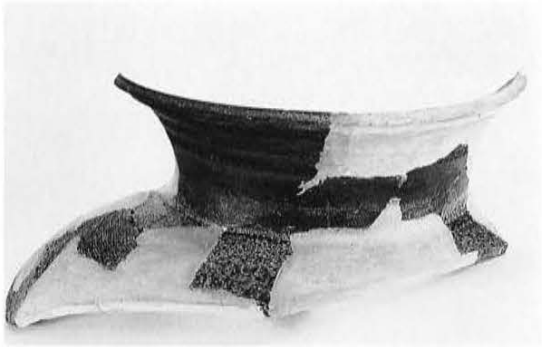
北原遺跡C区住居址出土の遺物(3)

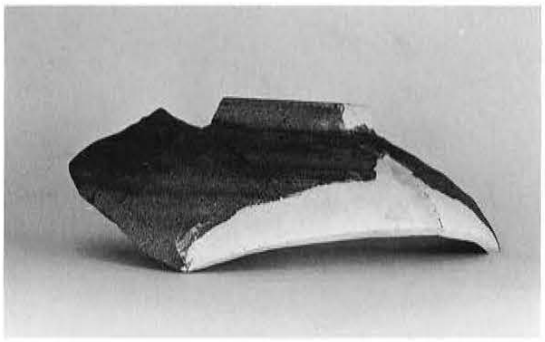
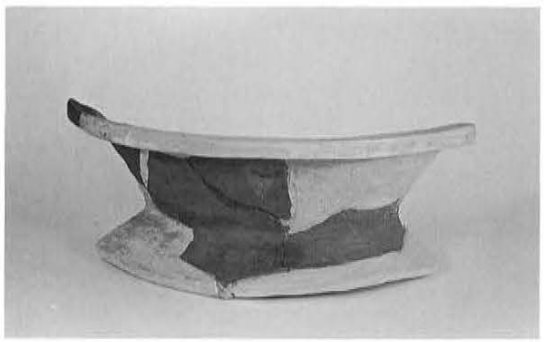




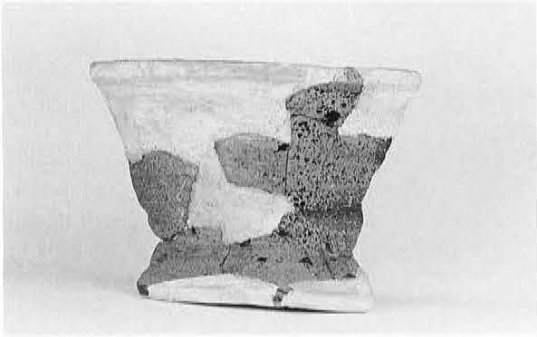
北原遺跡C区グリッド出土の遺物(1)

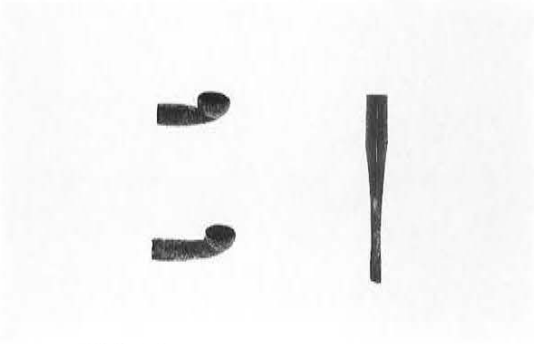
図版—24



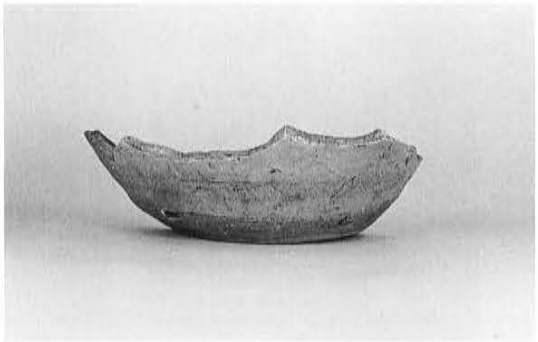
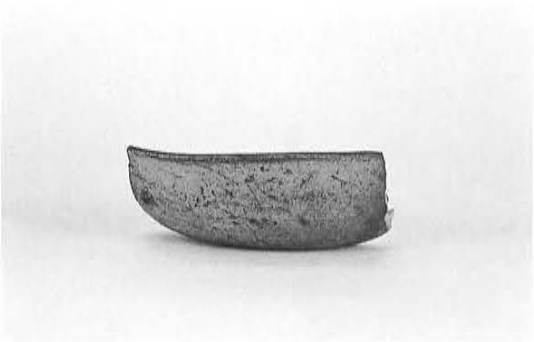
北原遺跡C区グリッド出土の遺物(2)





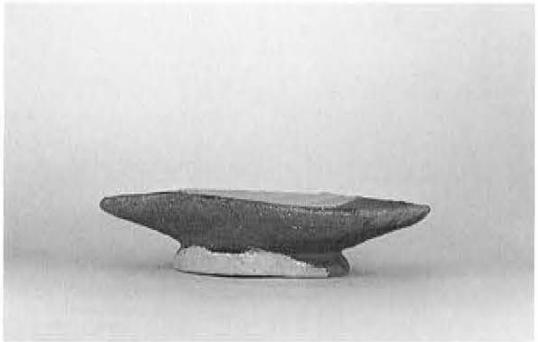
北原遺跡C区グリッド出土の遺物(3)

H－1号住

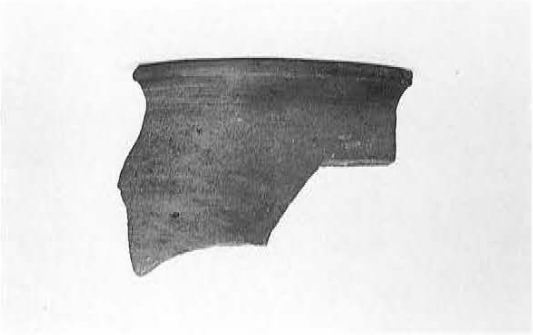
H－1号住

H－1号住



H－1号住

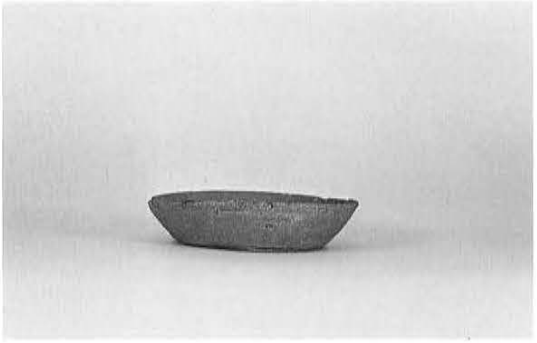
上久保遺跡住居址出土の遺物(1)



H－1号住

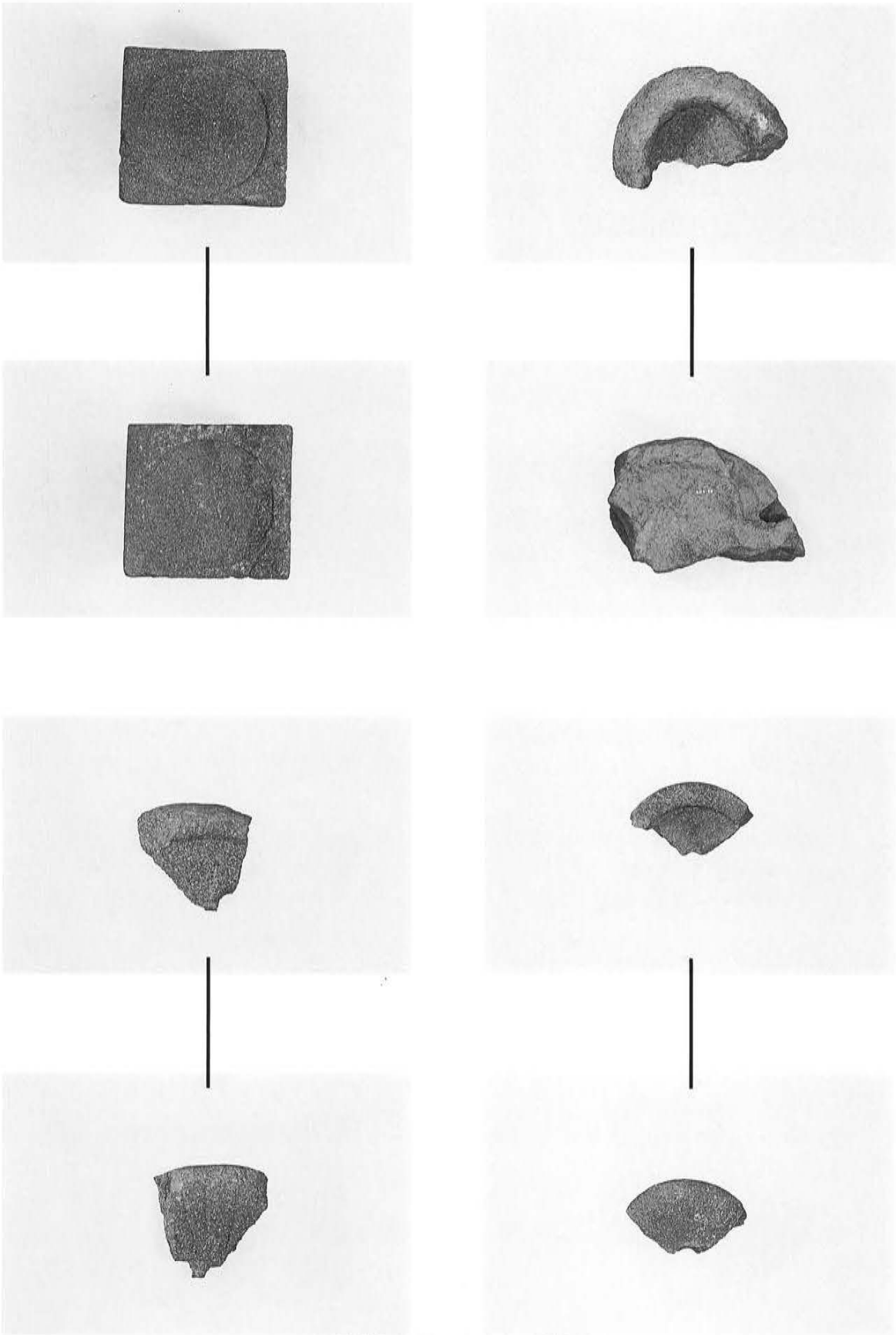
H－1号住

上久保遺跡住居址出土の遺物(2)

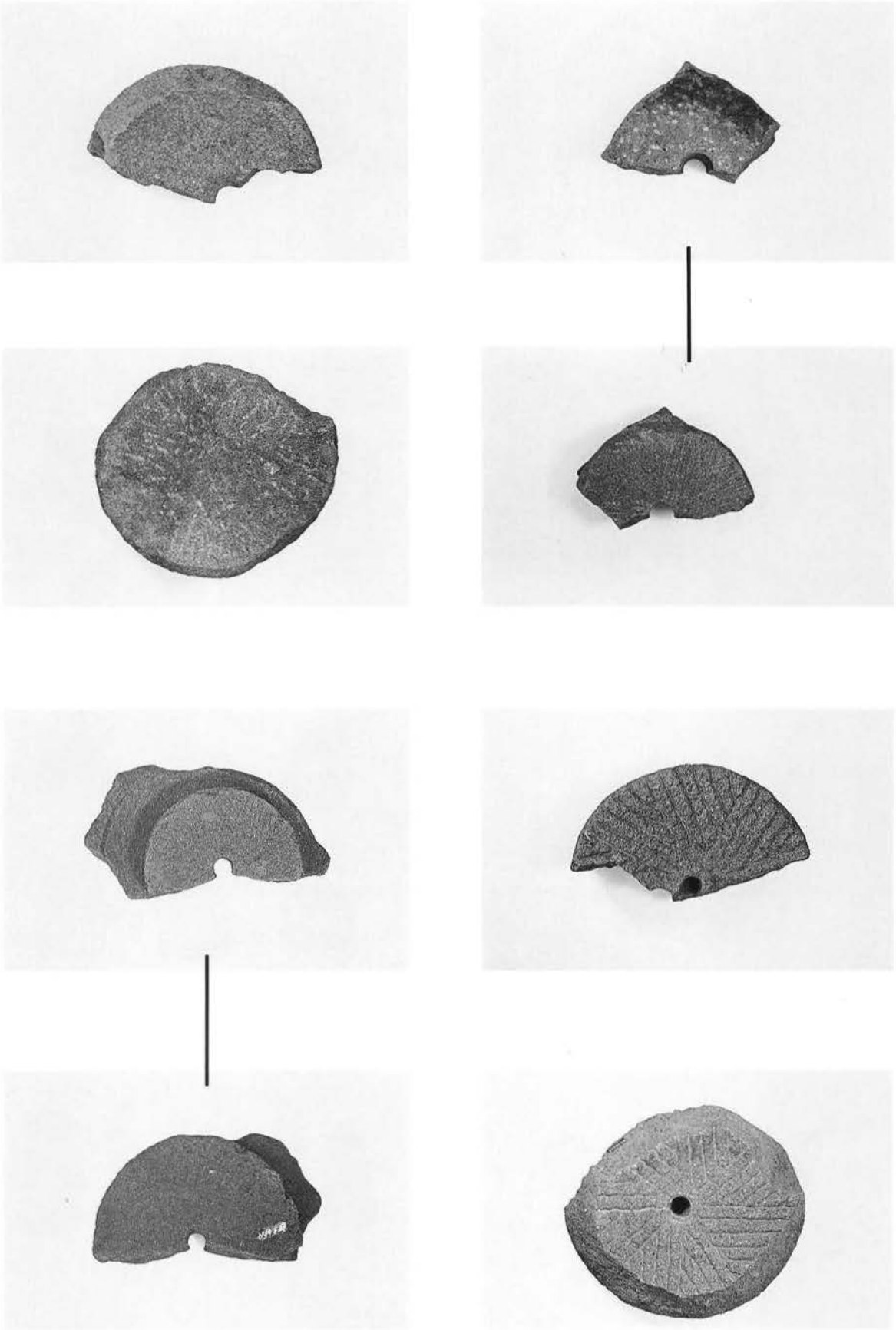


上久保遺跡グリッド出土の遺物(1)

図版—28

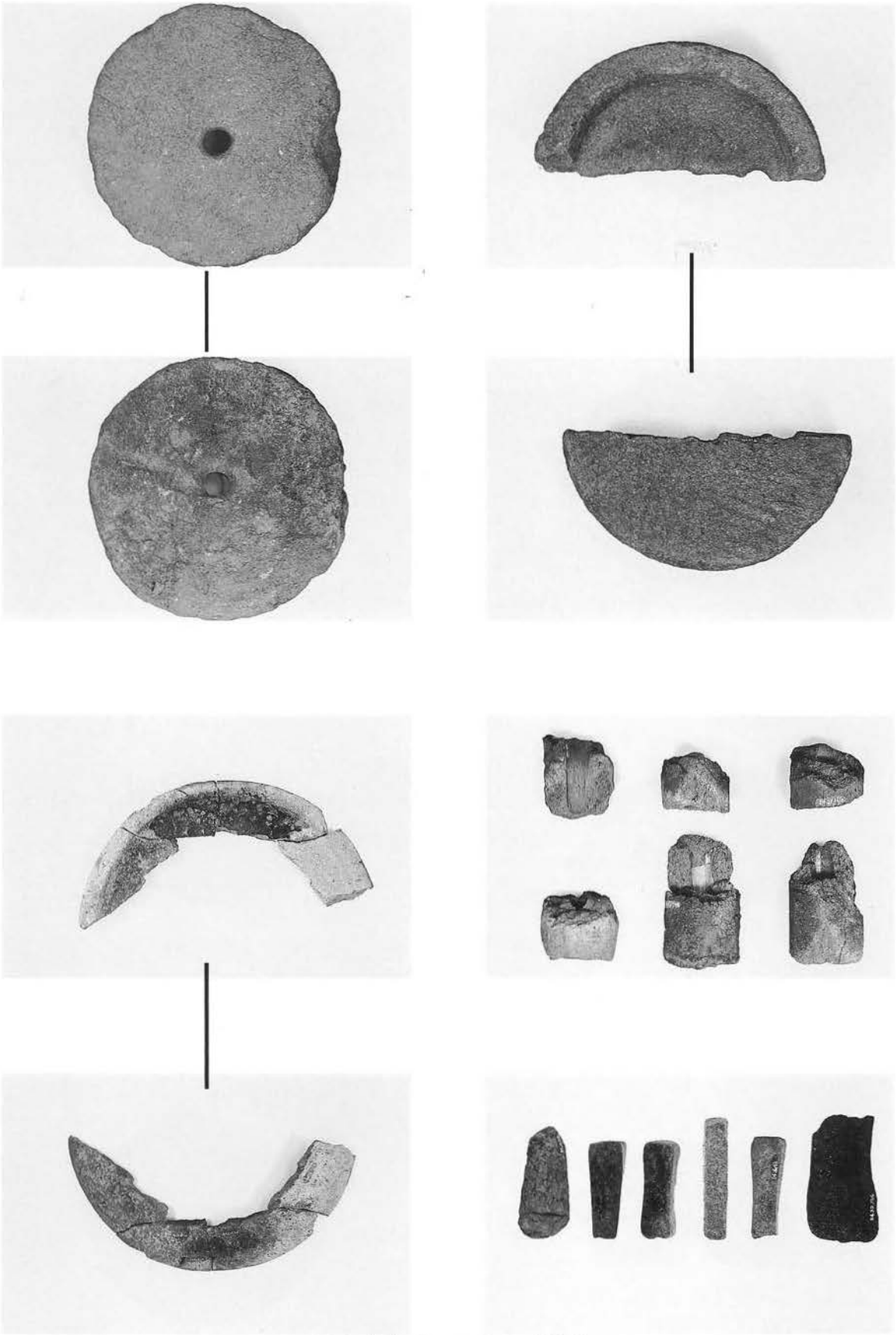


上久保遺跡グリッド出土の遺物(2)

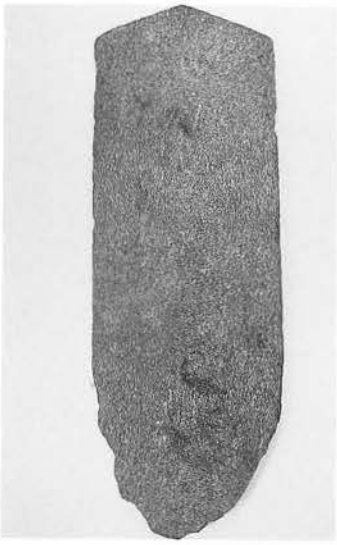
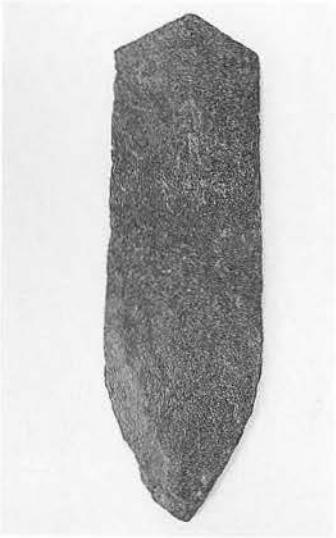
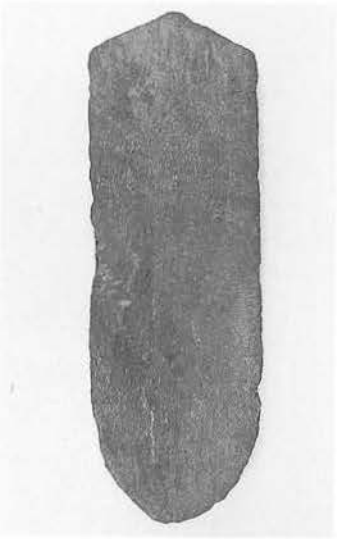


上久保遺跡グリッド出土の遺物(3)

図版—30



上久保遺跡グリッド出土の遺物(4)

上久保遺跡グリッド出土の遺物(5)

北原遺跡・上久保遺跡

—東上秋間原市線道路改築工事　下仁田安中倉淵線単独地方特定道路整備工事
下仁田安中倉淵補助道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発　行　日　　平成8年3月31日
編集・発行　　安中市教育委員会
群馬県安中市安中1丁目23－13
印　　刷　　朝日印刷工業株式会社